

物 權 編

其賣主ノ代價ノ辨濟ヲ受クヘキ債權ハ他ノ債權者ニ優先シテ之ヲ受ケシムルニアラサレハ債權者間ノ公平ヲ保ツル能ハス是レ法律カ賣主ニ先取特權ヲ附與シタル所以ナリ

買主代價ヲ辨濟セサルトキハ賣主ニシテ未タ其物件ヲ引渡サルハトキハ其賣渡シタル不動産ヲ留置スルノ權利ヲ有ス第二百五九條此ノ留置權ナル物上擔保ハ其不動産ヲ賣却シテ以テ辨濟ニ當ツルコトヲ得ス從テ擔保ノ效力不充分ナルヲ以テ法律ハ其上ニ尙ホ先取特權ナル擔保ヲ附與シタリ

賣主ノ先取特權ハ即チ賣買ノ代價ヲ得ヘキ債權ニ與エタル特權ナルヲ以テ其特權ヲシテ存在セシムルニハ賣買アルコトヲ要ス舊法第六百六條ニ於テハ不動産ノ賣買ニ付テ先取特權ヲ與フルノミナラス汎ク其讓渡シヨリ生シタル債權ニ此特別擔保ヲ付與セリ故ニ讓渡ノ對價ヲ得ヘキ債權ニハ凡テ先取特權アリテ賣買ノ代價及利息ハ勿論交換ノ補足額贈與ノ負擔其他一般ニ讓渡ノ對價及ヒ負擔ニ付キ先取特權アリテ只賣買アルコトヲ要スルニ止マラザリキ本法ハ其先取特權ノ區域ヲ確實ナラシムルカ爲メ之ヲ賣買ナル行爲ニ制限セリ故ニ

物 權 編

此先取特權ノ成立ニハ賣買アルノミヲ以テ足レリトス然レモ不動産賣買ノ先取特權ニ付テ見タル如ク交換ノ補足額ハ賣買ノ代價ト同一視スルノ精神ナルヲ以テ第五百八條其補足額ヲ受クヘキ債權ニハ此不動産ノ先取特權アリトス例エハ甲カ有スル千圓ノ地所ト乙カ有スル千五百圓ノ地所ト交換スルトキハ相方ノ間平均ヲ得サルヲ以テ甲ヨリ超過額ノ五百圓ヲ乙ニ支拂フヲ以テ交換ヲ結了スルモノトスレハ補足額五百圓ハ其實甲者カ受取リタル地所ニ對スル代價ニ外ナラサレハ若シ甲者カ無資力ト爲リ五百圓ヲ辨濟スルコトヲ得サルトキハ乙者ハ己レヨリ甲者ニ渡シタル不動産ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘキナリ又甲者カ有スル千圓ノ動産ト乙者ノ有スル千五百圓ノ地所トヲ交換シ甲者ヨリ五百圓ヲ補足額トシテ拂フヘキトキハ乙者ハ其五百圓ノ債權ニ付テハ甲者ニ渡シタル地所ノ上ニ先取特權ヲ有スヘシ

不動産ノ賣主ハ先取特權ヲ有スト雖モ買戻ノ特約第五百七條ヲ附シ不動産ヲ買得シタル者カ其賣主ヨリ買戻ヲ實行セラシ賣主原代價ヲ辨償セサルキ買主ハ其不動産ノ上ニ先取特權ヲ有スルモノト爲ヌヲ得ス何トナレハ買戻ノ場合ニ

物 權 編

於テハ其買戻ヲ受ケタル買主ハ更ニ賣買ヲ爲ス者ニアラスシテ唯賣買ヲ解除シ賣主ハ買主カ彘キニ拂フタル代金ヲ返還スルニ止マルモノニシテ賣買アルニ非サレハナリ故ニ買戻ヲ受クヘキ買主ハ擔保トシテ留置權ヲ有スルモ不動產賣買ノ先取特權ヲ有スルモノニ非ルナリ

不動産ノ賣主ハ其不動産ノ代價及ヒ利息ヲ受クヘキ債權ノ爲メ先取特權ヲ有ス故ニ先取特權ノ存在ニハ其代價及ヒ利息カ未タ辨濟セラレサルコトヲ要ス其一部ノ辨濟アリタルモ先取特權ノ成立ヲ妨ケス何トナレハ先取特權ハ不可分ナルヲ以テ一部ノ辨濟アリタリトテ特權全部ノ成立ニ影響ナケレハナリ

賣買ノ代價ニ付テ先取特權ヲ有ス故ニ若シ其代價ヨリ利息ヲ生スルトキハ其利息モ亦先取特權ヲ以テ擔保セラルヘキナリ何トナレハ利息ハ代價ノ附從物ニシテ主物ト同一ノ資格ヲ有シ且買主カ契約又ハ法律ニ於テ代價ノ利息ヲ負擔スル所以ハ其物件ヲ收益シ果實ヲ利スルカ故ナリ然ルニ其債務者カ利益セザル收益ハ他ノ債權者ヲモ利スルモノナルヲ以テ先取特權ヲ付與スヘキ理由ハ獨リ元本ノミナラス利息ニモ亦適用セラレヘケレハナリ

物 權 編

賣買ノ契約ヲ以テ代價ノ外買主ニ或ル義務ヲ負擔セシムルコトアリ例エハ家屋ノ一部ヲ賣却シ買主ニ負擔セシムルニ家屋全部ヲ修繕セシムルヲ以テスルカ如キハ賣買ヨリ生スル負擔ナリ若シ買主ノ資格ヲ以テ此負擔ニ當リナカラ修繕ヲ行ハサルヲ以テ賣主ニ於テ修繕ヲ爲シ其費用ヲ償還セシムル債權ノ如キハ賣買代價ニアラサルヲ以テ先取特權ヲ受クルノ限リニアラス舊法第六百六十一條ニハ賣買ノ負擔ニ付キ先取特權アルコトヲ明記セシモ新法ニ於テハ特權ノ範圍ヲ限定スルノ主旨ナルヲ以テ之ヲ削除セリ故ニ賣買代價ニアラサルモノニ付テ先取特權ナキヤ疑ヲ容レス然レモ賣買ノ契約中ニ定メタル買主ノ負擔アツテ其負擔ハ代價ノ中ニ包含セシムヘキモノナルヤ否ヤハ其事件ニ因テ解釋ヲ下スヘク若シ代價ノ一部ナルトキハ先取特權ヲ受クヘク其代價ノ區域ヲ脱シタルトキハ先取特權ヲ受クルコトヲ得サルナリ

賣主カ賣買ノ負擔トシテ買主ヲシテ第三者ノ爲メニ或ル給付ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔セシメ買主之ヲ認諾シタルトキハ第三者ハ直チニ買主ニ向テ權利ヲ有ス第五百三十一條 此場合ニ於テ第三者ノ權利ハ先取特權ヲ以テ擔保セラル、歟賣主

物 權 編

ノ受取ルヘキ代價ヲ第三者ニ拂フヘシト云フニ非スシテ代價以外ニ第三者ニ對スル給付ノ義務アルモノナレハ代價ノ債權ニ非ス且又特權ヲ受クルモノハ代價ニシテ賣主ニアラス第三者ハ不動産ヲ賣買シタル人ニアラサレハ賣買代價ヲ得ルノ權利ナク要スルニ第三者ノ有スル權利ハ賣買ニ附從スル契約ヨリ生シタルモノニシテ賣買トハ全ク別個ノモノナリ斯ク代價ニ干係ナキ債權ナレハ賣主ノ先取特權ヲ有セサルヤ勿論ナリ

第三者ハ賣主ノ債權者ニシテ賣主ヨリ其代價ヲ提供シ第三者之ヲ認諾シタルトキハ債權者ノ資格ヲ以テ債務者即チ其賣主ニ屬スル所ノ權利ヲ行フコトヲ得ルモノナレハ賣主カ辨濟ノ爲メニ買主ニ對シテ有スル先取特權モ亦之ヲ享有スヘシ然レモ買主ニ對シ賣主ノ名ヲ以テ第三者ノ行フヘキ間接ノ訴權ヨリ生スル利益ハ獨リ之ヲ受クルニアラスシテ賣主ノ債權者ヲ利益シ若シ賣主無資力ナルトキハ第三者ハ買主カ賣主ニ拂フヘキ金額ニ付テ他ノ債權者ト共ニ分配ヲ受クルヲ以テ其間接ノ權利ヲ以テ直ニ之ヲ先取特權ト同一ノ效力アルモノト云フヲ得ス

物 權 編

公證人ノ謝料及ヒ登記料ノ如キ費用モ亦代價ノ一部ニアラサルヲ以テ先取特權ヲ受クルノ限リニアラス蓋シ此等ノ費用ハ賣主ノ爲メ賣買ヨリ生シタル費用ニアラスシテ買主ニ科シタル一ノ負擔ナリ故ニ賣主カ此費用ヲ支辨シタルトキハ或ハ買主ノ爲メ事務管理ヲ爲シタルモノナレハ其訴權ヲ以テ辨償ヲ受クヘキモ代價ヲ與ヘタル先取特權ヲ行フコトヲ得サルナリ

買主契約ヲ履行セサルニヨリ裁判又ハ特約ヲ以テ賣主ニ拂フヘキ損害ノ賠償ハ代價ニアラス凡ソ代價トハ賣却物ノ所有權移轉ヲ以テ其原因ト爲スモノナルニ損害賠償ハ買主カ義務不履行ヲ原因トスルモノナリ既ニ原因ヲ異ニスル如斯ナルヲ以テ先取特權ヲ受クルヲ得ス加之代價及ヒ利息ハ他ノ債權者ニ利益ヲ與スルモノナリ蓋シ賣却物及ヒ其之ヨリ生スル果實ヲ債務者ノ財産ニ加入セシメタルハ此代價アルカ故ナレハナリ然ルニ損害賠償ハ債務者ノ財産ヲ減スルコトアルモ決シテ他ノ債權者ヲ利益スルコトナケレハ先取特權ヲ受クヘキ範圍外ノモノタルコト明カナリ

先取特權ヲ有スル債權者カ代價ノ辨濟ヲ受クル爲メニ訴追ヲ爲シタル費用ハ

物 權 編

代價ノ附從物ノ名義ヲ以テ均シク先取特權ヲ以テ擔保セラル、ノ説アレモ此費用モ亦損害賠償タルニ過キス一モ物件又ハ果實ニ付テ他ノ債權者ヲ利益スル所アルニアラス買主カ義務ヲ履行セサルニ因テ之ヲ負擔スルモノナレハ先取特權ヲ受クヘキ性質ノモノニアラサルナリ

賣主カ先取特權ヲ有スルハ代價ノ原因カ賣却物ノ所有權移轉ニ在レハナリ此故ニ代價ノ債權ヲ消滅シ他ノ債權ニ更改セラレタルトキハ最早先取特權ヲ有スルヲ得ス其特權ヲ受ケタル債權ハ既ニ成立セスシテ新債權ハ其性質上特權ヲ受クヘキモノニアラス故ニ賣主先取特權ヲ實行セントスルニハ其債權ヲ更改セサルコトヲ要ス例エハ賣買ノ契約ヲ爲シ金錢ヲ以テ代價ヲ定メタル後其賣買ヲ更改シテ終身定期金ト爲シタルトキハ債務ノ要素ヲ變更シ以後賣買代價ノ債權ナケレハ先取特權モ亦存在スルコトヲ得サルナリ

○不動産賣主ノ先取特權ハ如何ナル物ノ上ニ存在スル歟其賣却シタル不動産ノ上ニ存在ス蓋シ此賣買アリタルカ爲メ賣却物ヲ債務者ノ資産中ニ加入シ一箇ノ資産ヲ増加シ他ノ債權者ニ利益ヲ與ヘタルモノナレハナリ此先取特權ノ

原因ハ賣却シタル不動産ノ賣買ニ定限スルモノナレハ其存在スル所モ亦賣却物件ニ定限セサルヘカラス故ニ不動産ノ一部ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其特權ハ一部ニ止マリ他ノ部分ニ及ホスコトヲ得サルナリ

舊法第四百六十九條ニハ不動産賣主ノ先取特權ハ債務者ノ所爲ニヨリ又ハ其權利ニ

基キ且其費用ニヨリ不動産ニ加ヘタル増價及ヒ改良ニ及ホサルモノトセリ然ルニ新法ニ於テハ本條ヲ削除シタルノミナラス第三百二十八條ニハ單ニ不動産賣買ノ先取特權ハ其不動産ノ上ニ存在スト云ヘルヲ以テ若シ不動産カ買主ノ手ニ移リタル後増價ヲ生シ著シク價額ヲ増加シタルトキモ其増價額ニ先取特權ヲ及ホスコトヲ得ルモノ、如シ凡ソ先取特權ヲ附與シタル原因ハ賣主カ不動産ヲ以テ債務者ノ資産中ニ加入シ他ノ債權者之ヲ利益スルヲ以テ賣主カ受クヘキ代價ニ付キ優先權ヲ有セシムルニ在リ然ルニ買主カ買入レタル後不動産ノ上ニ或ル建造ヲ爲シ其不動産ノ價額増加シタリトセンニ其増價ハ先取特權ヲ以テ擔保セント欲スル賣買ニ依ルニアラスシテ他ノ所爲ヨリ生シタルモノナリ而シテ他ノ債權者之ヲ利益スルモ是レ債務者自身ノ所爲ナルカ將

物 權 編

物 權 編

タ工事者ノ所爲ニシテ一モ賣主ノ所爲ニヨリテ利益ヲ得ルニアラス先取特權ニ付テハ地上ニ家屋ヲ建築シタルトキハ之ヲ其土地ノ増價ナリトスルコトハ工事者ノ先取特權ニ付テ見タルカ如シ然ラハ土地ヲ賣リタル者ハ債務者ノ所爲ニ因リ生シタル地價即チ其家屋ニ付テノ先取特權ヲ有スルヲ得ルカ其増價ニ付テハ先取特權ヲ付與スルノ原因ナク且保護ノ程度ヲ超過スルモノト云ハサルヲ得ス故ニ賣主ノ先取特權ハ賣却シタル物件ニ限り増價及ヒ改良ニ及ホスコトヲ得ス抵當ハ抵當不動産ニ附加シ一体ヲ爲シタル物ニ及フ第三百六ヲ以テ増價改良ノ如キモ其抵當ヲ受クルモノタリ抵當ニ付テ如斯ナルヲ以テ不動産ノ先取特權ニ付テモ亦増價改良ニ及ホスコトヲ得ルモノナリトハ論スルヲ得ス先取特權ト抵當トハ此點ニ付テ大ニ差異アルモノニシテ先取特權ハ上ニ述ヘタル理由ニ因テ之ヲ付與スルモノナレトモ抵當ニ在テハ債權ノ如何ニ係ラス一ニ不動産ヲ目的トスルモノナレハ其不動産ニ生スル變化ハ利トナク害トナク皆ナ之ヲ受クヘキモノニシテ増價改良アレハ其之ヲ生シタル原因如何ニ拘ラス之ヲ及ホスコトナリ

第三節 先取特權ノ順位

物 權 編

凡ソ先取特權ハ債權者一人ナルトキハ債務者ノ何レノ財産ニテモ之ヲ差押ヘ賣却シテ以テ債權ノ辨濟ニ當ツルコトヲ得ルヲ以テ其效用ヲ見ス之ニ反シ債權者數名アリテ同一ノ物件ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充テントスルニ當リ優先權ヲ以テ他ノ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルモノナレハ此ノ場合ニ於テ先取特權ノ利益ヲ見ルヘシ斯ク債權者數名アルヲ以テ其何等ノ特權ナキ他ノ債權者ニ對スルトキハ絶對ニ優先權ヲ有スルヲ以テ別ニ特權者ノ位置如何ヲ規定スルノ必要ナシト雖モ他ノ債權者ノ中ニハ均シク先取特權ヲ有スル者アルヘシ均シク先取特權ヲ有スル債權者ヲ併出シタルトキハ何レヲ先キニスヘキヤ或ハ皆同等ノ位置ニ在ルモノトスヘキカ此點ニ於テ法律ノ規定ヲ要スルモノナリ然レモ既ニ見タル如ク先取特權ハ其債權ノ原因ニ因テ保護ニ多少ノ厚薄アルモノナレハ種類ノ如何ヲ問ハス先取特權ヲ有スル者ハ總テ同等ノ位置ニ在ルモノト爲スヲ得ス故ニ本節ニ於テ先取特權ノ順位ヲ置キ其特權ヲ有スル者ノ中ニ付テ何レヲ先キニシ何レヲ後ニスルカヲ規定シタリ

前節ニ於テ見タル各種ノ先取特權カ同一ノ物件ノ上ニ競合スル場合ハ左ノ如シ

物 權 編

- 第一 一般ノ先取特權カ互ニ競合スルトキ
 - 第二 一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スルトキ
 - 第三 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スルトキ
 - 第四 同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スルトキ
 - 第五 同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權互ニ競合スルトキ
- 以上五個ノ場合ハ必スヤ法律ニ於テ之カ規定ヲ爲スニ非ラサレハ前後順序ヲ立ツルコトヲ得サルヲ以テ本節ニ於テハ其ノ順位ヲ定メタリ
- 第三百二十九條 一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲ケタル順序ニ從フ

一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツ但共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス

物 權 編

本條第一項ハ第一ノ場合即チ一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於ケル順位ヲ定メタルモノナリ第四百十四條 第三百六條ニ於テ見タル如ク法律ハ一般ノ先取特權ノ原因ヲ掲ケ第一共益ノ費用第二葬式ノ費用第三雇人ノ給料第四日用品ノ供給ナリトセリ若シ此原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル債權者カ先取特權ヲ以テ同一ノ物件ニ付キ辨濟ヲ受ケントスルトキハ其前後ノ順序ハ上ニ述ヘタル第一乃至第四ノ順序ニ從フ故ニ共益費用ノ債權者ハ葬式費用雇人給料又ハ日用品供給ノ債權ヲ有スル者ニ先チ日用品ノ供給ヲ爲シタル債權者ハ第一第二第三ノ原因ニ因テ債權ヲ有スル者ニ先ツコトヲ得サルナリ蓋シ第三百六條ニ序列シタル順序ハ公益上保護ノ厚薄ヨリ生シタルモノナレハ其順序ニ從テ前後ヲ付スルハ當然ナリ

本條第二項ハ第二ノ場合即チ一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於ケル順位ヲ定メタルモノニシテ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツヲ以テ原則トス此順位ハ二個ノ點ヨリ出テタルモノナリ其一ハ二者ノ間前後ヲ定ムルハ保護ノ程度如何ニ在テ一般ノ先取特權ハ債務者ノ總財産ニ及フ

物 權 編

モノナレハ其特權債權者ノ擔保ニ於テハ十分ノ安全ヲ得ル丈ケ他ノ債權者ハ擔保ノ減縮ヲ受クルモノナリ之ニ反シテ特別ノ先取特權ハ其目的ニ於テ定限セラレ、モノナレハ一般他ノ債權者ヲ害スルコト比較的ニ少カルヘシ斯克他ノ債權者ニ對シ結果ヲ及ホスノ差異アルニモ拘ラス尙一般ノ先取特權ニ付スルニ特別先取特權ニモ先ツノ特典ヲ以テセハ一般ノ先取特權者ヲ保護スルノ程度ヲ通過シタルモノト云ハサルヲ得ス故ニ特別ノ先取特權ヲ先キニシ一般ノ先取特權ヲ後ニシテ以テ保護ノ程度宜キヲ得セシメントスルニ在リ他ノ一ハ特別ノ先取特權ヲ先キニスルモ一般先取特權者ノ保護ハ之カ爲メニ減少セラル、コトナク保護ノ公平ヲ得ルト云フニ在リ蓋シ一般ノ先取特權ハ債務者ノ總財産ニ及フモノナルカ故ニ偶々其財産中ノ一二ニ特別先取特權ヲ受ケ第一ニ辨濟ヲ受クルコトヲ得サリシトスルモ他ニ動産不動産ノ存スルアレハ之ニ因テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘク特別先取特權ニ先タレタルカ爲メ全ク辨濟ヲ受ケサルカ如キハ稀ナルヘシ之ニ反シ特別ノ先取特權ハ特定ノ物件ヲ目的トスルモノナレハ若シ其物件ニ一般ノ先取特權ヲ以テ先ツ辨濟ヲ受クルトキ

物 權 編

ハ之カ爲メ法律カ與ヘタル先取特權ナル特典ノ效用ヲ見サルノ不幸ニ遭遇スルコト少カラサルヘケレハナリ舊法第四百四十四條第三項ニハ一般ノ先取特權ト動産ニ係ル特別先取特權ト競合シタル場合ニ於テハ一般ノ先取特權ハ特別ノ先取特權ニ先ツモノトシ不動産ニ係ル特別先取特權ト競合シタルトキハ其特別先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツモノトシタルモ新法ニ於テハ此原則ヲ改メ凡テ特別先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツヲ原則ト爲シ動産ニ係ルト不動産ニ係ルトヲ問ハス一概ニ一般ノ先取特權ハ特別先取特權ニ先ツモノト爲セリ然レモ實際ニ於テハ舊法モ亦擔百六十三條第二號但書ニ依テ一般ノ先取特權ニ充當スルニハ先ツ特別ノ先取特權ノ附着セサル動産ヲ以テスヘキコトヲ規定シ又同第四百四十四條第四項ニ於テ不動産ニ係ル特別先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先チ特別ノ抵當ハ後ノ設定ニ係ルト雖モ一般ノ先取特權ニ先ツコトヲ規定シアレハ結果ニ於テハ新法ト著シキ差異ヲ生スルモノニアラサルナリ

特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツヲ以テ原則ト爲スト雖モ之ニ對スル

物 權 編

例外アリ即チ共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有スルコト是ナリ第三百二十九條第二項但書 共益費用ハ債權者ノ共同ニ利益シタル費用ニシテ其費用アリタルカ爲メ辨濟ヲ受クルコトヲ得タルモノナレハ例エハ葬式ノ費用ノ如キ單一ニ公益上ヨリ恩典トシテ付與シタルモノト同視スルヲ得ス故ニ一般ノ先取特權ヲ受クヘキ債權ナリト雖モ特別ノ先取特權ニ先ツ然レモ此先取特權ハ債權者ノ何人ニ對シテモ優先權ヲ有スト云フニアラス共益費用ニ因テ現ニ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ優先權ヲ有ス蓋シ共益セサル特別ノ先取特權者ニ對シテハ優先權ヲ與フヘキ理由ナケレハナリ例エハ賃貸人ノ如キ暗黙ノ質入ニ基キタル特別ノ先取特權ヲ有スル者ハ其賃貸ノ場所ニ備付ケアル物件ノ競賣費用ニ付テハ共ニ利益ヲ受ケタルモノナルヲ以テ其費用ヲ支出シタル債權者ノ爲メニ先タル、モ賃貸人ノ先取特權ヲ及ホスヘカヲサル他ノ動産ノ競賣ノ費用ノ如キハ賃貸人ノ共ニ利益シタルモノニアラサルヲ以テ費用ハ共益ニアラサルヲ以テ優先セラル、コトナカルヘキナリ

第三百三十條 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ

順位左ノ如シ

第一 不動産賃貸、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權

第二 動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ

先ツ

第三 動産賣買、種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權

第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同シ

果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ賃貸人ニ屬ス

本條ハ第三ノ場合即チ同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ヲ規定シタルモノナリ其特別ノ先取特權ハ第貳款ニ於テ見タル如ク第一不動産ノ賃貸借第二旅店ノ宿泊第三旅客又ハ貨物ノ運輸第四公吏ノ職務上ノ過失

物 權 編

物 權 編

第五動産ノ保存第六動産ノ賣買第七種苗又ハ肥料ノ供給第八農工業ノ勞役ノ先取特權ナリ是等特別ノ先取特權并ヒ生スルト雖モ各其目的トスル動産ヲ異ニスルトキ例エハ運送人ハ運送物ニ先取特權ヲ行ヒ賣主ハ其運送物ニアラサル他ノ賣却動産ニ先取特權ヲ行フ場合ノ如キハ各自別々ニ先取特權ヲ行ヒ競合スル所ナケレハ其間ニ於テ順位ヲ定ムルノ要ナシ之ニ反シ特別ノ先取特權ヲ有スル數名ノ債權者カ一個ノ動産ニ對シ債權ノ辨濟ヲ受ケントスルニ當テハ何レヲ先キニシ何レヲ後ニスヘキカ平等ニ辨濟ヲ受クルモノトスルノ外ハ法律ニ於テ其順位ヲ規定セサルヘカラス特別ノ先取特權ヲ生シタル原因ノ性質ニヨリ各保護ノ程度ヲ異ニスルモノナレハ其間自ラ平等ナルコトヲ得ス故ニ本條ニ於テ其間ニ前後ノ順位ヲ定メタリ

本條ニ定メタル優先權ノ順位ヲ舉示スレハ左ノ如シ

第一位 不動産賃貸旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權第四百六十四條第四項

此ノ三種ノ先取特權ハ暗黙ノ質入ニ基クモノナルナコトハ予輩ノ既ニ講究シタル所ナリ既ニ暗黙ノ間ニ於テ債權ノ辨濟ニ充テルモノト爲シタル上ハ

物 權 編

普通動産ヲ質入ト爲シタルモノト殆ト同視スルコトヲ得ヘキモノナレハ此先取特權ヲ以テ第一順位ヲ得セシムルハ相當ナリ共同擔保ヲ供シタル債權者例ヘハ保護ヲ受クヘキ價值アリト雖モ默示ノ質入ニ於ケルカ如ク擔保ノ點ニ於テハ直接ナラサルヲ以テ默示ノ質入ヲシテ先ダシメサルヘカラス舊法第四百六十四條ニ於ケル特別先取特權ノ順位ト新法ニ定メタル順位ハ表面上大ニ異ナルカ如シ例エハ舊法ニ於テハ第一ノ順位ハ保存者ニ在リトシ新法ニ於テ第一順位ニ在ルモノハ第二位ニアリ然レモ其實質ニ於テハ大差アルニアラス舊法第六項ニ於テモ質取債權者ハ動産質設定ノトキ其物ノ保存費ノ未タ支拂アラサリシコトヲ知ラサリシトキハ第一ノ順位ヲ得ルモノト爲セリ其結果新法ノ原則ト自ラ相合スルモノト云フヲ得ヘシ只新法ハ默示ノ質取債權者ヲ第一順位ニ置クヲ以テ原則トシ第二項以下ニ於テ其例外ヲ定メタリ

本條ニハ默示ノ質入ニ基キタル三種ノ先取特權ヲ掲ケ均シク第一順位ニ在ルモノトセリ其三種間ニ於ケル順位ハ何レニ在ルカノ疑ヲ生スヘキカ如シ

物 權 編

ト雖モ此三種ハ均シク默示ノ質入ニ基因スルモノニシテ此間ニ前後ヲ付スヘキ輕重ナキノミナラス此三種ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ナカルヘシ既ニ見タル如ク質貸人ノ先取特權ハ其質貸地又ハ建物ニ備付ケタル物ニ限リ及ホスモノナレハ之ヲ荷物又ハ手荷物トナシタルトキハ既ニ質貸人ノ先取特權ヲ及ホスコトヲ得サル動産タリ運送人カ宿泊ノ債務者トナリ荷物ヲ手荷物トスヘキ場合ヲ生スルモ旅店主人ハ運送人ノ債權者ニシテ其債務者タル運送人カ之ト競合スルコトヲ得サルヤ明カナリ然レモ土地質貸人ノ先取特權ハ質借人ノ占有ニ在ル果實ノ上ニモ存在スルモノナルヲ以テ或ハ其果實カ荷物トナリテ運輸ノ先取特權ト質貸人ノ先取特權ト競合スル場合ナキカ此果實上ノ先取特權ニ付テハ舊法第四百九十二條規定セリ新法ニハ之ニ修正ヲ加ヘ其理由ニ本條ノ如ク質借人ノ占有ニ在ル果實ト云フトキハ穀物ノ如キモノヲ質借地以外ニ持出シ居宅倉庫等ニ收ムルモ先取特權ハ之ニ及フモノニシテ既成法典第四百九十九條第二項ノ規定ヨリハ其範圍ヲ廣メタルモノト云フヘシトアリト聞ク然ラハ質借人ノ占有スル果實ハ質借ノ先取特權ヲ負擔シテ多少移送セラル、場合ヲ想像シタルコトヲ見ルニ足ル加之起草委員梅博士ノ說ニモ土地ノ果實ハ假令質借人ノ占有ニ在ルモ動モスレハ質借地ヨリ數里乃至數十里ヲ隔テタル處ニ存スルコトアルヘケレハ云云民法要義卷三〇頁トアレハ果實ヲ生シタル土地ヨリ數里乃至數十里ヲ運送セラル、コトアルヲ知ルヘシ然ラハ果實ニ付テハ第一順位中ノ質借借ノ先取特權ト運輸ノ先取特權ト競合スルコト絶テ無シト謂フヲ得ス第三百三十條第三項ニ於テ果實ニ關シ特別ニ順位ヲ規定シアルモ運輸ノ先取特權ト競合スル場合ヲ豫見セサルヲ以テ此例外法ヲ適用スルヲ得ス依テ不權衡ナル結果ヲ生スヘキモ第三百三十二條ヲ適用スルノ外ナカルヘシ

物 權 編

默示ノ質取ニ基ク先取特權ヲ有スル者第一順位ヲ得ルニハ第二又ハ第三順位ノ先取特權者アルコトヲ知ラザリシコトヲ要ス若シ債權取得ノ當時之ヲ知リタルトキハ動産保存者動産賣渡人種苗肥料供給者及ヒ農工業勞役者ニ對シテ優先權ヲ有スルコトヲ得ス第三百三十四條第六項第七項默示ノ質取ニ基

物 權 編

先取特權ヲ有スルモノト雖モ其目的ノ物件ヲシテ債務者ノ資産中ニ存セシメ質入ノ目的物ト爲サシメタル者ハ債務者ニアラスシテ他ノ特別先取特權者ナルトキハ特權ノ順位ニ付テ一步ヲ讓ルヘキハ當然ナリ若シ然ラストモハ默示ノ質取ニ因レル特權者ノ保護ニ偏スルモノト云ハサルヲ得ス然レモ其先取特權ノ目的物ヲシテ債務者ノ財産中ニ存在セシメタル者ハ常ニ默示ノ質取人ニ先立ツモノトハ爲サス其質取人ハ原則トシテハ第一順位ニ在リ例エハ動産保存者ノ如キハ其動産ヲシテ債務者ノ資産中ニ相當ノ價額ヲ維持セシメタルモノナレハ舊法ニ於ケル如ク第一位ヲ占ムルモノト爲スニアラスシテ第二位ニ在リトス然レモ若シ默示ノ質取人カ債權取得ノ當時其目的物ニ保存者ノ先取特權カ存在スルコトヲ知ルニ於テハ既ニ保存者ノ先取特權ヲ負擔シタル物件ヲ質取リトスルト同一ニ歸スルヲ以テ順位ハ保存者ノ後ニ在ラサルヘカラス債務者カ買受ケタル動産ニ付テモ亦然リ不動産賃貸人カ其賃貸借ヲ爲シ賃借人ニ對シ債權ヲ取得シタル當時賃借人カ備付ケタル動産ハ他ヨリ買入タルモノニシテ未タ其代價ノ辨濟ナク從テ先取特權

物 權 編

ヲ有スル賣主アルコトヲ知ルニ於テハ其先取特權ノ附着セル物件ヲ質取リトスルモノニ外ナラサルヲ以テ賣買ノ先取特權ノ爲メニ其順位ヲ讓ラサルヘカス種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權アルコトヲ知リテ其動産ヲ質取リト爲シタルトキモ亦同一ノ理由ニ因リ其順位ヲ讓ラサルヘカラス以上ノ場合ニ於テ原則トシテ第一順位ニ在ル默示ノ質取人ハ其目的物ニ付テ共同擔保ヲ供シタル債權者即チ保存者賣主等アルコトヲ知リタルマテニテハ第一順位ヲ失フニ至ラス法文ニモ第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者タルコトヲ知リタルトキトアリテ之ヲ失フハ先取特權ノ存在ヲ知リタルトキニ限ルモノナリ故ニ保存者又ハ買主其他共同擔保ヲ供シタル債權者カ未タ債權ノ辨濟ヲ受ケサルコトヲ知リナカラ默示ニ質取リト爲シタル場合ニ第一順位ヲ失フ

默示ノ質取人カ第一順位ヲ讓ルハ債權取得ノ當時他ノ順位ノ先取特權ノ存在ヲ知リタルトキナリトス然ラハ取得ノ當時之ヲ知ラサルモ取得後之ヲ知リタルトキハ第一順位ヲ失フコトナカルハシ不動産賃借人カ賃借ヲ爲シ動

編 權 物

産ヲ備付ケタル當時ニ於テハ未タ修繕ノ必要ヲ生セザリシモ備付ノ後修繕ノ必要ヲ生シ之ニ修繕ヲ加ヘ其費用ヲ拂ハサルトキハ保存者ノ先取特權ヲ生ス又賃借人賃貸借ヲ爲シタル後他ヨリ動産ヲ買入レ未タ其代價ヲ辨濟セサルトキハ賣主ノ先取特權ヲ生ス是等ノ場合ニ於テ默示ノ質取人ハ保存人又ハ賣主ノ爲メニ利益ヲ得ルモノナレハ保存者又ハ賣主ノ先取特權ニ優先ノ權アリトスヘキカ如シ然レモ賃借人カ動産物ヲ備付ケタルトキハ直チニ賃貸人ニ對シ默示ノ質入ト爲ルモノナレハ其後ニ修繕ヲ加ヘ保存者ヲ生シタリトテ保存ノ先取特權ヲ負擔シタル動産ヲ質取リト爲シタルモノト爲スヲ得ヘカラス又賃借人カ他ヨリ買入レ之ヲ備付クルトキハ代價未濟ノコトヲ賃貸人ニ於テ知ルコトナシトハ云フヲ得サルモ凡ソ賃借人ノ備付ケタル動産ニ對スル賃貸人ノ先取特權ハ其物件ヲ特定シテ目的物ト爲スニアラス備付ケレハ從テ之ニ及ホシ取去レハ之ニ追及セサル性質ノモノナレハ一旦賃貸借成立シ債權ヲ取得シタル以後ニ在テハ實際買入レタルコトヲ知ルト否トハ之ヲ問ハス一概ニ賃貸人ハ何人ニテモ先取特權ヲ有スルモノナキ動産トシテ望ヲ屬スルモノト看做スカ故ニ債權取得後ノ賣却ヨリ生スル先取特權ニハ順位ヲ讓ルヲ要セサルモノトセリ

編 權 物

本條第三項末項「第一順位者」ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同シトアリ依テ默示ノ質取ニ基ケル先取特權ヲ有スルモノ、依頼ニヨリ其先取特權ノ目的物タル動産ヲ保存シタル者ノ有スヘキ保存ノ先取特權ハ第一順位ヲ有スルモノトス此場合ニ於テハ默示ノ質取人カ其保存者ノ先取特權ノ存在ヲ知リタルヤ否ヤノ區別ハ之ヲ適用スルヲ要セス何トナレハ第一順位者ノ爲メニ保存シタルモノナレハ債權取得ノ當時此保存ノ先取特權ナキコト明カナレハナリ例エハ不動産賃貸人カ其賃借人ノ動産ヲ以テ特權ノ目的物ト爲シタルニ其動産カ修繕ヲ加フルニアラサレハ價額ヲ失スルニ至ルヲ以テ之ヲ他ノ人ニ托シ修繕ヲ加ヘシメタルトキハ其修繕ヲ加ヘタルモノハ右ノ動産物ノ上ニ保存ノ先取特權ヲ有ス旅店主人又ハ運送人カ手荷物又ハ荷物ヲ修繕保存セシメタルトキモ亦其保存者ハ保存ノ先取特權ヲ有ス而シテ此保存ノ行爲アリタルガ爲メニ賃貸人旅店主人又ハ運送人ノ先取特權ノ目的

物 權 編

物ハ存在スルコトヲ得ルモノナレハ己レニ利益シタルモノヲ排除シ先ツ自
己ニ利益ヲ受クルノ道理ナク第一順位ハ之ヲ其保存者ニ讓ラサルベカラス
然レモ此保存者ノ債權ハ第一順位者ト同一ノ債務者ニ對スルニアラサレハ
本項ノ問題ヲ生スルコトナシ若シ保存ヨリ生シタル債權カ第一順位者ニ對
スルモノナルトキハ其順位者コソ債務者ナレハ先取特權ノ競合アルコトナ
シ故ニ本項ノ場合ハ例ニハ不動産賃貸人カ他人者ト契約シ賃借人ノモノト
シテ保存ヲ爲サシメタル場合ニシテ其保存者ハ賃借人ニ對シテ直接債權ヲ
有シ依頼者タル不動産賃貸人ト競合スル場合ニ當リ順位ヲ保存者ニ讓ルモ
ノナリ

第二位 動産保存ノ先取特權 第四百六十二條

此先取特權ハ共同擔保ヲ供シタル債權ニ基キ附與シタルモノニシテ默示ノ
質入ニ基ケル先取特權ニ第二順位ヲ有スル理由ハ既ニ之ヲ述ヘタリ其共同
擔保ヲ供シタル債權ニ基キタル他ノ先取特權即チ動産賣買苗種肥料供給等
ノ先取特權ニ先チ第二ノ順位ヲ附與スル所以ハ此保存ナカリセハ動産ハ減

物 權 編

失若クハ減少シテ賣主ニ於テモ供給者又ハ勞役者ニ於テモ毫モ利益ナカリ
シヤモ計リ知ルヘカラス然ラハ賣主等カ自己ノ特權ヲシテ實效アラシムル
ハ此保存費アリシカ爲ナリ故ニ第二順位ヲ有スル債權ハ第一順位者ノ
動産保存ノ先取特權カ第一位ヲ占ムル場合ハ上ニ於テ之ヲ見タリ即チ賃貸
人旅店主人又ハ運送人カ債權取得ノ當時保存ノ先取特權アルコトヲ知リタ
ルトキ又ハ第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタルトキ是ナリ今動産保存者カ
其動産ニ付キ賣買供給又ハ勞役ノ先取特權アルコトヲ知リタル場合ニ於テ
其第二ノ順位ヲ第三ノ者ニ讓ルコトアルカ賣買供給勞役ハ總テ保存ノ前ニ
在ル行爲ニシテ其前ニ在テ爲シタル保存ハ債務者ヲ異ニスルヲ以テ先取特
權競合ノ問題ナシ斯ク行爲ノ後ニ在ルヘキ保存ニ付テ第二位ヲ附與シタル
上ハ默示ノ質入ニ基ク先取特權ニ於ケルカ如ク他ノ先取特權アルコトヲ知
ルト否トニ依テ順位ノ變動ヲ來スヘキモノニアラサルナリ
若シ物件ヲ保存シタル者一人ニアラスシテ數人ナルトキハ其間如何ナル順
位ヲ以テ前後ヲ定ムヘキ歟第三百三十條第三號但書ニ曰ク數人ノ保存者ア

物 權 編

リタルトキハ後ノ保存者ニ前ノ保存者ニ先ツ（四條第三項）是レ數人カ漸次ニ保存ヲ爲シタル場合ヲ見タルモノナリ數人同時ニ保存ヲ爲シタルトキハ其間ニ於テ前後アルコトナク皆同一ニ優先權ヲ有スルヲ以テ平等ニ權利ヲ得ヘキナリ漸次ニ保存ヲ爲シタル場合ニ於テハ共同擔保ヲ供シタル程度即チ他ノ債權者ニ利益ヲ與ヘタル限度ニ於テ同一ナラス最終ノ保存ナカリセハ其物件ハ如何ニ其前ニ保存シタルモ存在セサルヤモ知ルヘカラス其保存者アリタルカ爲メ物件ノ存在ヲ得ルモノナレハ保存者間ニ於テハ最優等ノ權ヲ有シ最終ヨリ數エテ其最終ニ近キタケ共同擔保ヲ附與シタルコト多キヲ以テ其順位ハ最終ヨリ逆ニ數ヘ之ヲ定ム然レモ最終ノ保存者ニアラスト雖モ他ノ先取特權ニ對シテハ第二位ヲ失フモノニアラサルナリ例エハ賃借人カ他ヨリ買入レテ備付ケタル動産ヲ三年間ニ三回修繕ヲ加ヘタリトセンニ第一位ハ賃借人第二位ハ第三回目ノ修繕人第三位ハ第二回目ノ修繕人第四位ハ第一回目ノ修繕人第五位ハ動産ノ賣主ナリトス若シ賃借人ハ債權取得ノ當時此ノ三個ノ修繕費用及賣買代價ノ支拂ヒナキコトヲ知リタルモノナルニ於テハ第五位ハ賃借人ニ在リトス

物 權 編

第三位 動産賣買種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權（第百六十條第五項）
 動産賣主ハ其動産ヲシテ買主ノ資産中ニ加入セシメ以テ他ノ債權者ヲ利益シ供給者勞役者ノ如キモ債務者ノ財産ヲ増加スルモノナルモ保存者ノ如ク物件存在ニ直接ノ功ナキヲ以テ常ニ保存者ニ先ツコトヲ得ス然レモ賃借人旅店主人又ハ運送人カ賣買供給等ノ先取特權アルコトヲ知リタルトキハ其默示ノ質取ニ於ケル先取特權者ノ爲メニ先タル、コトナシ然レモ此場合ニ於テハ第一順位カ第三順位ノ爲メニ其順位ヲ失フト雖モ保存者ノ先取特權ニ先ツコトヲ得サルナリ例ヘハ賃借人カ動産ヲ買入レ之ヲ賃借ノ場所ニ備付ク後之ニ修繕ヲ加エタル場合ニ於テ其賃借人ハ債權取得ノ當時他ノ先取特權アルコトヲ知ラサルヲ以テ第一順位ヲ有スル賃借人其不動産ノ所有權ヲ他ノ者ニ讓渡シ尙賃貸借ヲ繼續スル場合ニ於テ其新賃借人ハ保存ノ先取特權及ヒ賣買ノ先取特權アルコトヲ知リテ先賃借人ノ權利ヲ取得繼續スルモノナルニ於テハ第一順位ヲ失ヒ第三位ニ下リ第一位ハ動産保存ノ先取特

物 權 編

權ニ屬シ第二位ハ動産賣買ノ先取特權ニ屬ス此場合ニ於テハ唯第一順位ニ在リシモノカ第三位ニ下ルト云フマテニシテ動産保存ト動産賣買ノ關係ニ於テハ順位ニ變動ヲ受クルコトナシ

種苗肥料蠶種桑葉供給者ノ先取特權ハ果實ノ上ニ存在シ第三百二十四條然ラハ此先取特權ト他ノ特別先取ノ先取特權ハ果實ノ上ニ存在ス第三百二十四條

特權トハ果實ニ關シテノミ競合ス斯ク先取特權ノ目的物ノ範圍狹隘ナルヲ以テ他ノ特別先取特權トノ競合ノ場合ニ於ケル規則ヲ適用スルコトヲ得サルヲ以テ第三百三十條第三項ハ左ノ順序ヲ定メタリ

第一順位 農業勞役者

第二順位 種苗又ハ肥料ノ供給者

第三順位 土地ノ賃貸人

此順位ハ果實ニ直接ナルモノヲ先キニシタルニ外ナラス果實ハ種苗又ハ肥料ノ供給アツテ生スルコトヲ得ヘシト雖モ必スヤ人力ノ之ニ加ハルヲ要ス其人力アツテ收穫ヲ爲シ得ルモノナレハ農業勞役者ヲ第一ト爲シ供給者ヲ

物 權 編

第二ニ置ケリ賃貸人ニ至テハ勞役者アリ供給者アツテ收穫ヲ爲サシムルニアラサレハ自己ノ特權ヲ果實ノ上ニ行フコトヲ得サルヲ以テ之ヲ第三ノ順位ニ置ケリ

果實ニ關シテハ以上三種ノ先取特權ニ付テノミ順位ヲ規定シタリ果シテ其他ノ先取特權ハ此果實ノ上ニ競合スルコトナキモノナルカ債務者カ果實ヲ携帶シ旅店ニ宿泊スル場合ナシトセス例ヘハ養蠶ヲ爲ス者繭又ハ蠶絲ヲ携帶シテ旅店ニ宿泊スルコトアルヘシ好シヤ如此場合ハ其果實ハ所謂旅客ノ手荷物ニアラストスルモ之ヲ荷物ト爲シ運送人ニ托スルコトハ必スアリ得ヘキ場合ナリ其果實ニ付テハ是等供給ノ先取特權ヲ負擔シ運搬セラレヘコトアルヘケレハ其先取特權ト同時ニ少クモ運輸ノ先取特權ヲ及ホスコトアルヘシ其順位ハ第三百三十條末項ニ規定スル所ニアラサルヲ以テ第一項ハ本則ニカヘリ運輸ノ先取特權ヲシテ第一位ヲ有セシメサルヘカラス然レモ末項ニ於テハ果實ニ關シ均シク默示ノ質入ニ原因シタル土地賃貸人ノ先取特權ヲ第三位ニ置ケハ太々權衡ヲ失フモノト云ハサルヲ得ス

果實ニ關シテ動産ノ保存先取特權ト第三百三十條末項ニ規定シタル先取特權ト競合スルコトナキ歟果實ト雖モ保存ノ必要ナキモノニアラス例ヘハ天然ノ果實ニシテ其腐敗又ハ廢滅ヲ防止スヘキ行爲ヲ他人ニ爲サシメルコトアリ然レモ先取特權ノ所謂動産ノ保存トハ一個特定ノ動産自体ニ行爲ヲ施シタルモノ即チ修繕ノ如キ行爲ヲ指示スルモノニシテ廣義ニ解スヘキモノニアラサルヲ以テ果實ニ付テハ保存ノ先取特權競合スル場合ナシト云フヲ得ヘシ

果實ニ關シテハ動産賣買ノ先取特權ト競合スルコトナシ何トナレハ先取特權ヲ及ホスヘキ果實ハ皆債務者ノ土地若クハ賃借地ヨリ生シタルモノナレハナリ種苗供給者ノ如キハ多ク賣主タルヘシト雖モ是レ種苗ヲ賣リタルモノニシテ果實ヲ賣リタルモノニアラサレハ亦競合スルコトナカルヘキナリ」果實ニ關シテ第三百三十條カ特ニ順位ヲ規定シタルハ農工業ノ勞役者ニアラスシテ農業勞役者ノ先取特權ノミナリ故ニ工業勞役者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト工業勞役ニヨリテ生シタル果實又ハ製作物ノ上ニ競合スルトキ

物 權 編

物 權 編

ハ本條第一項ノ本則ニ依テ其順位ヲ定ム第三百二十四條ニ依レハ工業勞役ノ先取特權ハ果實又ハ製作物ノ上ノミニ在リ然レモ第三百三十條ハ此ノ果實及ヒ製作物ニ付テハ他ノ特別ノ先取特權ト競合スル場合アルモノトシタルニ外ナラス不動産賃貸人ト競合スルコトアルハ論ヲ俟タス宿泊若クハ運輸ノ先取特權ト競合スルコトハ上ニ果實ニ付テ述ヘタルト同一ナリ然レモ賣買ノ先取特權ト競合スル場合ハナカルヘシ
 果實又ハ製作物ヲ所有者カ他ニ賣却スルコトアルトキハ其買主ニ對シテ動産賣主ノ先取特權ヲ有シ農工業勞役者ハ其資格ヲ以テ先取特權ヲ有スル場合アリトスルモ(賣主未タ引渡ヲ爲サ、ルトキ)此ノ場合ニ於テハ賣主ハ勞役者ニ對スル債務者ナルヲ以テ同一物ニ付テ競合スル先取特權ヲ有スルコトヲ得ス況ンヤ既ニ賣渡シタル以上ハ勞役者先取特權ヲ及ホサストスルルハ先取特權ノ問題アルコトナシ
 果實ノ上ニ特權ヲ有スル債權者ハ其果實カ未タ土地ヨリ分離セスシテ不動産タルトキ抵當債權者ニ對シテモ本條ニ於テ見タル順位ヲ以テ優先權ヲ行

フコトヲ得ルカ本款ノ先取特權ハ所謂動産ニ關スルモノニシテ第三百十三條第三百二十三條第三百二十四條等ノ所謂果實ハ之ヲ土地ヨリ分離シ最早土地ニ定着セサルモノトシテ先取特權ヲ及ホスモノナリ然ルニ若シ其土地ニ抵當ヲ設定シアルトキハ抵當債權者ハ其ノ果實カ土地ノ定着物タル間ハ不動産ナルヲ以テ抵當權ヲ之ニ及ホスヘシ此ノ特權ト抵當ノ撞着ニ付テハ敢テ法律ノ規定ヲ俟タスシテ抵當權ノ優レルコトヲ知ルニ足ルヘシ何トナレハ有形ノ物ヨリ見ルトキハ果實ハ不動産ニ相違ナク之ヲ動産ト云フハ只々想像的ニ止マルモノナレハ其現物ヲ以テ想像ノ物ニ優レリトスルヲ得サレハナリ

編 權 物

第三百三十一條 同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フ
 同一ノ不動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル

本條ハ第四ノ場合即チ同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場

編 權 物

合ニ於テ其先取特權ノ順位ヲ定メタルモノナリ不動産ノ先取特權カ一般ノ先取特權ニ競合スルトキハ共益費用ノ先取特權ヲ除クノ外一般ノ先取特權ニ先ツコトハ予輩ノ既ニ講究シタル所ナリ第三百二十九條不動産ノ先取特權ト又動産ニ關スル特別ノ先取特權ト競合スルコトナキコトハ其目的物ノ異ナルニ依テ明白ナレハ放テ喋々辯スルヲ要セス今各種ノ不動産ノ先取特權ヲ有スル債權者數名カ同一ノ不動産ニ付キ其特權ヲ以テ辨濟ヲ受ケントスルニ當テハ必ヤ其ノ順位ナカラサルヘカラス是レ本條ノ規定スル所ナリ夫不動産ノ先取特權ノ種類ハ第三百二十五條ニ於テ第一不動産ノ保存第二不動産ノ工事第三不動産ノ賣買ノ先取特權ナリトス而シテ其先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ右ノ第一第二第三ノ順序ニ從ハシメ不動産保存ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先チ工事ノ先取特權ハ第二位ヲ占メ賣買ノ先取特權ハ第三位ニ在ルモノトス蓋シ保存ノ行爲アリテ不動産ヲ債務者ノ資産中ニ維持シ相當ノ價額ヲ保有セシメ從テ總債權者ニ利益ヲ與ヘルモノナリ若シ此行爲ナカリセハ縱令ヒ工事ニ依リテ増價ヲ爲シ賣買ニ依リテ資産中ニ加入シタルモ或ハ

共同ノ擔保トナラサリシモ計リ知ルヘカラス畢竟債務者ノ財産トシテ此ノ不動産ノ存在スルハ保存ノ力多キニ居ルヲ以テ其保存ニ基ク先取特權ヲ第一位ニ置ク

編 權 物

工事者ノ先取特權ヲ及ホスヘキモノハ不動産ノ増價ノミナリ而シテ其不動産ハ買入タルモノトスルモ増價ニハ賣渡人ノ與カリテカアルモノニ非ラス何レモ賣渡ノ後所有者ト工事者トノ間ノ契約ニ依リ工事ヲ施シ改良ヲ加ヘタルニ因リ生シタルモノナレハ工事ノ先取特權ハ賣買ノ先取特權ヨリ上位ニ在ルハ當然ナリ然レモ上ニモ見タル如ク保存ノ先取特權ニ對シテハ工事ノ先取特權ハ次位ニ在リ工事ヲ施シタル後保存ノ行爲アリタル場合ニ於テハ其増價ヲシテ今日ニ存在セシムルモ亦保存ノカナレハ固ヨリ第一位ヲ保存ノ先取特權ニ讓ルヘキハ至當ナルモ若シ保存ノ行爲アリタル後工事ヲ施シタルトモ其工事ヨリ生シタル増價ハ保存ニ依テ今日ニ存在スルモノト云フヲ得サルヘシ故ニ此理論ヲ推及スルトキハ此ノ場合ニ限リ第一位ヲ工事ノ先取特權ニ讓ラサルヘカラサルカ如シト雖モ工事ノ先取特權ト不動産保存ノ先取特權トハ

編 權 物

其ノ性質相同キモノニシテ例ヘハ修繕ノ如キハ若シ工匠技師ノ之ヲ爲シタルトキハ工事ノ先取特權ヲ生シ其他ノ者カ之ヲ爲シタルトキハ保存ノ先取特權ヲ生スルモノナリ故ニ多クノ場合ニ於テハ其保存ノ先取特權ハ即チ工事ノ先取特權ナリ故ニ法律ハ單純ナル保存行爲ノ場合ニ付キ其保存行爲カ工事ノ前後ニ在ルヲ以テ順位ヲ區別スルカ如キ適用上ノ煩雜ヲ避ケンカ爲メ概シテ工事後ニ保存ノ必要ナキモノト見做シ工事ノ先取特權ハ第二位ニ在ルモノトセリ
舊法^{第七條}ニ於テハ第一ヲ工事ノ先取特權トシ第二ヲ讓渡人又ハ分割者ノ先取特權トシタリ然レモ本法ニ於テハ共同分割其他有償無償ノ讓渡ノ先取特權ヲ認許セス新ニ不動産保存ノ先取特權ヲ認メタルヲ以テ舊法ニ於ケル順位トハ自ラ變更ヲ免レサルナリ
不動産賣買ニ付テハ逐次ニ之ヲ爲シ數名ノ賣主ヲ生シ各賣主ハ均シク先取特權ヲ有スルモ同一順位ニアルヘキモノニアラサルヲ以テ其賣主相互ノ優先權ノ順位ハ賣買當時ノ前後ニ因テ之ヲ定ム例ヘハ甲ヨリ乙ニ不動産ヲ賣渡シ乙

物 權 編

其代價ヲ辨濟セスシテ又之ヲ丙ニ賣渡シ丙又代價ヲ辨濟セスシテ丁ニ賣渡シ
 丁モ亦代價ヲ辨濟セサル場合ニ於テ甲乙丙共ニ代價ヲ請求スヘキ債權ニ付テ
 ハ現時丁ニ歸シタル不動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス此ノ場合ニ於テ其順位ハ同
 一ナリトシテ平等ニ辨濟ヲ受クルモノトセンカ他ノ同一ノ目的物ニ付キ同一
 順位ノ先取特權者數名アル場合トハ異ナリテ不公平ヲ免ル、能ハス第二ノ賣
 主タル乙ハ甲ノ債務者タリ故ニ丙ニ對シテハ先取特權ヲ有スト雖モ己レノ債
 權者タル甲ニ對シテ同一ノ位ヲ有スルヲ得ス又丙ハ丁ニ對シテ債權者タルモ
 乙ノ債務者ナレハ是又乙ト同一物ニ付キ同一順位ヲ有スルヲ得ス畢竟甲ヨリ
 不動産ヲ賣渡シタルニ依リ其不動産ハ丙丁ノ貨産ト爲ルコトヲ得タルモノナ
 レハ其順ヲ追ヒ最モ古キ賣主タル甲ヲ第一位ト爲シ乙ヲ第二位ト爲シ丙ヲ第
 三位ト爲スヲ以テ至當ナリトス故ニ甲カ辨濟ヲ受ケ殘餘アルニ非サレハ乙ノ
 權利ヲ及ホスヲ得ス乙カ辨濟ヲ受ケ殘餘アルトキ丙之ニ因テ辨濟ヲ受クルコ
 トヲ得ヘキナリ

物 權 編

ハ工事ノ先取特權モ亦競合スルコトアルヘシ例ヘハ甲先ツ保存行爲ヲ行ヒ乙
 モ亦保存行爲ヲ行ヒタルトキハ其行爲ニ時ノ前後アルヘク又甲先ツ建築ヲ爲
 シ乙後之ニ修繕ヲ加フルコトアリテ均シク先取特權ヲ有スヘシ法律ハ賣買ニ
 付テハ上ニ見タル如ク其行爲ノ新舊ヲ以テ順位ノ前後ヲ定ムルモ保存及ヒ工
 事ノ先取特權ニ付テハ其ノ規定ナシ故ニ各行爲ノ新舊ヲ問ハス同一目的物ニ
 付キ同一順位ヲ有スルモノトシテ平等ノ辨濟ヲ受クヘキモノタリ蓋シ此保存
 及ヒ工事ニ付テハ其先取特權者間ニ於テ賣買ニ於ケル如ク債權債務ノ關係ア
 ルコトナク常ニ先取特權ノ附着セル債務ヲ負擔セル者ハ所有者ニシテ假令其
 不動産ノ所有權カ轉讓シタル場合ニ於テモ特權ヲ有スル者ノ間ニ在リテ一ハ
 他ノ債務者ニシテ同一順位ヲ占ムルカ如キ不公平ヲ生スルコトナカルヘシ例ヘ
 ハ甲者乙者ノ家屋ニ保存若クハ工事ヲ施シ乙者ニ對シ債權者ト爲リ一旦其家
 屋ノ上ニ先取特權ヲ有シタル後乙者ヨリ其家屋ノ所有權ヲ得タルトキハ最早
 先取特權ナルモノナシ故ニ賣買ニ於ケル如ク自ラ債務者ニテアリナカラ債權
 者ト同一順位ヲ以テ辨濟ヲ受クルカ如キコトナシ既ニ不公平ヲ生セサルモノト

編 權 物

セハ其行爲カ債權者ノ共同擔保ヲ供シタル點ニ於テハ同一ノ力アルモノナルヲ以テ債權ノ割合ニ應シ平等ニ辨濟ヲ受クルハ當然ナリ
 動産ノ保存ニ付キ數名ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツモノトスルコトハ第三百三十條第二項ニ於テ予輩ノ見タル所ナリ不動産ノ保存ニ付テモ亦數名ノ保存者アリテ其行爲ニ前後アルヘシ然ルニ不動産ノ先取特權ニ付テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フノ規定アルノミニシテ同一ノ不動産ニ付キ數名ノ保存者アリタル場合ニ於テ保存ノ前後ヲ以テ其間ノ順位ヲ定ムルノ規定ナシ故ニ其保存ノ前後ヲ以テ保存者間ノ順位ヲ定ムルコトヲ得ス蓋シ不動産上ノ物權ハ之ヲ保存スルニハ登記ヲ爲スヲ要スルハ一般ノ原則ナリ故ニ保存者ノ有スル先取特權モ亦之ヲ保存スルニハ登記ヲ爲サ、ルヘカラス第三百三十七條斯ク保存者ノ先取特權ヲシテ他ノ特權者ニ對シテ有效ナラシムルニハ登記ヲ要スルモノトスレハ其順位ノ如キモ亦登記ノ前後ニ依テ之ヲ定メサルヘカラス然ラハ動産ニ於ケルカ如ク目的物保持ニ最モ力アリシモノヲ先ニスルノ理由ヲ以テ保存者間ノ順位ヲ定ムルコトヲ得サリシモノナリ依テ通例不動産ニ付テハ保存者ノ順位ハ動産ニ於ケルト全ク反對ニ出ツル場合多カルヘシ何トナレハ先キニ保存行爲ヲ爲シタル者登記ヲ爲シ其ノ後ノ保存者之ニ次テ登記ヲ爲スモノナレハ登記ノ順序ハ古キ保存者第一ニアリテ新キ保存者ハ其次位ニ在ルノ結果ヲ免ル可カラサルナリ

第三百三十二條 同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數名アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク第三百三十五條第三項

編 權 物

本條ハ第五ノ場合即チ同一ノ動産若クハ不動産ニ付キ同順位ノ先取特權互ニ競合スル場合ヲ規定シタルモノナリ法律カ同一ノ目的物ニ付キ同一順位ヲ與ズルハ即チ其先取特權間ニ於テ優劣ナキモノト見ルニ由ルモノナルヲ以テ其先取特權ヲ有スル債權者數人競合スルトキハ恰モ其無特權債權者數人カ競合スル場合ト同一ニ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受クヘキハ當然ナリ
 本條ノ適用ハ先ツ一般ノ先取特權ニ於テ之ヲ見ルモノナリ共益費用葬式費用雇人ノ給料日用品ノ供給ニ付テハ同一ノ原因ニ由テ債權ヲ有スル者數名アルコト下抄カラサルヘシ例ヘハ共益費用ヲ支出シタル者ハ債權者二名以上ナルト

物 權 編

キ又葬式費用ヲ數名ニテ支出シ又數名ノ雇人カ雇主破産ノ當時給料ヲ未タ受
 取ラサリシトキ又甲ハ乙ナル債務者ニ向テ飯米ヲ供給シ丙ハ乙ニ薪炭ヲ供給
 シタルトキノ如キ其甲ト乙トハ同一ノ原因ニ由テ一般ノ先取特權ヲ有シ順位
 モ亦異ナルコトナシ故ニ其間ニ於テハ債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受クヘシ
 動産上ノ特別ノ先取特權ニ付テハ不動産ノ賃貸借旅店ノ宿泊旅客又ハ荷物ノ
 運輸ニ付テハ同一順位ノ債權者數名競合スル場合ナカルヘシト雖モ公吏ノ職
 務上ノ過失ヨリシテ數名ノ債權者ヲ生シ保證金ノ上ニ先取特權ヲ以テ辨濟ヲ
 受ケントスルコトアルヘク又同時ニ動産ノ保存ヲ爲シタル者數名アリ時ヲ異
 ニスルトキハ保存者間ニ於テ順位アルコトハ第三百三十條第一項第二號ニ於
 テ見タル如シ又種苗肥料蠶種又ハ桑葉ノ供給ヲ數名ニテ爲スコトアリ是等ノ
 場合ニ於テ其ノ同一原因ニ由テ債權ヲ有スル者ノ間ニ在テハ順位ニ前後アル
 ヘカラス動産ノ賣買ニ付テハ轉讓シタル場合アルヘシト雖モ先取特權ヲ轉得
 者ニ追及スルコトヲ得サルヲ以テ固ヨリ不動産ニ於ケル如ク賣主ノ新舊ニ依
 テ順位ノ前後ヲ區別スルカ如キコトナシ然レモ動産共有者カ動産ヲ賣渡シタ
 ル場合ニ於テハ賣主ハ數名アルヘシト雖モ各其ノ行爲ノ目的物即チ移轉シタ
 ル所有權ヲ異ニスルモ物体同一ナルヲ以テ同一順位ヲ得ルモノニシテ其間ニ
 順位ノ優劣ナシトス

條 權 編

不動産ノ特別ノ先取特權ニ付テハ保存賣買共ニ必スシモ其債權ヲ有スル者ハ
 一人ニアラス數名ニシテ保存行爲ヲ爲シ又ハ工事ヲ施スコトアルヘク賣買ニ
 於テモ亦逐次賣買ニアラスシテ數名ノ共有者カ一個ノ不動産ヲ賣却スルコト
 アリ是等先取特權者間ニ在テハ優劣ヲ生スヘキ原因ナケレバ平等ニ債權額ニ
 應シテ辨濟ヲ受クルノ外アルヘカラサルナリ

①本節ニ於テハ同一ノ目的物ニ付キ先取特權ノ競合スル場合ヲ見タリ然レモ
 同一物ニ付キ競合スルモノハ先取特權ノミナラス他ノ優先權ト亦競合スルコ
 トアリ即チ質權者又ハ抵當權者カ先取特權者ト共ニ同一ノ動産若クハ不動産
 ニ付キ辨濟ヲ受ケントスルトキ即チ是ナリ此ノ場合ニ在テ其順位ハ何レヲ先
 キニスヘキヤハ本節ノ規定スル所ニ非ラス是レ先取特權ト他ノ優先權トノ關
 係ニシテ即チ先取特權ノ效力ニ屬スルヲ以テ法律ハ之ヲ次節ニ規定セリ故ニ

予輩モ其次節ニ至テ其順位ノ如何ヲ見ントス

第四節 先取特權ノ効力

舊法ハ先取特權ノ順位ト共ニ其効力ノコトハ一般ノ先取特權及ヒ特別ノ先取特權ノ區別ニ從ヒ各別ニ其規定ヲ爲セリ第七百四十三條以下第八十九條以下然レモ本法ニ於テハ法條ヲシテ簡單ナラシムル爲メ之ヲ本節ニ纏メテ規定ヲ下セリ又舊法ハ先取特權ノ保存ニ關シ種々ノ規定ヲ掲ケタルモ本法ニ於テハ之ヲ登記法若クハ抵當ノ規定ニ讓リ本節ニ於テハ先取特權ノ効力ニ關スル一般ノ規定ノミヲ掲ケタリ故ニ舊法擔第一百七十七條以下ノ規定ハ如キハ本法ニ於テハ其ノ主義同一ナルモ他ノ法律ニ讓リテ記載セサルモノ多シ

第三百三十三條 先取特權ハ債務者カ其動產ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動產ニ付キ

物 權 編

物 權 編

本條ハ先取特權ノ目的物タル動產ヲ其所有者タル債務者ニ於テ他ニ移轉スルトキ其特權ハ如何ナル時マテ存在スルモノナルカラ規定シタルモノナリ動產ハ轉讓シテ一定ノ所在ナキヲ以テ不動產ニ於ケル如ク公示法ヲ以テ其轉讓ヲ明カニシ第三者ヲ保護スルノ途ナシ故ニ其ノ取引ヲシテ安全ナラシムルニハ債務者ノ占有ニ在リシトキ負擔シタル責務ハ其債務者ノ手裡ヲ離脱シタルト同時ニ消滅シ完全ナル動產ト爲ス否ラサレハ之カ取引ヲ爲ス者ハ安堵スルコトナク從テ之カ融通ヲ害スルヲ妙カラス此故ニ假令先取特權ヲ負擔セル動產ト雖モ債務者カ之ヲ第三取得者ニ引渡シタル以上ハ其ノ動產ニ付キ先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノトセリ此ノ場合ニ於テ先取特權ハ物權ノ本然トシテ依然追及權ヲ有スルモノナリトノ說アリト雖モ既ニ法律ヲ以テ第三取得者ニ引渡シタル後ハ先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノト爲シタル以上ハ其ノ追及權アリトスルノ論ハ實際ニ效用ナキモノト云ハサルヲ得ス何トナレハヨシ追及權アリトスルモ其權利ヲ行フコトヲ得サレハナリ債務者カ第三者ニ讓渡シ未タ之ヲ引渡サ、ル以前ニ在リテハ先取特權ヲ行使スルコトヲ得ルヲ以テ是レ追及權ノ實行アルモノナリト云フコトヲ得ヘキモ此場合ニ在リテハ第七百十八條ノ原則ニ依リ其第三取得者ハ動產ノ引渡ヲ受ケサルヲ以テ先取特權者ニ對抗スルコトヲ得サルモノナレハ尙ホ其動產ハ債務者ノ手ニ在リテ未タ轉

予輩モ其次節ニ至テ其順位ノ如何ヲ見ントス
第四節 先取特權ノ効力

舊法ハ先取特權ノ順位ト共ニ其效力ノコトハ一般ノ先取特權及ヒ特別ノ先取特權ノ區別ニ從ヒ各別ニ其規定ヲ爲セリ擔第百四十三條以下第百六十四條第百七十七條以下第百八十九條以下然レモ本法ニ於テハ法條ヲシテ簡單ナラシムル爲メ之ヲ本節ニ纏メテ規定ヲ下セリ又舊法ハ先取特權ノ保存ニ關シ種々ノ規定ヲ掲ケタルモ本法ニ於テハ之ヲ登記法若クハ抵當ノ規定ニ讓リ本節ニ於テハ先取特權ノ效力ニ關スル一般ノ規定ノミヲ掲ケタリ故ニ舊法擔第百七十七條以下ノ規定不如キハ本法ニ於テハ其ノ主義同一ナルモ他ノ法律ニ讓リテ記載セサルモノ多シ
第二百三十三條 先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キ
之ヲ行フコトヲ得ス

物 權 編

本條ハ先取特權ノ目的物タル動産ヲ其所有者タル債務者ニ於テ他ニ移轉スルトキ其特權ハ如何ナル時マテ存在スルモノナルカヲ規定シタルモノナリ動産ハ轉讓シテ一定ノ所在ナキヲ以テ不動産ニ於ケル如ク公示法ヲ以テ其轉讓ヲ明カニシ第三者ヲ保護スルノ途ナシ故ニ其ノ取引ヲシテ安全ナラシムルニハ債務者ノ占有ニ在リシトキ負擔シタル責務ハ其債務者ノ手裡ヲ離脱シタルト同時ニ消滅シ完全ナル動産ト爲ス否ラサレハ之カ取引ヲ爲ス者ハ安堵スルコトナク從テ之カ融通ヲ害スルコト妙カラス此故ニ假令先取特權ヲ負擔セル動産ト雖モ債務者カ之ヲ第三取得者ニ引渡シタル以上ハ其ノ動産ニ付キ先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノトセリ此ノ場合ニ於テ先取特權ハ物權ノ本然トシテ依然追及權ヲ有スルモノナリトノ說アリト雖モ既ニ法律ヲ以テ第三取得者ニ引渡シタル後ハ先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノト爲シタル以上ハ其ノ追及權アリトスルノ論ハ實際ニ效用ナキモノト云ハサルヲ得ス何トナレハヨシ追及權アリトスルモ其權利ヲ行フコトヲ得サレハナリ債務者カ第三者ニ讓渡シ未タ之ヲ引渡サハル以前ニ在リテハ先取特權ヲ行使スルコトヲ得ルヲ以テ是レ追及權ノ實行アルモノナリト云フコトヲ得ヘキモ此場合ニ在リテハ第七十八條ノ原則ニ依リ其第三取得者ハ動産ノ引渡ヲ受ケサルヲ以テ先取特權者ニ對抗スルコトヲ得サルモノナレハ尙ホ其動産ハ債務者ノ手ニ在リテ未タ轉

輾セサル場合ト同一ニシテ未タ追及ノ權利ヲ主張スルノ必要ヲ見サル場合ナリ

物 權 編

法律ハ債務者カ動産ヲ第三者ニ引渡シタル後ハ先取特權ヲ其動産ニ付テ行フコトヲ得サルモノト爲スカ故ニ例ヘハ運送人カ荷物ノ運送ヲ爲シ之ヲ其荷主ニ引渡シタル迄ニテハ尙ホ先取特權ヲ其荷物ノ上ハ行フコトヲ得ヘシト雖モ其荷主ヨリシテ第三取得者ニ讓渡シ且之ヲ引渡シタルトキハ運送人ノ先取特權ヲ其ノ荷物ノ上ニ及ホスコトヲ得ス第六百條又不動産ノ賃借人カ其賃借ノ場所ニ備付ケタル動産ヲ他ニ讓渡スト雖モ未タ之ヲ第三者ニ引渡サ、ル内ハ賃借人ノ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘキモ既ニ其動産ヲ第三者ニ引渡シタル以後ハ賃借人ノ先取特權ヲ以テ之ニ及ホスコトヲ得サルモノトス若シ然ラストセシカ運送シタル物品若クハ賃借人ノ動産ハ常ニ安全ナル取引ヲ爲スコトヲ得サルヘシ或ハ其ノ運輸又ハ賃借借ノ先取特權アルハキコトハ第三者カ法律ノ規定ニ依テ豫知スルコトヲ得ヘキ事柄ナリトスルモ直接荷主又ハ賃借人ト契約シタル者ニ於テコソ其物品ノ出所ヲ知り得テ實際先取特權ノ存在ヲ豫知シ以外ノ損害ヲ蒙ルコトナシトスルモ尙ホ二三ノ人ヲ轉輾シタル場合ヲ想像セハ其物品カ素ト運送セラレタルモノナルカ又ハ一旦賃借ノ場所ニ備付ケタルモノナルカヲ確カムルコトヲ得サルヘク若シ強テ之ヲ確カメサレハ損害アリトスルニ至テハ何人ト雖モ動産物ニ付キテハ安ンシテ取引ヲ爲サ、ルノ結果ヲ生セン

第三百三十四條 先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

物 權 編

本條ハ先取特權ト合意上ノ動産質ト同一ノ動産ノ上ニ競合スル場合ニ付キ其ノ先取特權ハ動産質ニ對シ如何ナル效力ヲ有スルカヲ明カニスル爲メ動産質權者ノ權利ヲ掲載シタルモノナリ動産ニ關スル特別ノ先取特權ノ順位ニ付キ默示ノ質入ニ基因セル先取特權ハ第一順位ニ在ルコトヲ見タリ第三百三十條第一號然ラハ其純然タル動産質ハ此ノ默示ノ質入ト同一ノ順位ニ在ラサルヘカラス故ニ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ特權者ト同一ノ權利ヲ有スルモノトセリ

物 權 編

斯ク動産質權者ハ默示ノ質入ニ基因セル先取特權者ト同一ノ權利ヲ有スルヲ以テ若シ第三百三十條ニ於テ第二第三ノ順位ヲ有スヘキ先取特權者アルコトヲ知リテ質取ヲ爲シタル債權者ニ在テハ其第一順位ハ第二第三順位ノ先取特權者ニ讓ラサルヘカラス例ヘハ甲ノ動産ニ付キ乙ハ保存行爲ヲ爲シ甲者未タ其費用ノ辨濟ヲ受ケス丙者ハ乙ナル保存者ノ先取特權アルコトヲ知リナカラ此動産ヲ質取トナシタルトキハ乙者ニ先テ第一順位ヲ占ムルコトヲ得ス必ス其順位ハ保存者ノ次ニ在ラサルヘカラス蓋シ其動産ノ上ニ既ニ先取特權ナル物權ノ負擔ヲ知リナカラ質入トナシタルモノナレハナリ質取ト爲スノ前ニ在テ債務者カ動産ノ賣買代價ヲ辨濟セス賣主ニ先取特權アルコトヲ知リナカラ質取ト爲シタルトキモ亦上ト同一ノ理由ニ依リ賣主ニ第一順位ヲ得セシメ質取主ハ第二ノ順位ニ非サレハ之ヲ占ムルコトヲ得サルナリ又質取債權者ノ爲メニ其動産ヲ保存シタル者ニ對シテモ第一順位ヲ占ムルコトヲ得サルナリ

物 權 編

動産債權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス然ラハ其第一順位ノ先取特權者即チ不動産質貸旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權ト同一ノ順位ニテ競合スル場合ナキカ不動産債權人カ其備付ケタル動産ヲ他ニ質入ト爲シ質取債權者ト質貸人ト競合スルカ如キ場合ハ生スルコトハナカルヘシ然レモ質借人カ他ヨリ質物トシテ動産ヲ受取リ之ヲ質貸場所ニ備付クルコトアリ此ノ場合ニ於テハ質貸人ノ先取特權ヲ及ホスト雖モ其質取人ハ即チ質貸人ノ債務者ナレバ同一ノ順位ニアラサルコト勿論ナリ然レモ質借人カ其動産ヲ他ニ移轉シ尙ホ其占有ヲ有スル場合ニ在テハ第三百三十條ニ依テ質貸人ノ先取特權ハ未タ消滅セサルモノタリ故ニ此間ニ於テ質借人カ手荷物ト爲シ又ハ荷物ト爲シタルニ依リ宿泊又ハ運輸ノ先取特權ヲ及ホスコトナキニシモアラサルヘシ此ノ場合ニ在テハ固ヨリ其動産ナルモノハ質物ニシテ債務者ノ所有ニアラサルヲ以テ第三百十九條ニ依リ第九十二條ヲ準用シ宿泊又ハ運輸ノ先取特權ヲ有スル債權者カ善意ナルト否トニ因テ區別ヲ爲スヘキモノナリ若シ善意即チ質物タルコトヲ知ラス債務者ノ所有物ナルコトヲ信シタル場合ニ在テハ固ヨリ質入アリトナスコトヲ得サレハ質權ト競合スルコトナ

カルヘシ又質物タルコトヲ知ルニ於テハ其動産ノ上ニ宿泊又ハ運輸ノ先取特
權ヲ行フコトヲ得サルヲ以テ是レ亦競合ノ場合ヲ生スルコトナカルヘキナリ

第三百三十五條 一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足
ルニ非サレハ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

不動産ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的タラサルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス
一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當
加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特
權ヲ行フコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産
ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

本條ハ一般ノ先取特權ノ實行ニ關シ其ノ實行スヘキ目的物ニ付キ順序ヲ定メ
タルモノナリ一般ノ先取特權ハ債務者ノ財産タル動産不動産ニ及ホスモノト
雖モ其動産ナリ不動産ナリ債權者ノ欲スル所ニ從ヒ先取特權ヲ行ヒ得ルモノ
ニアラス法律ハ之ニ其先ツ行フヘキモノハ不動産以外ノ財産ナリトシ其財産

ヲ差押ヘ之ヲ賣却シテ之カ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足ナルトキ始メテ不動産ニ付キ
辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモノトス第四百四十三條 現今ノ法律ハ各國共ニ不動産ヲ以

テ動産ヨリモ貴重ナルモノト爲ス故ニ無能力者ノ財産ヲ處分スルニ付テモ動
産ニ於ケルヨリモ其方式ヲ嚴ニシ又財産ヲ差押フルニモ動産ヲ先キニシ後ニ
不動産ニ及フヲ通例トセリ是レ其不動産ヲシテ所有者ノ手ヨリ脱却セシムル
ハ重大ナルモノトスルカ故ナリ法律ノ見ル所凡テ如斯ナルヲ以テ動産不動産
ニ及ホスヘキ一般ノ先取特權ヲ以テ債權ノ辨濟ヲ求ムルニ當テハ動産ヲ先キ
ニシ不動産ヲ後ニスルハ自然ノ順序ナリ獨リ此理由ノミナラス不動産ニ付テ
ハ抵當權ノ如キ他ノ優先權ヲ有スル者トノ關係アル場合多キヲ以テ若シ先取
特權ノ實行ニ付テ此ノ制限ヲ置カサルトキハ損害ヲ蒙ルモノ多キニ至ルヘシ
債務者カ一般ノ先取特權ヲ以テ擔保セラルヘキ債權ヲ生スル原因アル場合ハ
何レモ其資力ハ不十分ト云ハサルヘカラス既ニ資力ノ不十分ナル不動産ノ如
キハ業ニ既ニ抵當ト爲リ十中ノ八九マテハ不動産カ何等ノ負擔ナクシテ存在
スルトハ想像シ得ヘカラス如斯場合ニ在テ若シ動産ニシテ先取特權アル債權

編 權 物

編 權 物

物 權 編

ノ全部若クハ一部ヲ辨濟シ得ヘキモノアリトセハ先ツ之ヲ以テ其辨濟ニ充テ
 而シテ不足ヲ生スルトキ不動産ノ價額ニ付キテ辨濟ヲ受ケシムヘシ其多少ノ
 動産アルニ拘ラス直チニ不動産ニ付キ辨濟ヲ受ケテ從テ抵當債權者ノ權利ヲ減
 少スルカ如キハ特權者ノ保護ニ偏スルモノト云ハサルヲ得ス固ヨリ一般ノ先
 取特權ハ特別ノ先取特權ニ先ツコトヲ得サルヲ以テ動産ノ價額ニ付テハ一般
 ノ先取特權之ニ先ツヘキ債權者アリテ必スシモ動産アリトテ辨濟ヲ受クルコ
 トヲ得ルニアラスト雖モ若シ其動産ノ代價ニ依リテ辨濟ヲ得サルトキハ尙ホ
 不動産アルヲ以テ之ニ依テ辨濟ヲ受クルヲ得ヘク一般ノ先取特權者ハ本條ニ
 依リ多少ノ制限ヲ受クルモ抵當債權者カ一般先取特權者ニ先ンセラルニ比ス
 レハ其受クヘキ配當額ノ減少ヲ見ルコト少ナキモノナレハ此ノ制限ヲ置クハ
 公平ヲ得ルノ手段ト云フヘキナリ

一般ノ先取特權者ヲシテ先ツ動産ニ付キ辨濟ヲ受ケシムルハ不動産ニハ他ニ
 優先權ヲ有スル者アリテ一般先取特權ノ爲メニ權利ヲ減少セラル、トアルヲ
 恐レルカ故ナリ同一ノ理由ニ依リ動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得スシテ不

物 權 編

動産ニ付キ辨濟ヲ受クル場合ニ於テモ其不動産數個アリテ其内ニ特別擔保ノ
 目的トナリ居ルモノアルハ先ツ其特別擔保ノ目的物ニアラサル不動産ニ付
 キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足ナルハ特別擔保ノ目的タル不動産ニ付キ辨濟ヲ受ケシ
 ムヘキナリ

第三百三十五條第二項ニハ後チニ辨濟ヲ受クヘキ不動産ハ特別擔保ノ目的タ
 ルモノナリト云ヘリ特別擔保トハ普通擔保即チ共同擔保ニ對スルモノニシテ
 法律又ハ人爲ニ因リテ特ニ擔保ニ供セラレタル不動産ノ謂ナリ特別ノ先取特
 權モ亦特別擔保タリ第三百二十九條ニ於テ見タル如ク特別ノ先取特權ハ一般
 ノ先取特權ニ先ツヲ以テ其特別ノ先取特權ノ目的タル不動産ニ付テ一般先取
 特權者ノ權利ヲ行ハシムルモ之カ爲メ特別先取特權者ノ權利ヲ減少スルコト
 ナカルヘシ然レモ共益費用ノ先取特權ハ特別ノ先取特權ニ先ツコトヲ得ルヲ
 以テ此制限ナケレハ一般ノ先取特權ノ爲メ害ヲ受クヘシ質入抵當ノ如キ特別
 擔保ニ至テハ一般ノ先取特權ニ先タ、レルモノナルヲ以テ其特別擔保ノ目的
 タル物ヲ避ケ先ツ他ノ不動産ニ付キ辨濟ヲ受ケシムルニ非サレハ特別擔保ヲ

有スル者ハ之カ爲メ利益ノ減少ヲ見ルニ至リ一般ノ先取特權者ノ保護厚キニ過クル嫌ナキヲ得ス

以上ニ見ル如ク一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足ヲ生スルトキハ特別擔保ノ目的タラサル不動産ニ付キ辨濟ヲ受クヘシ是レ特權ノ行使ニ制限ヲ置キタルモノナリ此制限タルヤ一般先取特權者ニ

法律ノ命シタル條件ナルヲ以テ之ニ從ハサルヘカラス然レモ不動産以外ノ財産若クハ特別擔保ノ目的タラサル不動産ヲ賣却シ其代價ヲ配當スルニ當リ一般ノ先取特權者之ニ加入スルコトヲ怠ルコトアルヘシ此場合ニ於テ先取特權者ノ爲メニ更ニ配當ヲ更行スルカ如キハ他ノ債權者ヲ害スルヲ以テ之ヲ許ス

ヘキニアラス畢竟債權者カ法律ノ規定ニヨリ其權利ヲ行フヘキ場合ナルニ之ヲ行ハサリシハ怠慢ナリ其怠慢ヨリ生シタル不利益ノ結果ハ特權者自カラ之ヲ受ケサルヘカラス故ニ第三百三十五條第三項ハ其制裁ヲ掲ケ一般ノ先取特權者カ第二項ノ規定ニ從ヒ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入

ニ因リ受クヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三項ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得スト云ヘリ

一般ノ先取特權者カ卒先シテ債權ノ辨濟ヲ請求シ債務者無資力ノ形狀ニ陥リタル場合ニ於テハ固ヨリ先取特權者ハ此二個ノ制限ニ從テ配當加入ヲ爲スヘシ然レモ他ノ債權者ヨリ辨濟ノ請求ヲ爲シ債務者ノ動産不動産ヲ賣却スル場合ニ於テ多ク一般ノ先取特權者カ不動産以外ノ財産若クハ特別擔保ノ目的タラサル不動産ニ付テ配當加入ヲ怠ルコトアルヘシ其怠慢ノ爲メニ他ノ不動産ニ付キ權利ヲ有スル者ニ於テ損害ヲ被ムルヘキ理ナケレハ一般ノ先取特權者カ不動産以外ノ財産若クハ特別擔保ノ目的タラサル不動産ニ付キ配當加入ニ依リテ受クヘカリシ高タケハ之ヲ扣除シ他ノ債權者ニ對シ以テ其權利ヲ行ハサルヘカラス

然レモ凡テノ債權者ニ對シテ配當加入ニ因リテ受クヘカリシ限度マテノ特權ヲ失フニアラス其不動産ニ付キ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテノミ此限度ニ於テ特權ヲ行フコトヲ得サルナリ普通債權者ノ如キハ本條ノ定メタル制限ノ有無ニヨリテ損益アルモノニアラサレハ假令一般ノ先取特權者カ其制限ヲ守

物 權 編

物 權 編

ラス先ツ不動産ニ依テ辨濟ヲ受ケ又特別擔保アル不動産ニ付キ辨濟ヲ受クル
 モ其特權者ノ行爲ヲ非難スルコトヲ得ス之ニ反シテ不動産ノ上ニ權利ヲ取得
 シ且登記ヲ爲シタル者ニ在テハ先取特權者ハ制限ニ從フト否トハ自己ノ利害
 ニ大關係ヲ有スルヲ以テ法律ノ規定ヲ遵守セサル特權者ヲシテ完全ニ權利ヲ
 行ハシムルノ義務ナシ其ノ怠慢ノ結果ニ相當スル丈ケハ先取特權者ノ權利ヲ
 減殺セシムルハ當然ナリ

物 權 編

例ヘハ甲ナル債務者ニ乙丙丁ノ債權者アリ乙ハ日用品ヲ供給シ二百圓ノ債權
 者ナリ丙ハ甲ノ所有タル(イ)印ノ不動産ヲ抵當トシテ二百圓ヲ貸與シタル債權
 者ナリ丁ハ普通ノ貸主ニシテ其債權額ハ等シク二百圓ナリ然ルニ丁其償金ノ
 期限ニ到着シタルヲ以テ辨濟ヲ請求シタルニ甲者辨濟ヲ爲ス能ハス依テ丁ハ
 甲者ノ動産悉皆ヲ差押ヘ辨濟ヲ受ケンカ爲メ之ヲ賣却シ其配當ヲ爲スニ當テ
 ハ乙ナル債權者ハ一般ノ先取特權者ナルヲ以テ其配當ニ加入シ丁ニ先チテ辨
 濟ヲ受クヘキモノナリ然ルニ乙者怠リテ此ノ動産代價ノ配當ニ加入セザリキ
 此ノ場合ニ於テ其動産ノ代價ハ三百圓ナリトスレハ乙債權者ハ自己ノ債權ノ

全部ヲ辨濟セシムルコトヲ得シモノニシテ配當加入ニヨリ受クヘカリシ限度
 ハ二百圓ナリ

物 權 編

後日丙ナル抵當債權者ハ辨濟ヲ受クルカ爲メ其抵當タル(イ)印ノ不動産ヲ賣却
 シ其賣却代價ハ三百圓ナリ此時ニ至リ乙ハ先取特權者トシテ其不動産ノ賣却
 代價ニ付キ配當加入スルコトヲ得ルト雖モ丁者カ先キニ動産ヲ賣却シ配當ヲ
 爲スニ當リ之ニ加入シ二百圓ノ配當ヲ受クルコトヲ得タリシニ其之ヲ爲サ、
 リシハ乙者ノ怠慢ニ外ナラサルヲ以テ丙者カ不動産ハ代價三百圓ノ内ヨリ二
 百圓ノ辨濟ヲ受ケ其殘餘即チ百圓ニアラサレハ辨濟ヲ受クルコトヲ得サルナ
 リ動産ノ配當加入ニヨリ得ヘカリシ限度ハ二百圓ナルヲ以テ其二百圓マテハ
 丙ナル抵當債權者ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス
 尙ホ前例ニ依リ丁者ハ辨濟ヲ要求シ動産ヲ差押ヘタルニ其ノ動産ノ價額僅少
 ニシテ僅カニ十圓ニ過キス依テ丁者ハ甲者ノ所有タル(ロ)印ノ不動産ヲ差押ヘ
 (特別擔保ノ目的タラサルモノ)之ヲ競賣ニ附シタルニ其價額三百圓ナリ乙ナル
 一般ノ先取特權者ハ其動産ノ代價配當ニ加入シ十圓ノ辨濟ヲ受ケタリ(ロ)印不

物 權 編

動産ノ價額配當ニモ百九十圓ノ債權ヲ以テ加入シ先取特權ヲ行フヘキニ之ヲ怠リタルトキハ其怠慢ニヨリテ受クヘクシテ受ケサル限度ハ百九十圓ナリ故ニ後日丙者カ抵當ノ目的タル(イ)印ノ不動産ヲ賣却スルニ當リ百九十圓ノ債權者トシテ先取特權ヲ以テ抵當債權者ニ先ツコトヲ得サルナリ

一般ノ先取特權者カ配當加入ヲ怠リ其受クヘカリシ限度マテ先取特權ヲ失フハ登記シタル第三者ニ對シテナリ其第三者トハ不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル抵當債權者ヲモ指稱スルコトハ上ニ述ヘタル所ヲ以テ明カナリ獨リ抵當債權者ノミナラス質權者特別先取特權者及ヒ第三取得者ニ對シテモ亦先取特權ヲ行フコトヲ得サルナリ抵當債權者ニ對シテ先取特權ヲ行フコトヲ得サルヲ以テ不動産質權者ニ對シテモ之ヲ行フヲ得サルハ辯ヲ俟タスシテ明カナリ特別先取特權者ハ常ニ一般ノ先取特權者ニ先ツモノナリ故ニ此特權者ニ對シテ先取特權ヲ行フヲ得スト云フノ必要ナキカ如シト雖モ共益費用ヨリ生スル一般ノ先取特權者ノ如キハ例外トシテ特別先取特權ニ先ツノ權アリ第三百二十項今此ノ共益費用ノ債權者ニシテ不動産以外ノ財產若クハ特別擔保ノ目的タラザ

物 權 編

ル不動産ノ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ他ノ特別先取特權ニ先チテ自己ノ先取特權ヲ行フコトヲ得サルナリ

配當加入ヲ怠リタル債權者ハ第三取得者ニ對シテモ先取特權ヲ行フコトヲ得ス例ヘハ甲者ニ必需品ヲ供給シタル乙者アリテ債權ヲ有シタルトキハ甲者ノ動産不動産ノ上ニ一般ノ先取特權ヲ有ス而シテ甲者其ノ不動産ノ一ヲ他ニ賣却シタルトキト雖モ乙者カ自己ノ先取特權ヲ其不動産ニ付キ既ニ登記ヲ爲シ居ルニ於テハ第三取得者ニ移轉シタル不動産ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ而シテ乙者カ動産ノ配當若クハ他ノ不動産ノ配當ニ加入ヲ怠リタルトキモ之カ爲メ第三者ニ移轉シタル不動産ノ上ニ追及權ヲ失フニアラス然レモ乙者ナル先取特權者カ其不動産ヲ差押ヘ先取特權ヲ行ハントスルニ當テ第三者取得者ハ之ニ對抗シ汝ノ先取特權ヲ以テ配當ヲ受クヘキ債權ハ先キノ動産若クハ不動産ノ代價ニ依テ辨濟ヲ受クルコトヲ得タリ然ルニ怠リテ配當加入ノ手續ヲ爲サ、リシハ汝ノ怠慢ヨリ生シタル結果ニ外ナラス今其結果ハ余カ之ヲ受クヘキニアラスシテ汝ニ歸スルハ當然ナリ故ニ先キノ配當ニ依リテ得ヘカ

物 權 編

リシ限度迄ヲ控除シタル債權ニ付テハ予カ取得シタル不動産ヲ賣却スルモ異議ナシト雖モ債權全部ニ付テ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘカラスト言フヲ得ヘキナリ故ニ其限度カ債權ノ全部ニ當ルトキハ第三取得者ハ全ク不動産ノ賣却ヲ拒ムコトヲ得ヘク若シ債權ノ一部ニ止マルトキハ限度マテニ扣除シタル高ニ付テ滌除ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ

舊法^{三條第百四十項}ハ一般ノ先取特權者カ動産代價ノ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ動産ニ付キ受クヘカリシモノ、限度ニ於テ不動産ニ付キ其優先權ヲ失フモノトス其失權ノ點ニ付テハ新法ト全一ナリト雖モ舊法ニ於テハ汎ク不動産ニ付キ先取特權ヲ失フトアルヲ以テ當ニ其不動産ニ付キ抵當權質權又ハ先取特權ヲ有スル債權者ニ對シテ之ヲ失フノミナラス普通債權者ニ對シテモ之ヲ失フモノタリ然レモ新法ニ於テハ之ヲ修正シ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテノミ先取特權ヲ行フコトヲ得ストシ普通債權者ニ對シテハ尙ホ優先權アルモノトセリ蓋シ曩キニモ述フル如ク普通債權者ニ對シテハ加入ヲ怠リタルト否トハ毫モ利害ノ關係ナク唯普通債權者カ不利益ヲ受クルハ先取特權ノ

物 權 編

有無ノミナレハ特權ノ成立ヲ害セサル以上ハ此加入怠慢ノ點ヲ以テ一般ノ先取特權ヲシテ優先權ヲ失ハシムルノ必要ナシ
上ニ述ヘタル所ハ一般ノ先取特權ヲ受クヘキ債務者ノ動産若クハ特別擔保ノ目的タラサル不動産ヲ賣却シ其ノ代價ヲ配當シ後不動産又ハ特別擔保ノ目的タル不動産ヲ賣却シ其代價ノ配當アル場合ナリ之ニ反シ先ツ不動産ノ代價ヲ配當シテ後不動産以外ノ財産ノ代價ヲ配當シ又ハ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當シ後他ノ不動産ノ代價ヲ配當スルコトアリ第三百五十三條第四項ハ此ノ場合ニ於テハ余輩ノ上來見タル所ノ規定ヲ適用セサルモノトセリ故ニ抵當權者質權者若クハ特別先取特權者カ其ノ目的トスル所ノ不動産ヲ賣却シ其代價ノ配當ヲ爲スル(其前ニ於テ嘗テ動産若クハ他ノ不動産ノ代價ニ付キ配當ナカリシキ)ハ先取特權者ハ直チニ其抵當權者質權者若クハ特別先取特權者ト競合シテ先取特權ヲ行フコトヲ得ルモノナリ最初ニ動産若クハ特別擔保ノ目的タラサル不動産ノ配當アル場合ニ於テハ上ニ見ル如キ制裁ヲ加ルコトヲ得ルト雖モ本例ノ場合ニ於テハ未タ動産若クハ特別擔保ノ目的タラサル不

物

權

編

動産ノ配當ヲラサルヲ以テ後日其配當アルヘシトノ想像ヲ以テ一般ノ先取特
權者ノ權利ヲ減少シテ加入セシムルカ如キハ爲シ得ヘカラス若シ之ヲ爲スト
スレハ或ハ後日遂ニ配當スヘキ財產ナクシテ一般ノ先取特權者ハ何等ヲモ得
ルコト能ハサルノ不幸ニ立至ルヘシ故ニ此ノ場合ニ於テ法律ヲ一般ノ先取特
權者ニハ制限ヲ加ヘサルナリ

物
權
編

舊法第三百四十二條ニ於テハ動産代價ノ配當ニ先チテ不動産代價ノ配當アルハ
後日動産ヲ賣却シテ辨濟ニ不十分ナルハ配當ヲ受ケ否ラサルトキハ配當ヲ
受ケスト云ヘル條件付ニテ假リニ加入スルコトヲ得ルモノトス故ニ後日動産
代價ノ加入ニ於テ辨濟ヲ得サル部分ノ定マルマテハ不動産代價ノ配當ヲ受領
スルコトヲ得ス動産ヲ賣却シ配當ヲ受ケ其不足アルニ當テ初メテ不足額ノミ
ヲ受領スルコトヲ得若シ後日動産ノ代價ニテ全部ノ辨濟ヲ得タルトキハ假リ
ニ配當シタル不動産ノ代價ハ之ヲ他ノ満足ヲ得サル債權者ニ配當スヘキモノ
トセリ然レモ此規定タルヤ頗ル煩雜ヲ免レサルモノナルヲ以テ新法ニ於テハ
之ヲ採用セス單純ニ一般ノ先取特權者ヲシテ直ニ不動産又ハ特別擔保ノ目的
タル不動産ニ付テ其權利ヲ行フコトヲ得セシメタリ一般ノ先取特權者ノ利益
ヨリ見ルハ新法ノ如クスヘキノ理由アリト雖モ他ノ特別擔保權ヲ有スル者
ヨリ見ルトキハ配當ナル行爲カ先ツ動産若クハ特別擔保ノ目的タラサル不動
産ヨリ始マリタルト不動産若クハ特別擔保ノ目的タル不動産ヨリ始マルトニ
ヨリテ大ナル利害ノ差違ヲ生シ其間穩當ヲ失スルノ感ナキ能ハス畢竟配當ノ
前後ハ權利ノ消長増減ノ原由トナルヘキモノニアラス特別擔保ヲ有スル債權
者カ普通債權者ヨリ先キニ權利ノ執行ヲ始メタルトテ之カ爲メ普通債權者カ
執行ヲ始メタルヨリモ不利益ノ結果ヲ受クルノ理ナカルヘシ舊法ニ於ケル如
キ條件付ヲ以テ假リニ配當ニ加入スル方法ハ頗ル煩雜ナルニ相違ナキモ權衡
ヲ得ルノ點ニ於テハ或ハ優ル所アラン

第三百三十六條 一般ノ先取特權ハ不動産ニ付キ登記ヲ爲ササルモ之ヲ以テ特別擔保ヲ有
セサル債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此ノ限リニア
ラス

本條ハ一般ノ先取特權ニ付キ其效力ト登記トノ關係ニ付規定ヲ下シタルモノ

ナリ先取特權ハ一ノ物權ナリ而シテ其動産ニ關スルトキハ登記ノ有無ハ之ヲ論スルノ要ナシ不動産ニ關シテハ物權ノ得喪ハ登記ヲ爲スニアラサレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルコトハ第一百七十七條ニ定ムル所ノ一般ノ原則ナリ本條ハ普通債權者ニ對シテハ此ノ原則ノ例外ヲ定メ特權擔保ヲ有スル債權者及ヒ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ一般ノ原則ニ依ラシメタリ

一般ノ先取特權ハ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對シテハ不動産ニ付キ登記ヲ爲サ、ルモ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得斯ク法律カ一般ノ先取特權ニ限リ不動産ノ物權ニ關スル得喪ニ例外ヲ置キタリ一般ノ先取特權ヲ得ヘキ原因ヲ有スル者ノ情態ヲ觀察スルニ共益費用、葬式費用、雇人給料、日用品供給或ハ情誼ニ出テ或ハ金額ノ多カラサル爲メ其債權者タル者ニ於テ權利ヲ得ル毎ニ一々之カ登記ヲ爲スカ如キハ殆ント稀ナリ故ニ若シ是等ノ債權者ヲシテ登記ヲ爲スニアラサレハ權利ヲ全フスルヲ得ストスルニ於テハ一般ノ先取特權ハ實際ニ於テハ有名無實ニシテ債權者ハ其利益ヲ受クル場合ナキニ至ラント云フノ情態ニ基キ此例外ヲ設ク

物 權 編

物 權 編

然レハ特別先取特權者質權者抵當債權者第三取得者等ニ對シテハ登記ヲ爲シテ以テ一般ノ先取特權ヲ知ラシムルヲ要ス是等第三者ハ常ニ登記ニヨリテ不動産上ノ負擔ヲ調査シ而シテ權利行爲ヲ爲スモノナレハ其登記以外ノ行爲ノ爲メニ權利ヲ減少セラレ不測ノ損害ヲ蒙ラシムヘカラス故ニ一般ノ先取特權者ト雖ハ登記ヲ爲スニアラサレハ第三者ニ對シテ權利ヲ保存スルコトヲ得ス前段ニ述ヘタル如ク一般ノ先取特權ヲ生スヘキ原因ヲ有スル債權者ノ情態トシテ登記ヲ爲スカ如キコトナキモノトスレハ不動産上ニ權利ヲ有スル第三者ト相對スルトキハ常ニ特權ノ實用ナキニ至ルモノト云ハサルヲ得ス然リ然レハ唯此ノ點ニ於テハ利益ヲ保護スルノ點ニ於テ第三者ト特權者ト何レカ重シトスルヤノ一點ニ於テ此ノ特權者ニ對シ不幸ナル結果ヲ與フルハ萬止ムヲ得サルモノナリ不動産ノ上ニ權利ヲ取得スル者ト一般ノ先取特權者トヲ比較スレハ自カラ利益ノ大ナルモノハ前者ニ在リテ後者ハ十中ノ七八マテハ前者ト競合スル場合ニ於テ權利ノ效用ヲ見サルモ尙ホ前者ノ權利ヲシテ益鞏固ナラシムルニ若カサルナリ

物 權 編

第三百六十六條ニ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケス」ト記載シ特別擔保ヲ有スル債權者ニ對シテハ登記ヲ要スルコトヲ表示シナカラ但書ニ「登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限リニアラス」トアリテ此第三者トハ前條第三項ニ在ル「登記ヲ爲シタル第三者」ト同一ニ解スルルハ稍重複ニ涉ルノミナラス行文上妥當ヲ失スルノ感アリト雖モ本條ニ特別ノ擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケスト記載セシハ舊法^{擔保百四十五條}ニ他ノ債權者ニ對抗スル爲メ其不動産ニ付テノ登記ヲ要セストアリテ聊カ汎漠ニ失スルヲ以テ債權者ヲ限定スル爲メ特別ノ擔保ヲ有セサル債權者ト記載シ又但書ハ舊法^{擔保百九十九條}ニ一般ノ先取特權ハ第三所持者ノ取得ノ登記所ニ之ヲ登記スルニアラサレハ其第三所持者ニ對抗スルヲ得スト定メタルモノニ修正ヲ加ヘタルモノニ外ナラサレハ第三取得者ノ意義ニ外ナラサルナリ之ヲ要スルニ一般ノ先取特權者ハ不動産ニ付テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノナリ第三取得者ハ勿論他ノ特別擔保ヲ有スル債權者ト雖モ後ニ見ル如ク登記ヲ爲スニアラサレハ其擔保ノ效力ヲ保存スルコトヲ得サルヲ以テ一般ノ先取特權者ニ對シテモ登記ヲ爲サ、サル者ハ權利ヲ行フコトヲ得サルナリ

物 權 編

斯ク第三者ニ對シテハ登記ヲ要スルモノナルヲ以テ其第三者ニ對シテハ一般ノ先取特權ノ存在スル時期ハ登記ノ日付ニ在リ假令先取特權ヲ生スヘキ原因ハ抵當權若クハ質權ノ設定以前ニ在リト雖モ其登記カ抵當權若クハ質權ノ登記ノ後ニ在ルトキハ先取特權ハ此特別擔保ニ對シテハ即チ登記ナキモノニシテ對抗スルコトヲ得サルナリ然レモ登記ヲ爲サ、ルトテ絶對ニ一般ノ先取特權カ消滅シタリト云フニアラサルヲ以テ登記ヲ遲延シ甲抵當權者ニ對シテハ對抗スルコトヲ爲サ、ルモ一般ノ先取特權ヲ登記シタル後ニ在テ登記ヲ爲シタル抵當權ニ對シテハ完全ニ其效力ヲ保存スルコトヲ得ヘキナリ

一般ノ先取特權ノ登記ハ他ノ特別擔保ヲ有スル債權者又ハ第三取得者ニ對シテハ其效力ヲ有スルコト上ニ見タル如ク其有無ハ以テ效力ノ如何ニ關係アルモノナリ然ラハ一般ノ先取特權者相互ノ間ニ在テハ如何ナル效力ヲ有スルモノナルカ此間ニ在テハ第三百二十九條第一項ニ於テ見タル如ク唯法定ノ順次ニ從テ順位ニ前後アルモノニシテ決シテ登記ノ有無ハ相互間ノ效力ヲ保存ス

ルニ影響アルモノニアラス甲ナル一般ノ先取特權者カ其權利ヲ得ル爲メ乙ナル他ノ一般先取特權者カ不動産ノ上ニ權利ヲ保存スルヤ否ヤヲ調査スルカ如キコトナク又債務者ノ不動産ニ付キ負擔ノ有無ヲ調査シテ而シテ後債權ヲ生スヘキ行爲ヲ爲スモノニアラサレハ登記ノ有無ハ全ク相互間ニ於テハ關係ナキモノナリ

第三百三十七條 不動産保存ノ先取特權ハ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ保存ス

本條ハ不動産保存ノ先取特權ハ登記ヲ爲スニヨリテ其ノ效力ヲ保存スルコトヲ規定シタルモノナリ此ノ先取特權ハ不動産上ニ取得シタル物權ナルヲ以テ一般ノ原則ニ從ヒ登記ヲ爲スニアラサレハ第三者ニ對シテ效力ヲ有スルコトヲ得サルハ勿論ナリ

不動産保存ノ先取特權ヲ登記セサル前同一不動産ニ付キ物權ヲ有スル者例ヘハ抵當權者ノ如キ者アリテ其登記ヲ爲シタルトキハ先取特權ハ普通ノ場合ニ於ケルカ如ク第一ニ登記シタル抵當權ノ爲メニ先タル、モノナルカ若シ一般

物 權 編

ノ物權ニ於ケル如ク登記ノ前後ヲ以テ權利ノ優劣ヲ定ムルモノトスレハ一般ノ原則ニ依ツテ既ニ明カナリ然ルニ特ニ本條ヲ置キタルニ依リ保存ノ行爲ノ完了シタルトキハ先取特權ハ成立スルモノナルヲ以テ登記ヲ爲シ效力ヲ保存シタルトキハ保存行爲完了ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生セシムルノ意ヲ知ルニ足レリ加之ラス第三百三十九條ニ於テ登記シタル先取特權ハ抵當ニ先ツコトヲ規定シタリ故ニ抵當權ニ先タ、レルコトナシ其他一般ノ先取特權ニ對シテ優先權アルコトハ第三百二十九條ニ規定シアレハ保存ノ先取特權其モノニ於テ登記ヲ爲シ完全スルニ於テハ不動産上ニ物權ヲ有シタル他ノ者ニ對シ優先權ヲ有スルモノナリ若シ否ラストセンカ不動産上ニ物權ヲ有シ保存ノ先取特權ニ先チ登記ヲ爲シタル抵當權者ハ常ニ保存ノ先取特權ニ先ツニ至ラン然ルニ其抵當債權者ト雖モ此ノ保存行爲アリタル爲メニ不動産ノ滅失又ハ減少ヲ防止スルコトヲ得テ利益ヲ受クル者ナレハ保存者ノ爲メニ權利ヲ讓ルヘキハ當然ニシテ法律カ保存者ニ先取特權ヲ附與シタル目的ヲ達セシムルニハ一般ノ例ニ因ラスシテ他ノ債權者ニ先タシメサルヘカラサルナリ

物 權 編

不動産保存ノ先取特權ヲシテ完全ニ其效力ヲ生セシムルニハ保存行為完了ノ後直チニ登記ヲ爲スコトヲ要ス若シ保存完了ノ後登記ヲ遷延シ其完了ト登記ヲ爲スノ間ニ在テ他ノ債權者登記ヲ爲シタルトキハ先取特權ハ其登記ヲ爲シタル債權者ニ對シテハ效力ヲ保存シタルモノニアラサルヲ以テ之ヲ行フコトヲ得ス保存行為ノ完了ハ如何ナル時ニ在ルカハ事實ノ問題ニシテ法律ニ定ムヘキ事柄ニアラサルコト勿論ナリ例ヘハ家屋ニ修繕ヲ施シ其大半ハ既ニ成就スルモ尙ホ一半ハ數年ノ後ニ成就スルカ如キコトナキニシモアラス此ノ場合ニ於テ其大半ノ成就ヲ以テ保存行為完了ト爲スニアラスシテ一半ノ修繕ヲモ成就シタルトキ保存行為ノ完了ナリトス然レモ若シ其大半ノ修繕ト一半ノ修繕トカ修繕ヲ爲シタル人ヲ異ニシ其修繕カ別個ノモノナルニ於テハ即チ二個ノ保存行為アリタルモノニシテ大半ノ修繕ヲ成就シタルトキハ一個ノ保存行為爲了シタルモノナルヲ以テ直チニ登記ヲ爲サ、ルヘカラス否ラサレハ其先取特權ハ效力ヲ保存スルコトヲ得サルナリ

保存行為爲了ノ後直チニ登記ヲ爲スコトヲ要ス其ノ完了ト登記トノ間ノ時間ニ付テハ法律ハ直チニト云フテ別ニ期間ヲ定メタルニアラス是亦事實ノ問題ニ屬スルト雖モ要スルニ保存行為現ニ完了シタル後ニシテ他ノ債權者若クハ第三取得者カ登記ヲ爲サ、ル間ニ登記ヲ爲セハ其效力ヲ保存スルニ足ルモノタリ何トナレハ完了ノ即日ニ登記ヲ爲サ、ルモ第三者トノ關係ヲ生セサル内ニ登記ヲ爲シ第三者ヲ誤ラシムルコトナケレハナリ畢竟不動産保存ノ先取特權ハ法律ノ保護最モ深ク他ノ優先權ニ先タシムルニ拘ラス保存行為完了ノ後直チニ登記ヲ爲ス所以ハ第三者ヲ保護スルニ外ナラス然ラハ其第三者ノ關係ナキ以前ニ在テ登記ヲ爲シタル者ハ保存行為完了ノトキヨリ多少遷延シタルモ效力ヲ保存スヘキ條件ヲ履行シタル者トナシテ毫モ妨ケナシ。

物 權 編

保存行為以前ニ在テ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ハ固ヨリ保存以前ヨリ成立シアルヲ以テ保存行為完了ノ後登記ノ有無ハ何等ノ關係アルコトナシ然ルニ此債權者モ保存ノ爲メ均シク利益ヲ受ケタルモノナリトノ理由ヲ以テ保存者ヲシテ先タシムルモノトスレハ保存後ニ顯出セル第三者ニ對シテモ亦此理由ニヨリテ登記ノ有無ニ關セス先タシメテ可ナルカ如シ然レモ保存行為ノ前

物 權 編

ニ不動産ニ付テ權利ヲ有スル者ト保存行爲ノ後ニ權利ヲ所有シタル者トハ其
 第三者ノ區域ニ於テ大ニ異ナル所アリ保存行爲前ニ在テ登記ヲ爲シタル者ハ
 特別擔保ヲ有スル先取特權者質權者抵當權者ノ如キモノニ過キサルヘシト雖
 凡保存行爲ノ後所有者ハ質權抵當權ヲ設定スル等ニ止ラス之ヲ他人ニ讓渡ス
 コトアルヘシ此ノ場合ニ於テ第三取得者ハ保存ノ先取特權アルコトヲ知ラス
 シテ之ヲ取得スルカ如キ不幸ナル結果ヲ生スルノ虞アリ此ノ如キ不動産ノ移
 轉ニ付キ不安アルハ保存行爲以前ニ登記ヲ爲シタル債權者カ害ヲ受クルヨリ
 モ公益上ノ不利益大ナルヲ以テ保存行爲ヲ登記スルニアラサレハ其行爲後ノ
 第三者ニ對シテ先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノトス
 保存行爲爲定了後直チニ登記ヲ爲サス他ノ特別擔保ヲ有スル者登記ヲ爲シタル
 凡ハ其登記ヲ爲シタル債權者ニ對シテ先取特權ヲ行フコトヲ得スト雖凡之カ
 爲メ絶對ニ先取特權ヲ失フモノニアラス其先取特權ヲ遲延ナカラ登記スルニ
 於テハ先キニ登記ヲ爲シタル者ニ對シテ特權ヲ行フコトヲ得サルノミニシテ已
 レヨリ以後ニ登記ヲ爲シタル者ニ對シテハ之ヲ行フコトヲ得ヘキナリ何トハ
 レハ其ノ已レヨリ後チニ登記ヲ爲シタル者ニ對シテハ先取特權ハ登記ニヨリ
 テ其效力ヲ保存セラレタレハナリ

物 權 編

他ノ先取特權ニ對スルトキハ予輩ノ上ニ見タル如ク特權間ノ相互順位ハ法律
 ニヨリ規定シアリト雖凡是レ先取特權ノ効力カ保存セラレタル場合ヲ想像シ
 タルモノニシテ保存ノ先取特權ヲ登記セス從テ其效力ヲ保存セサル場合ニ於
 テハ固ヨリ第三者ニ對シテハ保存ノ先取特權ナキト同一ナレハ他ノ先取特權
 カ之ニ先タル、ノ理アルヘカラス然レ凡後日之ヲ登記シタルトキハ其後ニ生
 シタル先取特權ニ對シテハ法律ノ定メタル順位ニ因リテ之ヲ行フコトヲ得ヘ
 キナリ
 數名ノ保存者アリタルトキニ其何レヲ先キニスヘキカハ不動産ニ付テハ其規
 定ナシ動産ニ關シ第三百三十條第二號ノ規定ハ其精神ニ於テハ不動産ニ於ケ
 ルモ同一ナルヘシト雖凡先取特權ノ順位ハ法律ノ規定ニヨルヘキモノナルヲ
 以テ之ヲ比附援引スルコトヲ得ス然ラハ其數名ノ保存者間ニ於ケル順位ハ登
 記ニヨリテ之ヲ定ムヘキカ將タ同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數

物 權 編

名アルトキノ規定ニ從ヒ各其債權額ノ割合ニ從テ其辨濟ヲ受ケシムヘキカ三
 百三十條 數名ノ保存者アリテ各第三百三十七條ノ規定ニ從ヒ保存行爲ノ完了ノ
 後直チニ登記ヲ爲シタリト假定センニ此ノ場合ニ於テハ先取特權ハ完全ニ其
 效力ヲ保存ス其保存者間ノ前後ハ第三百三十一條ニ於テ登記ノ前後ヲ以テ之
 ヲ定ムルコトヲ述ヘタリ然レモ其登記ニヨリテ前後ヲ定ムルハ他ノ先取特權
 者間ノ順位ニ比較スレハ甚タ權衡ヲ失スルノ嫌アリ故ニ同一ノ目的物ニ付キ
 同一順位ヲ有スルモノトシテ平等ノ辨濟ヲ受ケシムルヲ以テ妥當ナリト思者
 ス然レモ動産ニ付テハ最後ノ保存者ヲ以テ保存ノ實行ヲ奏スルコト多キニ居
 ルモノトシテ之ヲ先キニシ順次遡リテ順位ヲ立ツルモノトナシナカラ不動産
 ニ付テハ此ノ區別ヲ爲サ、ルハ是亦其權衡上宜キヲ得タルモノト云フヲ得ス
 然レモ法律ニ規定ナキヲ以テ已ムヲ得ス登記ニヨルカ同順位ニ因ルカノ二者
 ニ出テサルヘカラサルナリ
 登記ヲ爲サ、ル不動産保存者ハ其先取特權ノ效力ヲ保存スルコトヲ得ス故ニ
 保存行爲ヲ施シタル不動産ヲ差押ヘテ其代價ニヨリ辨濟ヲ受クルコトヲ得サ

物 權 編

ルノミナラス第三百四條ノ目的物ニ代ハルヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ亦之
 ヲ行フコトヲ得サルナリ蓋シ該條ノ代表物ニ付テ其先取特權ヲ行フハ其先取
 特權カ成立シ且效力ヲ有スル場合ニ在ルモノナルニ本例ノ場合ニ於テハ登記
 ノ欠缺シタルカ爲メ先取特權ノ效力ヲ有スルコトヲ得サル場合ナレハナリ
 第三百二十八條 不動産工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ其費用ノ豫算額ヲ登記スル
 ニ因リテ其效力ヲ保存ス但工事ノ費用ノ豫算額ヲ超フルトキハ先取特權ハ其超過額ニ
 付テハ存在セス
 工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價額ハ配當加入ノ時裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人
 ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ要ス
 本條ハ不動産工事ノ先取特權ヲ保存スル時期増價額評定ノ標準及ヒ其方法ヲ
 定メ以テ該特權ノ效力ヲ規定シタルモノナリ工事者カ其工事ヲ施シタル不動
 産ノ上ニ有スル先取特權ハ即チ不動産上ノ物權ナルヲ以テ一般ノ原則ニ從フ
 テ登記スルニ非サレハ第三者ニ對抗スルヲ得ス然ラハ此登記ヲ爲シテ初メテ
 他ノ債權者及ヒ第三取得者ニ對シテ其先取特權ノ效力ヲ保存スルコトヲ得ヘ

キナリ

工事ノ先取特權ノ效力ヲ保存スル爲メ登記ヲ爲スニハ如何ナル事項ヲ登記スヘキモノナルカ本條ハ工事ヲ始ムル前工事費用ノ豫算額ヲ登記スルモノトセリ工事ノ先取特權ハ其工事ノ費用ノ辨濟ヲ受クヘキ債權ヲ擔保スルモノナルヲ以テ工事費用ノ未タ辨濟セラレサルコト及ヒ其費用額ニ付テハ不動産上ニ先取特權ヲ負擔スルコトヲ第三者ニ知ラシムレハ足レリ其第三者ハ登記ニヨリテ不動産上ニ工事費用ニ相當スル負擔アルコトヲ知リテ權利ヲ取得スル者ナレハ不測ノ損害ヲ受クルコトナカル可シ

舊法第百七十五條ニ於テハ三個ノ調書ヲ作り漸次之ヲ登記スルコトヲ要スルモノトセリ然レモ本法ハ其手續タルヤ到底行ハレ難ク之カ爲メ却テ先取特權ノ便益ヲ減殺スルノ虞アルヲ以テ務メテ之ヲ簡略ニシ工事着手前一度費用ノ豫算額ヲ登記セハ先取特權ヲ保存スルコトヲ得ルモノト改メタリ工事ノ先取特權ハ第三百二十七條ニ於テ見タル如ク増價額ニ付テノミ存在スルモノニシテ工事ヲ始ムル前ニ在テハ固ヨリ増價額ヲ確知スルコトヲ得ス又工事ノ既

物 權 編

物 權 編

ニ竣成シタル後ニ在テモ其工事前ノ現狀ハ如何ナリシカラ知ルコト難キヲ以テ確實ナル増價額ヲ評定シ得ルコト困難ナリ是ヲ以テ舊法ニ於テハ工事ヲ始ムル前ニ第一調書ヲ作り工事ノ竣成若クハ工事ノ絶止後第二ノ調書ヲ作り配當加入ノ當時第三調書ヲ作り漸次之ヲ登記スルモノト爲シ以テ其増價額ヲ正確ニ算定シ得ルノ方法ト爲シタリ然レモ新法ニ於テハ増價額評定ノ標準ヲ不動産其他ノ増價ニ採ラスシテ工事費用ノ豫算額ニ依リテ之ヲ評定スルモノトセリ故ニ費用ノ豫算額ヲ登記スレハ以テ足レリトス此増價額標準ノ方法ハ舊法ニ比スレハ正確ナラサルモノ、如シ何トナレハ工事ノ費用多ケレハ必スシモ増價額多シト云フニアラス費用ノ多キニ拘ラス増價額ノ極メテ僅少ナル場合アルモノナレハナリ然レモ舊法ノ採用シタル方法ニ依ルモ第一第二ノ調書ニ依テ不動産ノ如何ナル部分ニ工事カ施サレタルカハ之ヲ知ルヲ得ヘシト雖モ其工事ニ依リ不動産全体ニ幾何ノ増價アルカヲ評定スルニハ其工事ノ爲メニ要シタル費用ヲ以テ標準ノ一ト爲スヘケレハ亦新法ニ於ケルト同一ニ歸ス只新法ニ於テハ其増價ヲ評定スルニ當リ如何ナル部分ニ工事ヲ施シ不動産カ

如何ナル變狀ヲ受ケタルヲ知ルノ點ニ於テハ之ヲ正確ニ知ルコトヲ得サルノ不都合ナキ能ハサルナリ

例へ、ハ一個ノ家屋ニ二ヶ處ノ建増ヲ爲スニ當リ工事者ト契約ヲ爲シ其壹ヶ所用豫算額ヲ登記シ二ヶ處ノ内壹ヶ所ハ工事ヲ施シ其建増丈ケノ増價ヲ爲シタルモ他ノ一ヶ所ニ付テハ工事ヲ起サス唯タ準備ノミニ止マリ其準備ノ費用五百圓ニ騰リ遂ニ建増ヲ爲スニ至ラスシテ所有者無資力ト爲リタルハ工事者ハ千五百圓ノ債權ヲ有ス然レモ不動産ノ増價ハ壹千圓ノ費用ニ對スル壹ヶ處ノ費用ヲ生シタルニ止マリ豫算ノ如ク二ヶ所ノ増價アルニアラス然ルニ登記面ノ豫算額ヨリ見ルハ二千圓ニ對スル増價額アルモノ、如ク殆ト豫算額ハ評定ヲ爲スノ標準ト爲ルコト能ハサル場合ナキニシモアラサルヘシ舊法ノ方法ニヨレハ此ノ如キ場合ニ於テハ其増價額ヲ評定スルコト極メテ容易ニシテ又正確ナリ然レモ本法ノ目的タル手續ヲ省キ法文ヲ簡略ニスルノ點ヨリシテ三ヶノ調書ニヨリ登記ヲ爲スハ煩ナリトシテ之ヲ改ムルニ至リタリ

物 權 編

物 權 編

不動産工事ノ先取特權ヲ登記シタルハ其效力ハ債權ヲ生シタル時ノ如何ヲ問ハス又登記ノ前後ヲ問ハス何レノ第三者ニ對シテモ法律ニ與ヘタル順位ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ルモノナルコトハ尙不動産保存ノ先取特權ニ於テ見タルト同一ニシテ其理由モ亦同一ナレハ更ニ茲ニ之ヲ述ヘス
工事ノ先取特權ヲ保存スル爲メ登記スヘキ金額ハ其工事費用ノ豫算額ナリ然ルニ後日工事竣成ノ上ハ實際ノ費用ハ豫算額ヲ超過スルコトアリ例へハ工事ノ費用ハ一萬圓ナリト見積リ之ヲ登記シ置キ工事竣成ノ上ハ其費用ハ一萬五千圓ニ達シタリトセンニ此場合ニ於テ先取特權ヲ其實際ノ費用即チ一萬五千圓ノ債權ニ付テ存在スルモノナルカ若シ五千圓ノ債權モ尙ホ先取特權アリトスルニ於テハ第三者ハ登記ニ依リテ不動産ノ上ニハ一萬圓ノミニ先取特權アリト信シ權利ヲ取得シタルニ後日ニ至リ己レノ知り得サリシ五千圓ノ爲メニ權利ヲ減殺セラルノ不幸ヲ見ルニ至ラン是レ不動産ニ關シ其負擔ヲ公示スルノ精神ニ悖リ登記ノ信用ヲ害スルモノナルヲ以テ登記シタル豫算額ヨリ超過シタル額即チ五千圓ニ付テハ先取特權ナシト爲サ、ルヘカラス故ニ本條第一

項但書ニ工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユルハ先取特權ハ其超過額ニ付テハ存在セサルモノトセリ

工事ノ先取特權ハ第三百二十七條ニ於テ見タル如ク其工事ニ因リ生シタル増價ノ現存スル場合ニ限リ其増價額ニ付テノミ存在スルモノナリ而シテ工事者不動産ニ工事ヲ施シ竣功ノ上其不動産ニ増價ヲ生スルコトアリト雖モ一度之ヲ生スレハ終始存在スルモノニアラス債務者タル所有者カ無資カト爲リ工事者カ辨濟ヲ受ケントスルトキニハ既ニ已ニ其増價ハ消滅シテ皆無ニ歸シタル場合ナキニシモアラサルヘシ故ニ工事ノ先取特權ヲ及ホスニハ配當加入ノハニ於ケル増價ノ存在ヲ要ス而シテ其増價ノ果シテ存在スルヤ又其増價額ノ如何ハ鑑定人ヲシテ評價セシムルニアラサレハ之ヲ知ルコト能ハサルヘシ工事者ト所有者ノ間ニ協議ヲ以テ増價額ヲ定ムルカ如キハ或ハ他ノ債權者ヲ害スルニ出ツルヤノ恐アリ之ヲ以テ本條第二項ハ配當加入ノ時裁判所ニ請求シ裁判所ノ撰任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルモノトナセリ擔第百七十五條第二項増價額ヲ裁判所ノ撰任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルト雖モ費用ノ豫

編 權 物

編 權 物

算額ニ至テハ然ラス工事者ハ常ニ債權額ノ大ナルヲ利益ナリトス故ニ現行登記法ニ於ケルカ如ク債務者債權者双方ヨリ登記ヲ請求スルモノト爲ストキハ其通謀ニ出テ過大ノ豫算額ヲ登記シ又舊法ニ於ケル如ク債權者一人ヨリ請求スルモノトスレハ常ニ過當ノ額ニ登記シ置クノ弊ナキ能ハス然レモ假令豫算額ハ之ヲ多クスルモ實際配當加入ノトキニ至リテ工事者ハ現ニ要シタル費用ノ外ハ請求スルコトヲ得ス又他ノ債權者ヲ害スル爲メ虛偽ノ債權額ヲ構造スルハ自カラ其制裁アリ又其配當ニ至ラサル前ニ在テハ不動産ノ上ニ過實ノ大ナル負擔アリテ所有者ノ不利益ナルヲ以テ其登記ヲ承諾セサルヘク若シ債權者一人ニテ登記ヲ爲シタルハ債務者ハ其登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ヘケレハ増價額ニ於ケルカ如ク私曲ヲ豫防スルノ必要ナク所有者ト工事者ノ所爲ニ任セ置クモ第三者ヲ害スルコトナカルヘシ

第三百三十九條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

本條ハ不動産保存及ヒ工事ノ先取特權ト抵當權ト競合シタル場合ニ於テ先取

物 權 編

特權ノ效力ヲ規定シタルモノナリ抵當權ニ付テハ其債權ノ原因ハ普通債權者ト異ナルコトナシ只契約ノ力ニヨリテ不動産上ノ擔保ヲ有スルノミナリ然ルニ先取特權ヲ受クヘキ債權ヲ生シタル原因ハ法律ノ特ニ保護スルモノナレハ概シテ先取特權ハ抵當ヨリモ上位ニ在ラシム然レモ不動産上ノ權利ニ付テハ常ニ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對シテ其效ナキモノナルヲ以テ其登記ヲ經タル先取特權ニアラサレハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得ス既ニ完全ニ保存セラレタル先取特權ハ抵當權ニ先チ其登記ノ日付カ假令抵當ヨリ後ニアリト雖モ尙ホ之レニ先ツモノトス故ニ本條ハ不動産保存及ヒ不動産工事ノ先取特權ニシテ登記シタルモノハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得ルモノトセリ擔第三百五條第二項但シ不動産賣買ノ先取特權ニ付テハ次條ニ於テ見ル如ク常ニ抵當權ニ先ツモノニハアラサルナリ

第三百四十條 不動産賣買ノ先取特權ハ賣買契約ト同時ニ未タ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス

本條ハ不動産賣買ノ先取特權ハ如何ナル登記ニ因リテ其效力ヲ保存スルカヲ規定シタルモノナリ此ノ先取特權モ亦不動産上ノ物權ナルヲ以テ之カ登記ヲ爲スニアラサレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス第三者ニ對抗スルコトヲ得サル先取特權ハ即チ其效力ヲ有セサルヲ以テ登記ヲ爲シテコソ先取特權ノ效力ヲ保存スルモノナリトス

物 權 編

不動産賣買ノ先取特權ハ如何ナル時ニ登記ヲ爲セハ其效力ヲ保存セルモノナルカ本條ハ賣買契約ト同時ニ之ヲ登記スヘキモノトセリ不動産賣買ノ先取特權ハ余輩ノ已ニ見タル如ク其不動産ノ賣買代價ヲ擔保スルモノナリ故ニ此ノ先取特權ノ保存ヲ必要トスル場合ニ於テハ代價未濟ノトキナルコト勿論ナリ而シテ其代價ノ未濟ナルコトハ賣買ニ付テ一ノ變態ナルヲ以テ賣買契約ト同時ニ之ヲ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ハ賣買契約ノ登記ヲ見テ以テ先取特權ナキモノト信スルナラン然ルニ後日先取特權ヲ登記シ之カ爲メ損失ヲ蒙ルカ如キ不幸ナル結果ヲ見ルニ至ルヲ以テ賣買ニ因リ不動産ノ移轉ト共ニ先取特權ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス舊法擔第七百七十八條ニ於テモ亦同一ノ主義ヲ採リ賣買代價ノ全部又ハ一部ヲ未タ辨濟セサル旨ヲ記シタル所有權移轉證書ニヨル登記

物 權 編

ヲ以テ賣買ノ先取特權ヲ保存スルモノトセリ然ラハ賣買ニヨリ所有權ノ移轉ト同時ニ先取特權ヲモ登記シテ以テ第三者ニ損失ナカラシムルハ同一ナリ債權者賣買契約ト同時ニ不動産賣買ノ先取特權ヲ登記セサルモ全ク其ノ先取特權ヲ失フモノト爲サス假令先取特權ヲ登記セサルモ後日ニ至リ附隨ノ登記トシテ先取特權ヲ登記スルコトヲ得ヘキナリ何トナレハ賣買契約ト共ニ登記ヲ爲サ、ルトテ先取特權ノ不成立ヲ來スモノニアラサレハ日後ノ證書ヲ作り何時ニテモハ賣買ト共ニ先取特權ヲ登記スルニアラサレハ日後ノ證書ヲ作り何時ニテモ之ヲ登記スルコトヲ得此場合ニ於テハ先取特權ハ單純ナル法律上ノ抵當ニ變性シ其公示マテノ間ニ於テ物權ヲ取得シ公示ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトセリ新法ニ於テハ先取特權ノ變性シタル法律上ノ抵當ヲ認許セスト雖モ其ノ登記ヲ爲シタル以後ノ第三者ニ對シテハ先取特權ノ效力ヲ有セシムルコトハ敢テ法律ノ明文ヲ要セスシテ明カナリ只タ賣買ノ登記ヲ爲シ未タ先取特權ノ登記アラサル間ニ於テ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ其先取特權ノ效力ヲ保存スルコトヲ得サルノミ

物 權 編

不動産賣買ノ先取特權ヲ保存スルニハ如何ナル事項ヲ登記スルヲ要スルモノナルカ本條ハ未タ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スヘキモノトセリ不動産賣買ノ先取特權ヲ生スル場合ハ常ニ不動産ノ移轉スル場合ナルヲ以テ其移轉ヲ登記スヘキコトハ勿論ナリ然レモ其移轉ノ登記ナキモ賣主ハ賣買代價ヲ要求スルノ權ヲ有スヘク又其不動産ニ付テ所有權ヲ取得シタル他ノ者ノ異議ナキハ不動産ハ債權ノ辨濟ニ當ツルコトヲ得ヘキヲ以テ必スシモ賣買ノ登記アリトハ爲スコトヲ得サルヘシ然レモ不動産賣主ニ於テ賣買ノ先取特權ヲ以テ代價ノ辨濟ヲ得ント欲スルハ單獨ニ代價又ハ利息ノ辨濟アラサル旨ノミヲ登記スルコトヲ得サルヲ以テ自ラ進テ賣買ノ登記ヲモ請求スルコトヲ得ヘシ故ニ先取特權保存ノ爲メニハ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルヲ以テ足レトス

舊法^{第八十條}ニハ賣買ノ登記ナキ間ハ買主ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ得タル債權者ハ其擔保ヲ登記シタルトキト雖モ其登記ヲ以テ賣買ノ先取特權ニ對抗スルコトヲ得サルモノトセリ例ヘハ甲者明治二十九年十月一日ニ不動産ヲ乙者ニ

物 權 編

賣渡シ其日ニ賣買ヲ登記シ且ツ先取特權ヲ登記シタルトキハ其先取特權ハ完全ニ保存スルコトヲ得之ニ反シ十月一日ニ於テ賣買登記ヲ爲サス三日ニ於テ買主タル乙者カ丙者ニ抵當ヲ設定シ且ツ其登記ヲ爲シ五日ニ於テ賣買ト共ニ先取特權ヲ登記シタルトキハ抵當權者ハ先取特權ノ保存セサル間ニ於テ物上擔保ヲ得タル者ナレハ先取特權ニ先ツコトヲ得サルモノ、如シト雖モ賣買ノ登記アラサル間ハ第三者ヨリ見ルトキハ賣主ハ依然トシテ所有者ニシテ買主ハ未タ所有者ニアラス買主ノ債權者トナリ物上擔保ヲ得タル者ハ即チ第三者ニシテ登記ナケレハ以テ買主ヲ所有者ナリトスルヲ得ス故ニ擔保權ヲ以テ賣主ノ先取特權ニ對抗スルコトヲ得サルナリ是レ舊法ニ規定スル所ニシテ新法ニハ此規定ナシト雖モ理論上然ラサルヲ得ス多クノ場合ニ於テハ買主ノ未タ賣買登記ヲ爲サ、ルニ債權者カ買入不動産ヲ抵當ト爲シ登記スルカ如キコトナカルヘク債權者ハ必ス買主ヲシテ先ツ賣買ノ登記ヲ爲サシメ然シテ抵當ノ登記ヲ爲スヘシト雖モ賣主ニ信用アル場合ニ於テハ債權者ハ必スシモ賣買ノ登記ヲ要セスシテ抵當ヲ承諾スルコトアルヘシ然レモ權利ノ爭ヲ生スルニ至

物 權 編

レハ上ニ述ル如ク賣主ハ所有者ニシテ先取特權ヨリモ一層強大ナル權利ヲ有シ抵當ハ登記シアルモ賣主ニ對シテハ何等ノ力ナキモノタリ試ニ賣主自身カ他ニ之ヲ抵當トナシタリトセンカ其抵當ハ買主ノ設定シタルモノニ優ルコト疑ヲ容レス斯ク買主カ賣買登記前ニ登記シタル抵當ハ薄弱ノモノナレハ後日ニモセヨ所有權ノ移轉ト其移轉ヨリ發生シタル賣買ノ先取特權トヲ登記スルニ於テハ買主ノ權利ニ基キタル抵當ハ之ニ對抗スルコトヲ得ス又タ法文上ノ解釋ヨリスルモ不動産賣買ノ先取特權ハ賣買契約ト同時ニ之ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存スルモノトス賣買契約ヲ登記シ所有權ノ買主ニ移轉シタルコトヲ公示シタル後ニ至リ先取特權ヲ公示シタルトテ其前既ニ同一ノ不動産上ニ特別擔保其他ノ權利ヲ取得シ且登記シタルモノアレハ之ニ對シテ先取特權ヲ行フコトヲ得サルノ法意ナリ然ルニ本例ニ於テハ賣主買主カ實際賣買ヲ爲シタルモ未タ賣買契約ノ登記ヲ爲シタルニ非ス所有權カ何人ニ對シテモ買主ニ移轉シタル場合ニアラサル中ニ買主ニ於テ抵當ヲ設定シ之ヲ登記シタルモノナレハ其後賣買契約ヲ登記シ同時ニ未タ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル

旨ヲ登記スルニ於テハ法律ニ要スル如ク賣買契約ト同時ニ先取特權ヲ登記シタルモノナレハ其效力ハ保存セラレ何人ニモ對抗スルコトヲ得ヘシト謂ハサルヲ得ス

物 權 編

不動産賣買ノ先取特權ハ登記ニヨリテ其效力ヲ保存シタル場合ニ於テハ先取特權ニ付キ法律ニ規定シタル順位ニ因リ一般ノ先取特權ニ先ツコト勿論ナリト雖モ抵當權ニ對スルトキハ特權ノ效力ヲ保存スルニ拘ラス必シモ之ニ先ツモノニ非ス何トナレハ第三百三十九條ノ規定ニ依リ登記シタル先取特權ニシテ抵當權ニ先ツモノハ不動産保存ノ先取特權及ヒ不動産工事ノ先取特權ノミナレハナリ然レモ不動産賣買ノ先取特權ハ抵當權ニ先タルト云フニアラス唯タ登記ノ日付如何ニ拘ハラス抵當權ニ先ツヘキ第三百三十九條ノ特例ヲ受ケスト云フニ過キス然ラハ賣買ノ先取特權カ抵當權ニ先ツト否トハ抵當ノ登記カ賣買ノ前後ニアルニ因テ之ヲ決スヘキナリ先ツ抵當ノ登記カ賣買以前既ニ存在スルモノトセンカ例ヘハ甲者自己ノ不動産ヲ以テ乙者ニ抵當ト爲シテ之ヲ登記シ更ニ之ヲ丙者ニ賣渡シ代價未済ノ旨ヲ其賣買ト共ニ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ甲者ハ丙者ニ向テ賣買ノ先取特權ヲ有スルト雖モ乙者ニ對シテハ債務者タリ同一ノ物件ニ付テ自己ノ債權者ニ對シ優先權ヲ有スルノ理ナケレハ賣主タル甲者カ自己ノ債權者タル乙者ニ一步ヲ讓ルヘキハ當然ニシテ先取特權ハ抵當權ニ先ツコトヲ得サルナリ

物 權 編

不動産ノ賣買アリタル後設定シタル抵當權ニ付テハ或ハ抵當權ニ先ツコトアリ或ハ抵當權ノ爲メニ先タルコトアルヘシ唯其前後ハ登記ノ日附ニヨルモノトス丙者不動産ヲ甲者ヨリ買受ケタル後之ヲ丁者ニ抵當ト爲シ之カ登記ヲ爲シタルモ甲者カ未タ自己ノ先取特權ヲ登記セサルカ如キコトナク多クハ其抵當登記ノ前既ニ先取特權ノ登記アルヲ以テ先取特權ハ抵當ニ先ツモノナリ然レモ若シ過テ甲者カ自己ノ先取特權ヲ登記セス後日ニ登記ヲ爲シタルトキハ其登記以前ニ在テ設定シタル抵當ニ對シテハ之ニ先ンスルコトヲ得サルナリ

第三百四十一條 先取特權ノ效力ニ付テハ本節ニ定メタルモノ、外抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス第十八條

先取特權ハ債權ノ資格ニ依テ之ヲ附與シ抵當權ハ其債權ノ如何ニ拘ラス契約

物 權 編

ヲ以テ之ヲ定ムルモノニシテ其發生ノ原因ヲ異ニスルト雖モ固ト抵當權ト原
質ヲ同フスルモノニシテ力ニ強弱ノ差アルノミ故ニ其先取特權カ不動産ニ關
スル場合ニ於テハ抵當權ニ於ケルト同一ナルコトヲ得ヘシ依テ法律ハ重複ヲ
避ケン爲メ先取特權ノ效力ニ付キテハ抵當權ノ規定ニシテ相反ラサルモノハ
之レヲ準用スルモノトセリ例ヘハ抵當ニ關スル第三百七十條第三百七十一條
第三百七十四條第三百七十七條第三百七十八條乃至第三百八十七條第三百八
十八條第三百八十九條第三百九十條第三百九十一條ノ如キ規定ハ之ヲ先取特
權ニ適用スルコトヲ得ヘシ其各條ノ詳細ハ抵當ノ部ニ至リテ之ヲ見ントス

第九章 質權

質トハ之ヲ廣義ニ解スルトキハ殆ト擔保ト同一義ニシテ古來ヨリ慣用セラレ
タル名稱ナリ北條時代ノ實例ニ質券質物條質人條等ノ條目アリ徳川時代ニ至
リ二重質二重書入ノ名稱アリ維新ノ後五年司法省達第四十一號全六年達第九
號ニ質入ノ事アリ全六年六月第十一號達ニヨリ地所質入書入規則ヲ發布シ其
第一條ヲ以テ地所質入ノ定義ヲ下セリ是等ノ法律ニ依リ質ハ擔保中ノ一種ノ

物 權 編

モノ、名稱タルヲ知ルヘシ舊民法ニ於テモ之ヲ採用シ又新法ニ於テモ之ヲ採
用シ物上擔保ノ一種ト爲シ上來余輩ノ講究シタル先取特權トハ其性質ヲ異ニ
シ一ニ當事者ノ意思ヲ以テ之ヲ設定スルモノトセリ
質ノ名稱ハ民法ノ規定ニ因ルモノ、外他ニ用井ラル、モノアリ例ヘハ質屋營
業ト云フカ如キ是ナリ此ノ質ハ一種特別ノモノニシテ又特別法ノ支配スル所
タリ明治二十八年三月十日法律第十四號質屋取締法斯ノ如ク特別法ヲ以テ規定セル質ニ付テハ民法
ノ規定ヲ以テ支配スルノ限リニアラス蓋シ名稱ハ全一ナルモ其性質ニ至テハ
相異ナルモノナレハナリ

第一節 總則

總則ハ質權全体ニ關スル規定ヲ掲ケタルモノナリ舊法ニ在テハ擔保編第二章
ニ於テ不動産質ヲ規定シ第三章ニ於テ不動産質ヲ規定シタリ蓋シ舊法ニ於テハ
不動産質ニ付テハ一種特別ナル性質ヲ認メタルヲ以テ不動産質ト共通ナル規則
ヲ設クルコトヲ得サリシナリ然レモ本法ニ於テハ質權ノ目的カ動産ナルト不
動産ナルトニ拘ラス共ニ質權ノ二種類ニシテ只其目的ノ異ナルニ過キササルヲ

以テ質權全体ニ通スル總則ヲ設ケ第二節第三節第四節ニ於テ動産質不動産質及ヒ權利質ニ特別ナル規定ヲ設ケタリ然レモ舊法ニ於テモ動産質不動産質ニ共通スヘキ規定少キニ非ス故ニ擔保編第三百三十條ニハ動産ノ規定ニシテ不動産質ニ適用スヘキモノヲ掲擧シタリ然レモ本法ニ於テハ二者共ニ全種類ノモノトナスヲ以テ其共通スヘキ規則ハ之ヲ總則ニ掲ケタリ

編 權 物

舊法ノ箇條ニシテ削除セラレタルモノ、大略ヲ見ルニ擔保編第八十八條第一項ニハ動産質契約ハ第三者ト債權者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトシ又第三百十七條ニハ不動産質ハ債權者ノ爲メ第三者之ヲ設定スルコトヲ得ルノ規定アリ然レモ是レ法律ノ明文ヲ俟タスシテ自ラ明カナルノミナラス本法ニ於テハ第三百四十二條ニ第三者ヨリ受取リタルモノ云々ト掲ケ又第三百五十一條ニ他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ債權ヲ設定スル云々トアレハ他人ノ爲メ質權ヲ設定シ得ヘキヤ自カラ明白ナルヲ以テ舊法ノ右二條ヲ削除シタリ又舊法擔保第三百十五條ニ質物ノ占有ハ所得時効ノ原因タラサルコトヲ規定シ其第三百十條ヲ以テ之ヲ不動産質ニ適用セリ然レモ新法ニ於テハ取得時効ニ關シ第六十三條ニ於テ自己ノ爲メニスル意思ニアラサレハ取得時効ヲ生セサルノ規定アルヲ以テ特ニ質入ニ付テ之ヲ明記スルノ必要ナシトシテ削除シタルモノナリ其他舊法ノ規定ヲ削除シタルモノ抄カラス其削除シタル理由ハ各條ニ付テ之ヲ見ントス

第三百四十二條 質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

編 權 物

本條ハ質權者ノ權利ヲ定メ之ニ因リテ質權ノ性質ヲ示シタルモノニシテ即チ質權ノ性質ヲ掲ケテ以テ質權ノ定義ヲ明ニシタルモノナリ今本條ニ依リテ質權ノ性質ヲ列擧スレハ左ノ如シ

第一 債權ハ契約ヨリ生スルモノナリ 舊法第九十七條ハ動産質ハ債務者カ動産ヲ特ニ其債務ノ擔保ニ充ツル契約ナリト云ヘルヲ以テ契約ヨリ出ツルモノナルコト明カナリ本法ニ於テハ定義ヲ掲クルコトヲ避ケタルヲ以テ質權ハ契約ナリトノ明記ナシ就テハ何ニ依テ契約ヨリ出ルコトヲ知ルカ凡ソ民法

物 權 編

ハ私法ナルヲ以テ當事者間ノ行爲ニヨリ發生スル事物ニ付キ準據スヘキ規定ヲ掲クルモノニシテ特別ニ民法ヲ以テ權利ヲ造成シ之ヲ當事者ニ附與スル場合ニハ其明記ヲ要シ其明記ナキ場合ハ皆ナ當事者ノ行爲ニ出ツルモノト爲サ、ルヘカラス余輩ノ見來リタル先取特權ノ如キハ即チ法律自カラ權利ヲ造成シ當事者ニ附與スルモノニシテ第三百三條ニ先取特權ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ云々ノ權利ヲ有ストアリテ各種ノ先取特權ニ付キ債權者カ法律上特權ヲ有スルコトノ明記アリ如此特例ノ明記ナキ場合ニ於テハ法律ノ附與スルモノニアラサルコト明カナリ今質權ノ性質ヲ掲ケタル第三百四十二條ヲ見ルニ債權者權利ヲ掲ケアルモ法律ニ依テ權利ヲ得ルコトノ記載ナシ然ラハ道理上ニ於テ質ナルモノヲ設定スルニハ當事者ノ行爲ヨリ生スルモノト爲スヘシ其行爲如何ヲ見ルニ債權者其債權ヲ得ルノ初メニ當リ自然ニ質權ヲ發生スルモノニアラス債權者ハ債務者ニ對スル信用厚カラサルヲ以テ債務履行ノ確實ナルカ爲メ動産若クハ不動産ヲ質トシテ己レニ引渡サントコトヲ請求スルナラン債務者之ヲ諾セサルニ於テハ質ナルモノハ

物 權 編

成立アルコトナシ債權者之ヲ望ミ債務者之ヲ諾シ初メテ質ノ成立ヲ見ルモノナレハ契約ノ外他ノ行爲ニ依テ質ヲシテ成立セシムルコトヲ得サルナリ故ニ質權ハ其目的カ動産ナルト不動産ナルトニ關セス凡テ契約ヨリ生スルモノナリ遺贈ヲ以テ質權ヲ設定スル場合ト雖モ質ノ設定ハ契約ニ外ナラス甲者乙者ニ對シテ或ル債務ヲ負擔シ乙者ノ債權ニ對シ擔保ヲ供スル爲メ甲者ハ遺言ヲ以テ不動産質ヲ設定セントス遺言ハ遺言者死去スルニアラサレハ其效力ヲ生セサルヲ以テ甲者カ遺言書ヲ作り乙者之ヲ受取リタリトスルモ質ノ設立アリタルモノト爲スヲ得ス若シ甲者ヨリ質物トシテ引渡シタルモ是レ質ハ遺言ニ依ルニ非ス純然タル契約ニ因リテ成立スルモノナリ故ニ遺言ニヨリテ質ノ設定アリトスルニハ其遺言者死亡シタリト想像セサルヘカラス其死亡ニヨリテ遺言ハ效力ヲ生スルモ是レ只甲者ノ相續人カ質物トシテ乙者ニ不動産ヲ渡スノ義務ト其義務ニ對スル乙者ノ權利アルノミ而シテ質權ハ其目的物ノ引渡アルニアラサレハ成立セス故ニ甲者ノ相續人不動産ヲ引渡スコトヲ諾シ乙者之ヲ受取ルコトヲ肯ンシ其間意思ノ合同アリ

物

權

編

且目的物ノ引渡アリテ初メテ質權ヲ設定スルモノナレハ其質權ハ相續人ト乙者ノ間ノ契約ヨリ生スルモノナリ此場合ニ於テ相續人ノ行爲ハ遺言ヲ執行シタルモノニ外ナラスシテ契約ニアラストノ疑ヲ生スヘシト雖モ乙者ハ遺言ヲ執行セシムルノ權利アリト雖モ相續人之レヲ肯セサルトキハ之ヲ強フルコトヲ得ス只賠償ヲ要求スルニ止マルモノナリ双方間ニ於テ質權設定ノ意思表示アルニ非ラサレハ其成立ヲ見ルコト能ハス

第二 質權ハ債權ノ擔保ニシテ物上ノ擔保ナリ 質權ヲ設定スルノ必要ハ如何ナル場合ニアルカヲ見レハ債務者其人ニ對シテ十分ナル信用ヲ欠クヲ以テ其債權ニ相當スヘキ動産若クハ不動産ヲ以テ質物ト爲シ以テ債務ノ履行ニ鞏固ナラシムヲ目的トス故ニ質權ハ債權ヲ擔保スルモノナリ

質權ハ債權ノ擔保ナルヲ以テ其之ヲ設定スル契約ハ從タル契約ナリ而シテ質權モ亦債權ノ從物タリ是ヲ以テ質權ハ債權ノ運命ニ從フモノニシテ債權消滅スレハ質權モ亦消滅シ質權獨リ存在スルコトヲ得サルナリ然レモ主ハ從ニ從フモノニ非サルヲ以テ縱令ヘ質物消滅シ質權存在スルコトヲ得サル

モ之カ爲メニ債權ノ消滅ヲ惹起スルモノニ非ス

物

權

編

質權ハ物上擔保ナリ質權ノ已ニ成立スルヤ債權者ハ其質物ノ上ニ權利ヲ有シ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ルモノナリ故ニ其性質タルヤ物上擔保ニシテ對人擔保ニアラサルナリ斯ク質權ハ物上擔保ナルヲ以テ對人擔保ノ有セサル性質即チ優先權及ヒ追及權ヲ生ス保證又ハ連帶ノ如キ對人擔保ニ在テハ義務ノ履行ニ當ル人ノ多數ナルヲ以テ擔保ノ效用アルモ保證人又ハ連帶債務者ニ對シテハ普通ノ債務者ニ對スルト全一ナルヲ以テ優先權ヲ有スルノ理由ナシ先取特權質權ノ如キ物ヲ目的トスル擔保ニ在テハ其物ニ付テ他ニ先スルコトヲ得ルヲ以テ優先權有リトス而シテ其目的タル物件ハ常ニ擔保ヲ負擔スルヲ以テ所有權カ假ヘ他ニ移轉スルモ之ヲ脫スルコトヲ得ス擔保權者ハ之ニ追及シテ以テ自己ノ權利ヲ行フコトヲ得ルナリ』留置權及ヒ先取特權ハ物上擔保ナリ質權ト如何ナル點ニ於テ性質上其差異アルカヲ見ルニ留置先取ノ二物權ハ法律ノ規定ニ因テ生スルノミナラス留置權ハ他人ノ物件ヲ占有シテ留置スルニ止マリ又先取特權ハ其目的物ヲ以

物 權 編

テ債權ノ辨濟ニ充當スルモ之ヲ留置スルノ權ナシ質權ニハ留置權ト先取特
 權ヲ有スル利益ヲ併有ス又甚タ類似シタル點ヨリ見レハ質權者カ物件ヲ債
 權ノ辨濟マテ占有スルノ點ニ付テハ留置權ニ同シク其物件ヲ賣却シ優先權
 及ヒ追及權ヲ以テ辨濟ヲ受クルノ點ニ於テハ先取特權ト全一ナリ然ラハ質
 入ナルモノハ此ノ留置權ト先取特權ヲ併有セル最モ強大ナル物上擔保ナリ
 ト云フヲ得ヘシ現ニ舊法ノ如キハ動產質ヲ以テ先取特權ノ一トナシ動產質
 及ヒ不動產質ヨリ生スル先取特權ハ合意上ノモノナリト明記セリ擔第一百三
 然レモ上ニ見ル如ク質權ハ留置權及ヒ先取特權ト全一ノ分子ヲ包含スルモ
 己ニ之ヲ一括シテ一權利ヲ成ス以上ハ留置權又ハ先取特權ノ一ニ非スシテ
 一個特別ノ物上擔保ナリ故ニ新法ニ於テハ質權ヲ以テ先取特權ノ一トハ爲
 サ、ルナリ

質權ハ物上擔保ナルヲ以テ之ヲ設定スル者ハ不動產又ハ動產ニ關スル權利
 ノ得喪行爲ヲ爲スノ能力アルヲ要ス蓋シ質權ハ抵當ト同一ニ其結局質物ヲ
 強制競賣ニ付スルニ至ルモノナリ故ニ質權ノ設定ヲ承諾スルハ即チ以後不

動產若クハ動產ノ喪失ヲ承諾スルモノナレハナリ故ニ未成年者禁治產者准
 禁治產者妻ノ如キハ第一編第一章第二節ノ區別ニ從フニ非ラサレハ質權ヲ
 設定スルノ能力ナシトス擔第九

物件ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スノ能力即チ物ヲ處分スルノ能力ヲ要ス
 ルト雖モ必スシモ債務者ノ所有物ニアラサレハ質入ト爲スコトヲ得スト云
 フニ非ス所有者又ハ特別代理人舊法擔第九ニアラサレハ物ヲ處分スルノ
 能力ナキコト勿論ナリト雖モ債權者以外ノ第三者ヨリシテ質權ヲ設定スル
 モ其第三者ハ自ラ處分スルコトヲ得ヘキ物件ヲ以テ質入ノ目的ト爲スモノ
 ナレハ有效タルコト疑ヲ容レス第三百四十二條ニ第三者ヨリ受取りタル物
 云々トアリ第三百五十一條ニ他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル
 者云々トアルニ因テモ質權ハ往々質權者ト第三者トノ間ニ於テ成リタル契
 約ヨリ生スルコトアルモノト知ルヘシ

此ノ如ク處分ノ能力アルニ非レハ質權ヲ設定スルコトヲ得サルモノトスレ
 ハ自己ノ權内ニアラサル他人ノ物件ヲ質入ト爲シタルトキハ無効ナリト云

物 權 編

物 權 編

ハサルヘカラス而シテ原則上ニ於テハ質ト爲リタル物件ノ所有者ハ之ヲ取戻スコトヲ得ヘキナリ然レモ此場合ニ於テハ動産ト不動産トニ付テ區別ヲ爲サ、ルヘカラス不動産ニ付テハ他人ノ物ヲ質入ト爲シ其債權者善意ニテ之ヲ占有スルモ所有者ハ所有權ヲ主張シ其質權ヲ消滅セシムルコトヲ得ヘシ然レモ動産ニ至テハ占有者善意ナルトキハ占有ヲ以テ動産ノ上ニ權利ヲ取得スルヲ以テ之カ取戻ヲ爲スコトヲ得ヘカラス此原則ハ獨リ所有權ヲ取得シタル場合ノミナラス質權ノ如キ物權ヲ取得シタル場合ニ於テモ亦適用セラルヘキナリ然レモ指名債權又ハ記名社債ノ如キモノヲ以テ權利質ト爲シタル場合ニ於テハ第三百六十四條及ヒ第三百六十五條ニ於テ見ル如ク其設定ニ付キ別段ナル法式アルヲ以テ普通ノ有体動産ニ於ケル如ク他人ノ物件ニ關シ質權成立アリトスルヲ得ス

以上ハ他人ノ物件ヲ質入ト爲シタル場合ニ於テ第三者ニ對スル効力ナリ質權者及ヒ質入主ノ間ニ在テハ動産質ト雖モ無効ナリ然レモ此無効タルヤ債權者獨リ之ヲ申立ツルコトヲ得ヘク債務者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得ス

何トナレハ債務者ハ自ラ他人ノ物件ナルコトヲ知リテ質入ト爲シタルモノナレハ其他人ノ物タルコトヲ理由トシテ無効ヲ申立ツルノ權ヲ附與スルハ己レ自ラ不善ナル行爲ヲ爲シ其行爲ニ依テ利益ヲ得ルノ不道理ニ陷レハナリ

物 權 編

第三 質權ニハ占有ヲ必要ナリトス 蓋シ質權ト云ヘハ即チ占有ヲ包含スルヲ以テ占有ハ即チ質權ノ性質ナリトス第三百四十二條ニ質權者ハ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有スルノ權利ヲ有スルトアリ即チ其占有ノ權利ハ質權ノ一分子タルナリ質權ノ成立ニ付キ占有ヲ要スル所以ハ常ニ留置權ノ性質ヲ包含スルヲ以テナリ

貨權ノ成立ニハ占有ヲ以テ要素ト爲スト雖モ常ニ物ノ占有アルモノニ非ス權利質ニ至テハ其證書アルトキハ證書ナル物体ヲ占有スルト雖モ目的物タル債權ハ素ト無形物ナルヲ以テ其物ヲ占有スルコトヲ得ス又不動産質ニ付テハ其之ヲ設定スル際ニ於テハ物ノ占有ヲ必要ナリトスルト雖モ質權ノ存在ハ登記ヲ以テ明示スルコトヲ得ルヲ以テ繼續シテ物ヲ占有スルヲ要セス

物 權 編

然レモ質權ノ成立ヲ妨クルコトナシ
 然ラハ第三百四十四條ニ質權者ハ物ヲ占有スルノ權利ヲ有ストアルハ質權
 一般ノ性質ヲ表彰シタルモノト云フヲ得サルカ物ノ字ハ少シク妥當ヲ欠ク
 カ如シト雖モ占有ハ何レノ質權ニ付テモ包含スルモノナリ動産質ニ付テハ
 終始其目的物ヲ占有スルヲ以テ即チ物ノ所持アルモノニシテ純然タル占有
 第十條アリトス不動産質ニ付テハ質權者カ不動産ノ實體ヲ所持スル間ハ純
 然タル占有ヲ爲シ其所持ヲ離レタルトキハ抵當債權者カ其抵當物ニ對シ准
 占有^{第五條}ニ付テモ亦然リ債
 權其物ヲ現ニ所持スルコトヲ得ス唯財產權ノ行使ヲ爲スニ外ナラサルヲ以
 テ准占有アルモノナリ之ヲ要スルニ第三百四十二條ノ占有ハ純然タル占有
 即チ物ノ占有ト準占有即チ財產權ノ行使ヲ爲ス占有トヲ包含スルモノト解
 釋ス可キナリ故ニ物ノ占有ヲ以テ質權ノ一般ノ性質ト爲スコトヲ得スト雖
 モ占有即チ單純ナル占有及ヒ準占有ノ二者ハ質權ノ成立ニ缺クヘカラサル
 モノニシテ若シ之ヲ欠クトキハ質權ノ成立ヲ妨ケルヲ以テ占有ハ即チ質權

物 權 編

ノ性質ナリト云フヲ得ヘシ
 質權者ハ質物ヲ占有シ且ツ其物ニ付キ優先權ヲ以テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ク
 ル權利ヲ有スルモノナリ故ニ債務者債務ヲ辨濟スルコト能ハサルトキハ債權
 者ハ其質物ヲ公賣ニ付シ又バ直ニ其物ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得ル
 モノナリ但シ流質ノコトニ關シテハ第三百四十九條ニ於テ之ヲ見ントス

第三百四十三條 質權ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ス
擔第三百十八條
 明治八年第百

二十八
 號布告

本條ハ質權ノ目的物ニ付キ規定シタルモノナリ凡ソ質權ハ債務者カ債務ヲ辨
 濟セサルニ當リ其目的物ヲ以テ債權ノ辨濟ヲ受クヘキ効力アルモノナリ然ル
 ニ其目的物カ讓渡スコトヲ得サルモノトセンカ抵當ハ何等ノ効力ヲ奏スルコ
 トナカルヘシ故ニ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ許サス
 此規定ニ因レハ苟モ讓渡スコトヲ得ヘキモノハ凡テ之ヲ質權ノ目的ト爲スコ
 トヲ得ヘシ契約ハ自由ナレハ其目的トスル所ノ物カ質權ノ效力ヲ奏スルニ足
 ルニ於テハ之ヲ債權ノ擔保ト爲スニ於テ妨クル所ナキハ勿論ナリ

物 權 編

質權ハ性質上讓渡シ得サル物ヲ以テ目的ト爲スヲ得サルコトハ質權其物ヲ詳ニスレハ自カラ明瞭ナリ然ルニモ拘ラス特ニ法律ニ於テ本條ヲ設ケタルハ讓渡スコトヲ得サル有体物ニ付テヨリハ第三百六十二條第二項ノ權利質ニ付テ本條ヲ準用スルノ便利アルニ因ルモノナリ例ヘハ當事者カ讓渡スコトヲ得サルノ意思ヲ表示シタル債權第四百五十六條アリトセンニ其債權ハ之ヲ有スル者ノ債權者ヨリ差押ヲ爲シ以テ債務ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得ヘシ甲者ハ名譽アル資本家ニシテ偶々業務ノ都合上親友ナル乙ヨリ若干圓ヲ借り其負債アルコトヲ世ニ知ラシムヲ欲セス故ニ甲乙ノ間特約ヲ爲シ乙ハ決シテ其債權ヲ他ニ讓渡スコトヲナカルヘシト約セリ是レ讓渡ス可ラサルノ意思ヲ當事者ノ間ニ表示シタルモノナルヲ以テ其債權ハ讓渡スコトヲ得サル物タリ然レモ乙ナル債權者不幸ニシテ業務ノ失敗ヲ來シ無資力ト爲リタルトキハ乙者ノ債權者ニシテ善意ナル丙丁ハ乙者ノ資産タル債權乙ヨリ甲ニ對スルモノナルヲ以テ之ヲ差押ヘ公賣ニ付シテ以テ辨濟ニ充ツルコトヲ得ヘク讓渡スコトヲ得サルノ特約ヲ丙丁ナル債權者ニ及ホスコトヲ得ス斯クノ如ク此債權ハ債權者ノ差押ヲ受クル

物 權 編

コトヲ得ヘキモノナルヲ以テ或ハ之ヲ質物ト爲スモ妨ケナキカ如シ然レモ債權者ヨリ差押ヲ爲スハ權利行爲ノ結果強制ニ出ルモノニシテ債務者自ラノ意ニ出テタルモノアラス之レニ反シ乙ナル債權者之ヲ以テ債權ノ目的ト爲スニ於テハ質權ノ實行ニ依リ他ニ移轉スルコトアルヘキヲ豫知シナカラ他人ニ渡スモノニシテ即チ甲乙ノ間ノ特約ヲ破却スルニ外ナラサルヲ以テ法律ハ之ヲ禁セサル可カラス此故ニ總則ニ於テ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得スト規定シ以テ專ラ有体物ニ付テ規定ヲ下シ第三百六十二條第二項ヲ以テ之ヲ權利質ニ準用シタリ

差押フルコトヲ得サル物ハ悉ク讓渡スコトヲ得サルモノニ非ス其間差別アツテ存ス差押フルコトヲ得サル物ハ其物ノ所有者ノ債權者カ強制競賣ヲ請求スルコトヲ得サルモノヲ云フ財第二十九條而シテ其ノ債權者カ強制競賣ヲ爲スコトヲ得サル理由ハ決シテ物件カ讓渡スコトヲ得サルカ故ノミニ基因スルニアラス其他ノ理由ヨリシテ差押ヲ許サ、ルモノアリ差押ヲ許サ、ル物ハ民事訴訟法ニ之ヲ列記シアリ其内ニ付テ一二ノ例ヲ擧クレハ其第五百七十條第一號ノ衣

物 權 編

服寢具及ヒ家具厨具ニシテ債務者及ヒ家族ノ爲メ欠クヘカラサルモノ及ヒ第二號ノ債務者及ヒ家族ニ必要ナル壹ヶ月間ノ食料及ヒ薪炭ハ差押フルコトヲ得サル物件ナリトス之レ債權者ヨリ差押ヲ爲シタル爲メ直ニ債務者及ヒ家族ヲシテ飢餓ニ陥ラシムルノ恐アルヲ以テ法律ニテ債權者ノ權利ヲ制限シタルニ外ナラス然レモ其物件ノ所有者タル債務者カ之等ノ物品ヲ任意ニテ他ニ讓渡スカ如キハ決シテ法律ノ禁スル處ニ非ス故ニ之等ノ物件ハ差押フルコトヲ得サル物件ニシテ讓渡スコトヲ得ヘキモノナリ故ニ之ヲ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ヘシ該條第六號ノ文武官吏ノ恩給及ヒ第八號ノ勳章及ヒ名譽ノ證標ノ如キハ差押フルコトヲ得サル物件ナリ其之ヲ差押フルコトヲ得サル所以ハ國家カ其人ニ限り付與シ且享有ヲ許シタルモノナルヲ以テ之ヲ賣却シテ他ノ者ノ所有ト爲スコトヲ許サ、ルノ精神ニ出テタルモノナレハ債務者自身ト雖モ之ヲ他ニ讓渡スコトヲ得ヘカラス然ラハ之等ノ物件ハ差押フルコトヲ得サル物件ニシテ讓渡スコトヲ得サルモノナリ然ラハ之ヲ以テ質ノ目的トモ爲スコトヲ得ヘカラス何トナレハ之ヲ其目的ト爲スモ質權ヲ實行スルニ當テ金錢ニ替ヘ又ハ質權者ノ所有ニ移スコトヲ得サレハナリ

物 權 編

第二百四十四條 質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ノ引渡ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ生ス
 本條ハ質權ノ設定ニ要スル條件ヲ定メタルモノナリ法律ハ質權ノ設定ハ目的物ノ引渡ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ生スト云ヘリ故ニ其引渡ナキトキハ効力ヲ生セス設定ニシテ効力ヲ生セサルトキハ即チ質權ノ設定ナキモノタリ故ニ質權ハ物件ノ引渡アルニ非レハ生スルコトヲ得ス蓋シ質權ヲ設定セントスル當事者ノ意思ハ其質權ノ成立ハ目的物ヲ受授シタル時ニ在リトスルモノニシテ單ニ双方ノ承諾ノミヲ以テ足レリトスルモノニ非サルカ故ナリ試ミニ動産質ノ場合ヲ想像センニ債務者カ萬一辨濟ヲ爲サ、ルキハ或ル確定ノ物件ヲ以テ其辨濟ニ充當ス可シト云ヒ債權者之ヲ諾スルモ其物件カ尙ホ債務者ノ手ニアリトスレハ其双方ノ意思ハ其物ヲ以テ債務ノ辨濟ニ充當スルノ點ニ於テ確定シタルモノト認ムルヲ得ス債務者ハ其物ヲ以テ之ヲ他人ニ讓渡スヤモ知ル可ラス故ニ質權ノ確實ナル成立ヲ認ムルコトヲ得ルハ其目的物ヲ引渡シタルトキニ在リテ未タ引渡サ、ルノ間ニ於テハ其物ヲ指シテ質物ト云フヲ得サルナ

物 權 編

リ斯克ノ如ク質權ノ成立ハ目的物ノ引渡ニ因リテ確然ト爲ルモノナルヲ以テ其引渡ハ成立ノ要素タリ此故ニ質權ノ契約ハ之ヲ要物契約ニシテ即チ當事者ノ承諾ノ外尙目的物ノ引渡ヲ要スルモノナリ附第九百九十九條然レモ質權ヲ設定スルノ契約ハ未タ引渡ヲ爲サ、ル前ハ全ク無効ナリトハ爲ス可ラス何トナレハ其契約ニ因リテ債務者タル者ハ質權ヲ設定スヘキ義務ヲ負擔シ債權者タル者ハ其設定ヲ要求スルコトヲ得レハナリ然レモ引渡ナキ以上ハ質權ハ未タ設定セリトハ云フヲ得ス質權ヲ設定センコトヲ契約シタル上債權ノ辨濟ヲ受ケサル内ハ其設定ノ契約ハ存在シ上ニ述ヘタル如ク債務者債權者間ニ權利義務生ス然レモ其契約ハ質權契約ニハアラサルナリ質權ハ其性質トシテ物權ナリ然ルニ質權設定契約ニ付テ權利義務ノ關係ヲ見ルニ債權者ハ質權ノ設定ヲ要求シ債務者ハ之ヲ設定スルノ義務アルノミニシテ其目的トスル所皆人ニ在リテ一モ物ノ上ニ存スルコトナシ故ニ質權ナルモノナキヤ勿論ナリ質權設定ノ契約ノミノ場合ニ於テ其債務者ニ向テ物權ノ引渡ヲ強制シ以テ質權ヲ設定セシムルコトヲ得ルカ將タ引渡ヲ強制スルコトヲ得スシテ單ニ損害賠償ニ止マルモ

物 權 編

ノナルカ債務者ニ對シ強制シテ物權ヲ引渡サシメ以テ質權ヲ設定スルコトヲ得サルヘシ抑モ質權設定ノ契約ハ設定スルノ義務ヲ生スルノミニ而シテ設定ハ即チ人爲ニシテ之ヲ強制スルコトヲ得可ラス當事者ノ意思表示ニ因リテ權利カ物體ノ上ニ成立シ其物體ヲ有權者ニ渡サ、ル場合ノ如キハ之ヲ強制シテ以テ引渡ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ是レ既ニ成立シタル權利ヲ物體ノ上ニ行フニ外ナラサルヲ以テナリ今質權ハ物體ノ引渡アルニ非レハ設定セラレス其設定スルト否トハ債務者ノ意思如何ニ在リ其設定スルノ意思ナキ人ヲ強制シ物體ヲ引渡サシメタリトスルモ設定ヲ爲シタルモノトハ爲スヘカラス加之強制ヲ以テ質權ト稱スル一ノ權利ヲ創成スルコトヲ得ヘキモノニハ非ラサルナリ故ニ設定契約ヲ履行セサルカ爲メ債權者ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ之ヲ賠償セシムルノ權利アルニ止マリ強制ノ方法ヲ以テ質權ノ設定ヲ望ムコトヲ得ヘカラス

曩キニ見タル如ク動産ニ關スル先取特權ハ其目的物タル動産カ債務者ノ手ニ存在スルヲ以テ足レリトス獨リ質權ノ設定ニ至テハ引渡アルニ非サレハ設定

物 權 編

ナシトナスハ如何ナル理由ニ基ケルモノナルカ先取特權ト質權トハ其原質ヲ異ニスルモノナリ先取特權ハ債權ノ資格ニ因テ之ヲ附與シタルモノナレハ何人ト雖モ其債權ノ性質ヨリシテ容易ニ先取特權ノ成立ヲ知ルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ質權ハ一ニ契約ヨリ出ツルモノナリ然ルニ契約ナルモノハ其成立ヲシテ他人ニ知ラシムル難シ故ニ債務者カ從來ノ如ク依然占有シアルニ於テハ他人ハ質權ノ成立アリトノ疑念タモ起サ、ルヘシ

然ルニ一旦質權者カ權利ヲ行フニ至レハ債務者ニ對スル他ノ權利者ハ突然債務者ノ財産中ヨリ質權ノ目的物ヲ取去ラル、ノ不幸ヲ見ル可シ故ニ質權ヲ設定スルニ當テハ債務者ヨリ目的物ヲ債權者ニ移シ其占有ノ變遷ニ因リテ質權ノ成立アルコトヲ知ラシメ以テ他ノ權利者ニ不幸ナカラシム是レ動産質ニ付キ第三者ニ對スル効力ニ關シ第三百五十二條ノ規定ヲ要スル所以ナリト雖モ其規定タルヤ畢竟本條ノ質權設定ノ條件ト相牽連シタルモノニシテ引渡アルニアラサレハ占有スルコトヲ得ヘカラサルナリ不動産質ニ付テハ其占有ハ第三者ニ對スル公示トシテハ動産ニ於ケル如キ必要ヲ見ス何トナレハ登記ナルモノアリテ之カ公示ヲ爲セハナリ故ニ后ニ見ル如ク占有ヲ要スルコト亦動産質ノ如クナラス

物 權 編

質權ノ設定ニ目的物ノ引渡ヲ要スルコトハ權利質ニ付テモ亦全一ナルカ權利ハ無形ノモノナルヲ以テ之ヲ質ト爲シタルトキト雖モ引渡スヘキ有形ノ物体アルコトナシ故ニ權利質ニ付テハ目的物ノ引渡ヲ要スルノ條件ヲ適用セサルヲ以テ原則トス然レモ第三百六十三條ニ記載スル如ク債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ債權證書アルトキハ其ノ證書ノ引渡アルコトヲ必要ナリトス又永小作權地上權ヲ質入ト爲ストキノ如キハ其質ノ目的タル權利ト有体ノ物件カ相離ル可ラサルヲ以テ其有体物ヲ引渡スコトヲ要スルモノナリ

質權目的物ノ引渡ハ如何ナル時ニ於テ行ハル、モノナルカ設定者ノ所持ヨリ之ヲ質權者ノ所持ニ移スノ行爲ヲ引渡ト云フ而シテ其ノ物件ヲ甲ヨリ乙ノ所持ニ移ス行爲ハ如何ナルモノナルカハ事實ノ問題ニ屬ス佛國民法ノ如キハ賣買ニ付キ引渡ノ方法ヲ規定セリ佛民第千六百四條然レモ引渡ナル語ヲ以テ其行爲ノ性質ヲ表彰スルコトヲ得ルカ故ニ舊法新法共ニ其方法ヲ規定スルコ

物 權 編

トナシ一個ノ動産ヲ以テ質ト爲シ之ヲ設定者ノ手ヨリ質權者ノ手ニ渡シタルトキハ引渡アリタルコト明瞭ナリ他人ノ倉庫ニ在ル商品ヲ質入ト爲ス場合ニ於テ必ス其商品ノ各個ヲ擧ケテ債權者ノ手ニ渡スヲ要セス其倉庫ノ鍵ヲ渡シ債權者ヲシテ自由ニ倉庫ニ出入スルコトヲ得ヘキ有様ニ至ラシメタルトキハ即チ引渡アリタルモノナリ又ハ其倉ヨリ商品ヲ運搬シテ質權者ノ倉庫ニ移スヲ以テ引渡トナス場合アルヘシ要スルニ其實際ノ模様ニ因テ引渡ノ方法ハ異ナルモノナリ故ニ法律上ニ於テ之ヲ一定シ置クヲ得ス債權者カ所持ヲ爲シタルトキハ即チ引渡ヲ受ケタルモノト爲スヘキナリ

不動産質ニ付テハ其目的物タルヤ移轉スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ物件ノ移動ヲ以テ引渡アリタリトスルヲ得ス家屋ノ如キハ質權者ニ其家屋ノ鍵ヲ渡シ又ハ立退キヲ爲シタル如キハ引渡アリト云フヘシ既ニ他ニ質貸シアル家屋ノ上ニ質權ヲ設定シタルトキハ其質權者カ自ラ其賃借人ヨリ賃料ヲ徴收シタルトキハ占有シタルノ證ト爲スニ足レリ然レモ此レ唯占有ノ有様ヲ見ルニ足ルノミニシテ目的物ノ引渡ハ何レノ時ニ在リシカヲ知ルニハ其賃料ヲ徴收

物 權 編

シタル時ヲ以テスルヲ得ス引渡ハ其以前ニ在リタルナラン例ヘハ一日ニ質權契約ヲ爲シ同時ニ證書ヲ作成シ前例ノ質貸シアル家屋ヲ質入ト爲シ五日ニ至リ所有者又他ニ之ヲ質入ト爲シタルトキハ其質權者ノ間ニ抵觸ヲ生ス此場合ニ於テハ物件引渡ノ前後ヨリハ寧ロ登記ノ前後ヲ以テ質權者間ノ勝敗ヲ決セサル可ラス而シテ引渡ニ付テモ亦タ特ニ引渡ヲ表彰スヘキ或ル行爲アリタルハハ格別夫等ノ行爲ナキトキハ登記ヲ爲スヲ以テ引渡ノ行爲ト爲スコトヲ得ヘシ登記其モノハ權利行爲ノ公示ニ外ナラスト雖モ登記ヲ爲スハ當事者ノ行爲ナルヲ以テ其行爲ハ即チ引渡ヲ表示スルモノナリ設定者ト債務者ノ間ニ設定證書ヲ作爲シタルトキハ其證書ノ交付ヲ以テ引渡トスルコトヲ得ヘキカ如シト雖モ是レ唯意思表示ノ證明ヲ爲スモノニ外ナラス本例ノ場合ニ於テハ目的物ノ引渡ニハ意思表示以外ノ有形行爲ヲ要スルモノニシテ證書ノ作成ヲ以テ引渡行爲トスルコトヲ得サルナリ

引渡ハ占有ヲ移轉セシムルノ行爲ナリ而シテ占有權ノ讓渡ハ占有物ノ引渡ニ因リテ之ヲ爲スヲ原則トス第一百八十二條然レモ讓受人又ハ其代理人カ現ニ占有物ヲ

物 質 編

所持スル場合ニ於テハ占有權ノ讓渡ハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得第七百八又代理人カ自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲メニ占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ因テ占有權ヲ取得ス第三百八是等占有ニ關スル規定ハ質物ノ占有ニ之ヲ適用スルコトヲ得ヘシ質物ノ占有ヲ取得スルハ其物件ノ引渡ヲ要スルコトハ既ニ見タル所ナリ然ルニ其目的物タルヤ既ニ質權者即チ債權者若クハ其代理人カ質權設定前ヨリ所持スルモノナル場合ニ於テハ特ニ引渡ヲ爲スヲ要セス目的物ハ引渡アリタルト同一ノ形狀ニ在リ故ニ質權契約ヲ爲セハ即チ質權ハ成立スルコトヲ得ルモノナリ又質物ノ目的物ト爲サントスル物件カ質權者ノ代理人ト爲ルヘキ者ノ以前ヨリ占有スルモノナルトキハ質權ヲ設定シタリトテ直チニ質權者ニ占有アルモノニ非ス從前ノ占有ハ代理人タルヘキ者ノ占有ニシテ質權者ノ占有ニアラス故ニ代理人カ爾後質權者ノ爲メニ占有スヘキ意思ヲ表示スルヲ要ス然レモ此ノ場合ニ於テモ有形物ノ引渡ハ之ヲ要セス何トナレハ其物体ノ所持ハ以前ヨリ代理人ノ手ニ存在シ居レハナリ

物 質 編

質入ト爲シタル物件ニシテ之ヲ保存スルカ爲メ時々設定者ヲシテ手下サシムルコトヲ必要ナリトスルモノアリ例ヘハ醸造中ノ酒類ヲ質入ト爲シタルトキノ如キハ其設定者タル酒造人ノミ之ヲ醸造スルノ特識ヲ有スルヲ以テ全ク酒ト爲サンニハ其酒造人ヲシテ時々目的物ノ上ニ勞働ヲ加ヘシメサル可ラス其勞働ヲ爲サシムルニハ酒造人ハ場合ニヨリテハ酒庫ニ出入シ恰モ債務者タル酒造人カ占有スルカ如キ觀ヲ呈スルニ至ル可シ其酒庫ハ質權者ニ屬スルモノニシテ設定ノキ醸造中ノ酒類ヲ其庫中ニ運搬シタルモノナルニ於テハ其運搬ヲ以テ引渡アリトスヘキモ實際醸造中ノ酒ヲ運搬スルカ如キコトヲ爲スヲ得ス多クハ債務者ノ倉庫中ニ在ルヘシ故ニ此ノ如キ場合ニハ質權者カ特ニ番人ヲ設クルカ又ハ外見アル標識ヲ以テ其庫ハ質權者ノ借受ケタルコトヲ示スカ如キ行爲ヲ爲スニアラサレハ引渡ヲ受ケタルモノト爲スコトヲ得サルナリ目的物ノ引渡ハ必スシモ質權者其人ニ爲スヲ要セス質權者代理人ヲ立テ質物ヲ占有セシムルハ當然爲シ得ヘキコトナレハ引渡ヲ受ケタル者カ質權者ニアラストテ其設定ニ效力ナシト云フヲ得ス物件ノ性質ニ因テハ質權者自ラ引渡

ヲ受ケント欲スルモ能ハサルコトアリ例ヘハ馬ヲ以テ質物ト爲ス場合ニ於テ其質權者馬ヲ入ル、ニ適當ナル屋舎ヲ有セサルトキハ自ラ其引渡ヲ受クルヲ得スシテ之ヲ他ノ馬ヲ飼養スル者ヲ代理人トシテ其引渡ヲ受ケ以テ占有ヲ爲コトヲ得ルモノナリ

物 權 編

質權ハ其目的物ノ引渡アルニ因リテ設定セラル、モノナリ舊法ニ於テハ引渡ノ外尙質權ハ證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得サルモノトセリ第百十九條及然レハ新法ニ於テハ質契約ヲ以テ書面契約ト爲サス又質契約ヲ證明スルニ證據ニ制限ヲ加ヘ證書ニ依リテノミ之ヲ證明スルモノトモ爲サス故ニ證書ノ作成ハ以テ質權ノ設定ニ關係ナク普通ノ證據方法ニ因リテ證明シ得ルモノタリ故ニ本法ニ於テハ質契約カ適法ニ成立シ目的物ノ引渡アリタルトキハ質權ハ完全ニ成立シタルモノトス

第三百四十五條 質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代リテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス

物 權 編

本條ハ質權ノ占有ハ何人ニ於テ之ヲ爲セハ可ナルカラ規定シタルモノナリ質權ニ付テ占有ノ必要ナルコトハ上ニ見タルカ如シ而シテ其占有ハ質權者其人カ自ラ占有スルコトヲ必要トセス第百八十一條第百八十三條ニ依レハ占有ハ代理人ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ許ス故ニ其代理人ヲシテ占有セシメタルトキハ質權ノ効力ヲ妨クルコトナシ然ラハ質權設定者即チ質物ノ所有者ヲシテ債權者ノ代理トシテ質物ヲ占有セシムルモ其質權ハ有效ニ成立シタルモノナルカ是レ本條ニ於テ正面ニ決定シタル問題ナリ占有ニ代理ヲ許ス以上ハ設定者ト雖モ之ヲ代理人トシテ占有セシムルコトヲ得セシムルカ如シ然レモ本條ハ質權設定者ヲシテ質權者ニ代テ質物ノ占有ヲ爲サシムコトヲ得スト云ヘリ之ニ因テ其裏面ニ於テ設定者ノ外ハ何人ニテモ質權者ノ代理トシテ占有セシムルコトヲ得ルモノナリ

法律カ占有ニ付キ代理ヲ許スニモ拘ラス質權設定者ヲシテ代理占有ヲ許サ、ル所以ハ質權ノ性質ヨリシテ當然生スルモノナリ質權ニハ留置權ヲ包含ス凡ソ留置權ハ其之ヲ行ハシカ爲メ所有者ヨリ留置權者ニ渡サシムルコトヲ得ルモノニアラスシテ從來占有シタル物ヲ其儘留メ置クモノナリ然ルニ今質權ノ

物 權 編

目的物カ假令質權者ノ代理人ニモセヨ設定者即チ所有者ノ手ニ存スルトキハ留置ヲ爲サントスルモ得ヘカラス又質權ハ債務辨濟ノ爲メ其物件ヲ以テ直ニ賣却セシムルコトヲ得ルノ權利アルモノナリ然ルニ物件カ設定者ノ手ニ在ルトセンカ之ヲ賣却スルコトヲ得サルニ非スト雖凡之カ爲メニ差押等ノ手續ヲ爲サ、ルヲ得ス是レ質權ヨリ生スヘキ當然ノ便益ヲ減損スルモノト云フヘシ債務者自己ノ物件ヲ以テ質權ヲ設定シタルトキ此ノ如シ第三者ヨリ設定シタルトキモ亦同一ナリ質權者カ留置權ヲ行フニハ設定者タル第三者ニ對シテ之ヲ行ヒ物件ヲ賣却スルニモ第三者ノ物件ヲ賣却スルモノナレハ毫モ設定者タル債務者ヲシテ占有セシムルト異ナルコトナシ故ニ法律ハ獨リ債務者ヲシテ質物ノ占有ヲ爲サシムルヲ得スト云フニアラスシテ凡テ質權設定者ヲシテ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ストセリ而シテ其質權設定者ノ内ニハ第三者ニシテ債務者ノ爲メニ質權ヲ設定シタル者ヲモ包含スルモノナルコト勿論ナリ質權設定者ヲシテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得サルノ理由ハ以上ニ述ヘタルノ外動産質及ヒ或ル權利質ニ付テ尤モ必要ナル規定タリ動産質又ハ普通

物 權 編

債權ノ權利質ニ付テハ質權ノ設定ヲ公示スルノ方法ナシ所有者カ其所有ノ動産ヲ占有シ債權者カ債權ノ證書ヲ占有スルヲ見テ他人ハ其動産及ヒ債權ハ單純ナル物体ニシテ質權ヲ負擔スルモノトノ疑念タモ起サ、ルハ當然ナリ或ハ債權者ニ對シテ其動産若クハ債權カ質入ニ爲リ居ルコトハ豫知スルコトヲ得サルナリ然ルニ其所有者若ハ債權者ハ質權者ノ代理人ニテ所持シ居リタルモノナルコトヲ知ルノ途ナシ依テ或ハ其所有者若ハ債權者ノ爲メニ欺カレルコトモアルヘク或ハ設定者ノ資産ニ付キ信用上ノ錯誤ヲ來スコトモアルヘシ然ルヲ法律ノ規定スル如ク質物ト爲ル以上ハ質權者及ヒ質權設定者以外ノ人ノ占有スルモノニシテ設定者之ヲ占有スルコトヲ得サルモノトスレハ第三者ハ其占有ヲ見テ質權ノ存在ヲ知リ以テ不測ノ損害ヲ免ル、コトヲ得ヘキナリ然レトモ此理由ハ不動産質ノ如キ登記ヲ以テ公示シ又ハ記名社債ノ質權ノ如キ公示方法ノ備ハルモノニ在テハ第三百五十六條質權設定者ヲシテ代理占有セシムルコトヲ得サルノ理由ト爲スニ足ラス其公示ノ方法ニ因リ第三者ハ質權ノ設定ヲ知ルヲ得ヘク設定者カ占有ヲ爲シタルニ因リ質權タルコトヲ知ラサルト

物 權 編

云フカ如キハ第三者ノ怠慢ニ外ナラサルナリ
 質物ハ當事者双方カ選定シ又ハ債權者カ自己ノ責任ヲ以テ選定シタル第三者
 ノ手ニ寄托スルコトヲ得舊法條第百二條然レモ其第三者ハ質權設定者タル可ラス物
 件ノ性質ニ因リ他人ニ寄托スルヲ以テ双方ノ利益ナリト思考シ第三者ヲ選定
 シテ之ヲ委ネンコトヲ合意スルコトアルヘシ例ヘハ馬ヲ質入ト爲スニ當リ質
 權者其飼養ニ熟セサルヲ以テ他ノ熟練ナル人ニ寄托スルコトアリ或ハ設定者
 カ質權者ノ保存注意ニ信用ヲ措カサルヲ以テ他ニ寄托センコトヲ質權者ニ請
 求シ質權者之ニ應スルコトアルヘシ或ハ質權者ニ於テ保存ノ方法ニ付テ困難
 ナルヲ以テ他人ニ寄托スルコトヲ必要ナリトシ設定者ニ向テ若シ受寄者ニ損
 害ヲ生セシメタルトキハ自ラ其責ニ當ルヘシトノ條件ヲ以テ寄托スルコトモ
 アルヘシ是等ノ自由ヲ許スニ非ラサレハ實際質物ノ保有完全ナラス双方ノ不
 利益ヲ醸スニ至ルヘシ此ノ如ク第三者ノ手ニ寄托ヲ許スモ決シテ質權者カ質
 物ヲ占有スルノ精神ト抵觸スルモノニアラス何トナレハ此場合ニ於テハ質物
 ハ現ニ質權者以外ノ人ノ手ニ存スルト雖モ受寄者ハ委託ノ名義ヲ以テ所持ス
 ルモノナレハ質權者ハ占有ヲ失フニアラス占有物ヲ寄托スルト云フニ過キス

物 權 編

質權者ハ受寄者ノ介入ヲ以テ占有ヲ爲スモノナリ
 第三者ヲシテ質物ヲ占有セシムル場合ニ於テハ其第三者ト質權者トノ間ニハ
 必ス寄托若クハ代理ノ如キ權利行爲アリテ質權者ハ第三者ノ介入ヲ以テ占有
 スルモノナリ例ヘハ公證人ヲシテ質ト爲リタル債權證書ヲ占有セシムルカ如
 キコト往々之アリ公證人ハ其證書ヲ自己ノ爲メニスルノ意思ヲ以テ占有スル
 モノニ非スシテ必スヤ質權者ノ爲メニ占有スルモノナルヲ以テ其占有者タル
 公證人ハ質權者ヨリ寄托ヲ受タルモノナルカ又ハ代理人ニシテ其占有カ公證
 人自己ノ爲メニスルニアラサル以上ハ質權ノ有效ニ妨ケナカルヘシ
 第三百四十五條ハ質權設定者ヲシテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ禁ス若シ
 質權者カ質物ヲ以テ質權設定者ニ占有セシメタルトキハ如何ナル結果ヲ生ス
 ルカ是レ質權ヲ拋棄シタルモノナリ動産質及ヒ或ル權利質ニ付テハ質權ハ占
 有ト相離ル可ラサルモノナリ故ニ質權者カ占有ヲ止息スルトキハ其質權モ亦
 タ止息ス蓋シ設定者ヲシテ質物ヲ占有セシムルトキハ直チニ之ヲ公賣ニ附シ

テ辨濟ニ充當スルノ便益ヲ失ヒ又タ留置スルコトヲ得スシテ總テ質權ノ効用ヲ受クルコトヲ得サレハナリ其効用ヲ舉テ自カラ之ヲ棄却スルニ於テハ質權其ノモノヲ拋棄シタルモノナリ

不動産質ニ付テハ動産質ニ於ケルカ如ク繼續ノ占有ヲ必要ナリトセス故ニ質權設定者ヲシテ物件ヲ占有セシムルモ直チニ以テ質權ノ拋棄ト見ルコトヲ得サルモノ、如シ然レモ第三百四十五條ニハ動産質不動産質タルトヲ區別セス一概ニ質權設定者ヲシテ質物ヲ占有セシムルコトヲ許サス然ラハ不動産質ニ付テモ質權設定者ヲシテ占有ヲ爲サシメタルトキハ質權ヲ拋棄シタルモノトス動産質ニ付テ質權設定者ヲシテ占有セシムルトキハ毫モ質權設定ヲ見ルヘキモノナキヲ以テ繼續占有ヲ要シ不動産質ニ付テハ登記ナル公示方法アルヲ以テ之ヲ要セサルノミ質權ノ性質ニ至リテハ全一ナレハ若シ設定者ヲシテ占有セシメタルトセンカ上ニ述タル如ク質權ノ効用ヲ拋棄シタルモノナリ然レモ公示方法ニ依リ第三者ニ對シ存在ヲ知ラシメタルヲ以テ強テ効用アラシメントスレハ抵當ニ類似シテ抵當ニモアラサル一種ノ物權ヲ生セン是レ法律ノ認許セサル所ノモノナリ故ニ質權ハ勿論何等物權ノ存スルコトナシ

編 權 物

編 權 物

質權者カ一個ノ建物ノ上ニ質權ヲ有シ其建物ヲ質權設定者ニ貸與シ家賃ヲ收受シ占有者ノ行爲アルモ質權ノ設定ニ妨ケアリ先ツ債務者ノ住居スル建物ヲ質入ト爲シ依然繼續シテ其建物ニ住居シ唯家賃ノミヲ質權者ニ與フルモノナリトセンカ是レ第三百四十五條ニ背テ質權債權者ヲシテ占有ヲ爲サシムルモノト云ハンヨリハ第三百四十四條ニ要スル目的物ノ引渡ナキモノト云フヘシ何トナレハ該條ハ有体物ノ引渡ヲ要スルモノナルニ建物ハ引渡ナケレハナリ故ニ質權ノ設定ナキモノトス若シ質權設定者一旦其家屋ヲ引渡シタル後更ニ賃貸借ノ契約ヲ爲シ設定者之ニ住居ヲ爲ストセンカ質權者ハ家賃ヲ收受スルヲ以テ其家屋ニ付テハ收益ハ之ヲ爲スコトヲ得ルトスルモ其現ニ占有スル者ハ所有者ナルヲ以テ其建物ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充テントスルニ當テハ直ニ之ヲ公賣ニ附スルコトヲ得ス恰モ質物ニアラサル債務者ノ財産ニ於ケルト同一ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス又質權ノ一部タル留置權ニ至テハ之ヲ行フコトヲ得サルナリ第三者ヲシテ占有セシムル場合ニ於テハ質權者占有ヲ失フニアラ

ス尙ホ第三者ノ介入ヲ以テ占有ヲ維持スルモノナリ然レモ所有者タル質權設定者ヲシテ占有セシムルトキハ第三者ヲシテ占有セシムルニアラスシテ質權者ニ全ク占有ナキモノナリ故ニ質權ヲシテ有效ニ成立セシムルコトヲ得ス

第三百四十五條ニ於テ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得サル者ハ質權設定者ナリトス故ニ第三者カ債務者ノ爲メニ自己ノ物件ヲ質入ト爲シタルトキハ質權者ハ債務者ヲシテ其質物ノ占有ヲ爲サシムルモ敢テ妨ケナシトス蓋シ其債務者ハ質權設定者ニ非サレハナリ畢竟本條ニ於テ設定者ヲシテ占有セシムルコトヲ得サルモノト爲シタルハ上ニ述ヘタル如ク質權ノ占有カ所有權ト合併シテ一人ノ手ニ存スルヲ避ケタルモノナリ本例ノ場合ニテハ債務者ハ所有者ニ非ス故ニ占有ヲ爲スモ其資格ハ質權者ノ受托者若クハ代理人タルニ外ナラス質權債權者ハ其債務者タル第三者ノ介入ヲ以テ占有ヲ保持スルモノナリ質權ハ之ヲ有效ニ設定スルモ其質物ノ所有權ノ移轉ヲ妨クルモノニ非ス故ニ質權設定者ハ設定ノ後其質物ヲ他人ニ讓渡スコトアルヘシ質權者他人ヲシテ占有セシメタル場合ニ於テ其占有ヲ爲ス者カ質權設定者ヨリ所有權ヲ讓受ケタルトキハ質權ハ依然存在スルコトヲ得ルカ第三百四十五條ノ所謂質權設定者トハ獨リ質權設定ノ行爲ヲ爲シタル者ノミヲ指稱スルニアラス質權設定後所有權ヲ移轉シタル場合ニ於テハ其新所有者ヲモ指稱スルモノナリ何トナレハ其新所有者ニ質物ヲ占有セシメ置クトキハ留置權ヲ行フコトヲ得ス又直チニ質物ヲ公賣ニ付スルノ便ヲ失ヒ又不動産ニ付テハ公示ノ目的ヲ欠クコトハ設定行爲ヲ爲シタル者ヲシテ占有セシメタルト同一ナレハナリ果シテ然ラハ本問題ノ場合ニ於テハ質權者ノ代理トシテ占有ヲ爲シタル者所有者ト爲リタルトキハ質權設定ノ片所有者タル者ニ占有セシメタル場合ト全一ノ結果ヲ生スルニ至ルヲ以テ質權ハ有效ニ成立スルコトヲ得スト云フヘキカ如シ然レモ代理トシテ占有ヲ爲シタル者所有者ト爲リタルトキハ其所有權ト委任條件トカ并立スルコトヲ得サルヲ以テ代理ハ自カラ消滅ニ歸スヘシ既ニ代理ノ消滅スル以上ハ其占有ハ質權者ニ復歸スヘキヲ以テ質權債權者カ代理人ニ於テ所有權ヲ取得シタルコトヲ知リナカラ質物ノ占有ヲ其儘ニ爲シ置ク場合ノ外ハ質權ノ效力ヲ失フコトナカルヘシ若シ否ラストセンカ代理人カ所有權ヲ得タ

物 權 編

第二編 第九章 質權 第一節 總則

ルト同時ニ質權ノ効力ヲ失フモノトセサルヲ得ス是レ質權者ノ不幸モ亦甚シト云フヘシ何トナレハ代理人ト質權設定者トノ間ニ所有權移轉ノ行爲アリシコトハ動産ニ付テハ容易ニ知リ得ヘカラサレハナリ

第三百四十六條 質權ハ元本、利息、違約金、質權實行ノ費用、質物保存ノ費用及ヒ債務ノ不履行又ハ質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

本條ハ質權ノ効力ハ質物ヲ以テ債權辨濟ニ充ツルコトヲ示シ且ツ其擔保スル債權ノ區域ヲ明ニシタルモノナリ質權ノ目的タルヤ債務者滿期ニ至リ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ其質物ヲ賣却シテ其代價ヲ以テ債權ノ辨濟ニ當テ又ハ質物ノ所有權ヲ辨濟トシテ質權者ニ取得セシムルモノナリ然レモ質權ヲ有スル債權者ニ對スル債權ハ悉ク質物ヲ以テ擔保セラル、ト云フニアラス自ラ擔保スヘキ債權ニ區域アリテ其區域内ノ債權ニアラサレハ質物又ハ其代價ヲ以テ辨濟ニ充ツルコトヲ得ス法律ハ其質權ノ擔保スヘキ債權ヲ本條ニ掲擧シタリ質權者ハ債務者ニ於テ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ其質物ヲ以テ己レノ有ト爲スコトアリト雖モ原則トシテハ質物ヲ賣却シ其代價ヲ以テ辨濟ニ充ツヘシ故ニ債務者

物 權 編

物 權 編

債務ノ履行ヲ爲サ、ルトキハ債權者ヨリ質物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得他ノ債權者ト雖モ債務者無資力ト爲リタル場合ニ於テハ競賣ヲ請求シ得ル場合ナキニアラサルコトハ次條ニ付テ后ニ見ルカ如シ

第三百四十六條ニ依レハ質權ノ擔保スヘキ債權ハ左ノ如シ
第一 元本及ヒ利息舊擔保百一十一條

元本カ質權ヲ以テ擔保セラル、コトハ當然ニシテ債權役定ノ目的ハ何レノ場合ニ於テモ元本ノ辨濟ヲ得ルニ在リ又利息ハ常ニ元本ニ附從スルモノニシテ元本ト同一ニ擔保ヲ受ク而シテ利息カ契約ヨリ出テタル場合ハ勿論法定ノ利息ナルトキト雖トモ質權ノ擔保ヲ受クルモノナリ例ヘハ賣買目的物ノ引渡ノ日ヨリ賣主ノ負擔シタル代金ノ利息ノ如キ法定利息モ亦元本ニ附從スルモノニシテ質權ノ擔保ヲ受クヘシ契約ヨリ出テタル利息ト唯タ其發生ノ原因ヲ異ニシタルモノニシテ其性質ニ至テハ毫モ異ナルコトナシ
元本ノ區域ニ付テハ質契約ノ目的如何ヲ解釋シテ之ヲ定ムヘシ同一ノ債務

者ニ對シ二個ノ債權アルトキハ即チ二個ノ元本アルモノナリ而シテ質權ハ債權ノ一ヲ擔保スルモノナルカ二個ノ債權共ニ擔保スルモノナルカハ債權契約ニ因テ解釋スヘキナリ例ヘハ一ノ債權アリテ動産質ヲ設定シタル債權者カ同一ノ債權者ニ對シテ新債權ヲ起シタルトキハ債權者ハ第一ノ債權ニ付テ債務者其人ニ信用ヲ欲クヲ以テ第二ノ債權ニ付テモ亦信用ナカルヘク故ニ多クハ其第一ノ債權ニ對シ質權ヲ以テ第二ノ債權ヲモ擔保セシムルノ意思ヨリシテ第二ノ債務ニ付テ承諾ヲ與ヘタルモノナルヘシ債權者債務者ノ意思ヲ推測スルモ斯ノ如シ故ニ佛國民法第二千八十二條ノ如キハ法律ヲ以テ推定シ本例ノ場合ニ於テハ第二ノ債務ノ辨濟モ亦質權ノ擔保ヲ受クルモノトセリ然レモ第二ノ債權ニ付キ質權者カ第一ノ債權ニ對スル債權ヲ以テ擔保ト爲スノ意思アリ其債務者モ亦之ヲ承諾シタルカ否ヤハ即チ其第二ノ債權ニ付キ解釋ヲ下スヘキ事柄ニシテ只々世上多クノ場合ニ於テ債權者ノ情態ハ第一ノ債權ニ對スル擔保ヲ第二ニ及ホスモノナリトシ法律ニ之ヲ定メ置クハ推測ノ程度ヲ失スルモノト云ハサルヲ得ス質權ハ契約ニ基クモノトスレハ債權ニ付キ質權ノ有無ハ各契約ニ依テ下スヘキ解釋ナリ故ニ舊法ニ於テモ此法律上ノ推測ヲ採用セス新法ニ於テモ亦然リ故ニ質權ヲ以テ擔保スヘキ元本ノ區域ハ一ニ質權契約ノ區域如何ニ因ルモノトス

第二 違約金

第四百十九條ニ違約金ハ之ヲ賠償額ノ豫定ト推測ストアリ凡ソ違約金ハ其文字ノ指示スル如ク違約シタル者ヨリ相手方ニ拂フヘキモノナルモ其本然ノ性質ニ於テハ損害ノ賠償ニハアラサルナリ故ニ法律ニ於テ損害賠償額ノ豫定シタルモノト之ヲ宥做シタリ千圓ノ債務アリテ若シ債務者ニ於テ約ノ如ク債務ヲ履行セサルトキ違約金トシテ若干圓差出スヘシト契約シ且質權ヲ設定シテ尙千圓ノ債權ノ擔保ト爲シタルトキハ其違約金ハ即チ債權ノ履行ニ代ハルモノナリ而シテ其代ハリタル違約金モ亦金錢ナルヲ以テ或ハ債務者ヨリ之ヲ辨濟セサルコトアルモ計リ知ル可ラス故ニ質權ハ其違約金ノ辨濟ヲ擔保シ若シ違約金ヲ辨濟セサルトキハ質物ノ代價ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ其辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモノナリ

第三 質權實行ノ費用

質權ノ實行トハ質權ノ既ニ成立シタル上之ニ依テ擔保ノ效用ヲ受クルカ爲メニ行フタル行爲ナリ然ラハ其行爲ヨリ生シタル費用ハ質權ト決シテ相離ル可カラサルモノナレハ其辨濟ハ質權ヲ以テ擔保セラレサル可ラス例ヘハ質物ノ競賣費用ノ如キハ即チ實行費用ナリ又權利質ノ場合ニ於テ其目的タル債權ハ質權者直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ得第三百六條此取立ヲ爲スニ付テハ多少ノ費用ヲ要スヘシ其費用ノ辨償ハ元本ト全一ニ質物ノ代價ニ付キ優先權ヲ以テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ又動産ノ質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限り鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直ニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得第三百五條此鑑定費用ノ如キモ亦質權實行ノ費用ナリ何トナレハ質權者カ質權ノ效用ヲ受ケンカ爲メニ必要トナリタル行爲ヨリ生シタル費用ナレハナリ故ニ主タル債權ト全一ニ質權ノ擔保ヲ受クヘシ

第四 質物保存ノ費用舊法條第百九條

凡ソ占有物ニ付テ要シタル費用ニ必要費ト有益費ノ二種アリ第一百九條保存費ハ即チ必要費ニ屬ス例ヘハ質權者カ其質物ニ修繕ヲ加エタル費用又不動産質權者カ其不動産ニ賦課セラレタル租税ノ如キ是ナリ保存ノ所爲ハ其質物ヲシテ存在スルコトヲ得セシメタルモノナレハ主タル債權ト共ニ質物ヲ以テ擔保セラレヘキハ勿論ナリ第二百九十九條ニ於テ留置權者カ其留置物ニ付キ必要費ヲ出シタルトキハ其所有者ヲシテ償還ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトシ本條ハ之ヲ質權ニ準用スルコトヲ得第三百五條而シテ其償還ヲ得ルノ權利ハ質權ノ實行ヲ得ンカ爲メニ質權者カ爲シタル保存行爲ヨリ要シタルモノナルヲ以テ前項ノ實行費用ト全一ニ質權ノ擔保ヲ受クヘキナリ質物ヨリ果實ヲ生スルトキハ質權者ハ之ヲ收受スルノ權利ヲ有ス第三百五條第九十六條ニ依レハ占有者カ果實ヲ取得シタル場合ニ於テハ保存費ト雖モ通常ノ必要費ニ屬スルモノハ占有者ノ負擔トス蓋シ小修繕ノ如キモノハ果實ノ負擔タルヘキヲ以テ其果實ヲ收受スヘキ者ニ於テ負擔セシムルモノナリ然レモ質權者ニ付テハ大ニ異ナリ果實ヲ收受スルモ通常ノ必要

物 權 編

費ニ屬スル保存費ト雖_レ之カ償還ヲ求ムルコトヲ得ルナリ何トナレハ質權者カ果實ヲ收受シタル場合ニ於テハ其果實ハ之ヲ自由ニ利得スルコトヲ得ス即チ之ヲ質權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルコトヲ要スルモノナリ第三百五十七條故ニ其果實ハ收受スルニ從テ債務者ノ利益ノ爲メニ充當セラル、モノナレハ普通占有者カ自由ニ收受スルカ如クナラス因テ質權者カ負擔シタル保存費ハ非常必要費ナルト普通必要費ナルトヲ問ハス凡テ質權ノ擔保ヲ受クルモノナリ

有益費即チ物件ノ改良ノ爲メニ費シタル費用ハ何故質權ヲ以テ擔保セサルカ質物タル物件ニ向テ改良ヲ加ヘ價額ヲ増加セシムルカ如キハ質權者トシテ爲スヘキ行爲ニ非ラス質物トシテ保存スルニハ其質トシテ受取リタル當時ノ價額ヲ維持スルコトヲ得レハ足レリ殊更ラニ其價額ヲ増サシムルヲ要セス然レ_レ若シ質權者ノ行爲ニヨリ改良増價アリタルトキハ質權者ニ於テハ其費用ノ償還ヲ受クルノ權ナシトスルニアラサルナリ留置權者ト全一ニ之カ償還ヲ求ムルコトヲ得第三百五十九條然レ_レ其償還ヲ受クルノ權ハ不

當利得ニ基クモノナリ質權設定者ハ債權者ノ改良行爲ニヨリテ利益ヲ得ルモノナレハ之ヲ償ハサレハ謂ハレナク他人ノ費用ニ因テ己レヲ利得スルモノナリ故ニ質權者ニ償還ヲ要求スルノ權ヲ生スト雖_レ是レ質權ヨリ生スルニアラス故ニ質物ノ擔保ヲ此償還ニ及ホスコトヲ得サルナリ

第五 債務ノ不履行ヨリ生シタル損害ノ賠償

債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲サス又ハ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得第四百條例ヘハ他ニ賣渡ス目的ヲ以テ株券ヲ買受ケ其引渡ノ日限ヲ定メ尙ホ其債權ヲ確ムルカ爲メニ質ヲ設定シ置キタルニ賣主ハ謂ハレナク引渡ヲ遅延シ其遅延シタルカ爲メ賣却ノ時期ヲ失ヒ相場下落シタルトキノ如キハ其損失ハ賣主ヨリ賠償セシムルコトヲ得而シテ其賠償額ハ即チ主タル債權中ニ包含セラレタル利益ヲ代表スルモノナレハ其債權ト全一ニ質權ノ擔保ヲ受クヘキナリ又債務者ノ過失ニ因リ賣渡シタル米穀カ滅盡シテ遂ニ引渡スコト能ハサルニ至リタルトキハ之カ爲メ買主ハ損

物 權 編

物 權 編

失ヲ受クルコトアルヘシ若シ此賣買ニ付キ擔保トシテ質權ノ設定アリシト
 キハ上下全一ノ理由ニ因リ賠償ハ質權ノ擔保ヲ受ク
 金錢ノ貸借ニシテ其擔保トシテ質權ヲ設定シタル場合ニ於テ債務者カ約ノ
 如ク辨濟ヲ爲サ、ルニ因リ之ヲ裁判所ニ訴ヘタルトキハ訴訟費用ヲ生ス此
 費用ハ債務者カ債務ノ本旨ニ從ヒ履行ヲ爲サ、ルニヨリ生シタル損失ニシ
 テ即チ損害賠償ト云フヘキカ將タ第三ニ述ヘタル質權實行ノ費用ナルカ何
 レニシテモ其結果ハ全一ナリト雖モ質權實行ノ費用ハ上ニ述ヘタル如ク質
 權ノ實行ヲ得ンカ爲メニ直接ニ要シタル費用ナリ本例ノ訴訟費用ハ主タル
 債務ノ履行ヲ求ムルモノナレハ從テ質權ヲ實行スルノ場合ニ立至ラシムル
 ト雖モ其行爲ハ債務者ニ辨濟スヘキ義務アルコトヲ裁判上ニ判示セラレ且
 ツ辨濟スヘキ旨ノ言渡ヲ求ムルニアレハ未タ質權ノ實行ニハ直接ナラス債
 務者カ辨濟スヘキ旨ノ言渡ヲ受ケ初メテ質權實行ノ費用即チ競賣ノ如キ費
 用ヲ生スルモノナリ故ニ此訴訟費用ハ損害賠償トシテ質權ノ擔保ヲ受ク

第六 質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害 舊法條第百九條

物 權 編

債權者カ質物トシテ占有スル物件ニシテ隠レタル瑕疵アリテ爲メニ債權者
 ニ損害ヲ蒙ラシムルコトアルヘシ例ヘハ流動物ヲ入レタル樽若クハ瓶ノ類
 ヲ質入ト爲シ其樽若クハ瓶ニ損所アルコトヲ豫メ債務者ヨリ通告シ置カサ
 ルニヨリ債權者之ヲ知ラスシテ己レノ倉庫中ニ藏メタルニ流動物ノ漏出ニ
 ヨリ他ノ物件ヲ腐敗若クハ變色セシムル等ノコトアルトキハ債務者カ通告
 セサルノ不注意ヨリシテ債權者ニ損害ヲ被ムラシメタルモノナルヲ以テ債
 權者ハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得此賠償ハ主タル債權債務ニ代ハルモノニ
 非スト雖モ畢竟質權設定ノトキ債務者ノ過失ヨリ生スルモノナレハ即チ質
 權ト直接ノ關係ヲ有スルヲ以テ其賠償ハ質權ヲ以テ擔保スヘキナリ其他動
 物ヲ質入ト爲ス場合ニ於テ其動物ニ疾病アリテ他ノ動物ニ傳染シタル如キ
 場合モ亦其例ナリ

以上ニ掲ケタル六種ノ債權ハ質權ノ性質トシテ之ヲ限定シタルモノニアラス
 質權ハ契約ヨリ出テルモノナルヲ以テ當事者ノ意思ニ於テ質權ヲ以テ擔保セ
 ントスルモノハ凡テ擔保ノ効力ヲ之ニ及ボサ、ル可ラス實際ニ質物ヲ契約ス

物 權 編

ル場合ニ於テ其擔保スヘキ質權ヲ特ニ掲擧スル者ハ少ナカルヘシ只タ元本ノミヲ掲テ質權ヲ契約スルコト多シ第三百四十六條ハ斯ル場合ニ於テ當事者ノ意思ハ如何ナル範圍内ニ質權ノ擔保ヲ要シタルカヲ法律上ニ推測シタルモノナリ故ニ其但書ニ云ヘル如ク設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ決シテ此六種ノ質權ニ限ルニアラス他ノ物ヲモ擔保スヘク又六種ノ内ヲ限定ニテ二種若クハ三種ト定メタルトキハ質權ノ區域ハ立法者ノ推測シタルヨリモ尙ホ減少セラ
ル、モノナリ

尙ホ法律カ此六種ノ質權ヲ掲ケタルハ定限ノ趣旨ナルヲ以テ當事者間ニ於テ擔保スヘキ質權ヲ明示セザリシトテ質權ヲ此法律ニ掲ケタル範圍外ニ擴張スルコトヲ得ス何トナレハ質權ノ効用ハ第三者ニ對スルトキニ在リ故ニ其區域ヲ擴張スルトキハ第三者ノ利益ヲ減縮スルヲ以テナリ

質權者ハ債務者カ債務ノ満期ニ至リ債務ノ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ質權ノ辨濟ヲ満足セシムル爲メニ二個ノ方法ヲ有スルモノナリ其一ハ質物ヲ公賣ニ付シ因テ得タル代價ニ付キ優先權ヲ以テ辨濟ヲ受ケ他ノ一ハ動産質ニ付キ第三百

物 權 編

五十四條ニ規定スル如ク質物ヲ以テ直ニ質權ノ辨濟ニ充ツルモノナリ第一ノ方法ニ依ルトキハ其優先權ヲ有スヘキ質權額ハ上ニ見タル六種ノ質權額ヲ合セテ之ヲ算定ス第二ノ方法ニ依ル場合ニ於テモ亦全一ナリ其質物ヲ以テ當ツヘキ質權額ハ以上六種ノ質權ヲ合算シタルモノナリ然レモ六種ノ質權カ常ニ并存スト云フニハ非サルナリ例ヘハ千圓ノ質權ニシテ其利息ハ五十圓而シテ實行費用ニ貳十圓保存費用ニ三十圓アリテ質權ノ擔保スヘキ金額合計千百圓ナルニ質物ヲ評價シ八百圓ナルトキハ其質物ヲ以テ千百圓ノ内八百圓ニ當テ殘金三百圓ハ債務者ニ向テ普通質權者トシテ之ヲ要求スルコトヲ得ルモノナリ

第三百四十七條 質權者ハ前條ニ掲ケタル質權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

本條ハ質權ノ一分子タル留置權ノコトヲ規定シタルモノナリ質權者質物ノ引渡ヲ受ケタル以上ハ之ヲ己レニ留置シ以テ他人ノ爲メニ其所持ヲ失フコトナシ而シテ其留置ヲ爲スノ效用ハ其質物ヨリ果實ニ生スルトキハ之ヲ收受シテ

物 權 編

以テ債權ノ元利ニ充當スルニ在リ又物ニハ賣却ノ時機アリ質權者ハ質物ヲ留置シテ賣却ノ好時機ヲ俟テ他ノ債權者ノ爲メニ強テ賣却セラレ質物ノ代價カ辨濟ニ不十分ナルカ如キ不利益ヲ避クルニ在リ又其質物ヲ留置スルトキハ設定者ハ早ク之ヲ債權者ノ手ヨリ取戻サンコトヲ欲シ辨濟ヲ爲スニ至ラシムルニ在リ是等ノ便益ハ質權ノ性質ヨリ生スルモノナリ

舊法ニテハ動産質權者ハ其債權ノ辨濟期限到來セサル間ハ他ノ債權者ヨリ爲ス質物ノ差押及ヒ其競賣ヲ拒ムコトヲ得條第二百十項滿期ト爲リタルトキハ他ノ債權者ヨリ競賣ヲ求ムルモ之ヲ拒ムコトヲ得全條百一十一條又不動産質ノ場合ニ於テハ質權者ハ債務ノ期滿前又ハ期滿後ニ債務者又ハ他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス全條百二十八條然レモ新法ニ於テハ斯ノ如キ區別ヲ設ケス質權ノ目的物カ動産ナルト不動産ナルトヲ問ハス又債權ノ辨濟期限ノ到着シタルト否トニ拘ラス一般ニ留置權ヲ有スルモノトス然レモ新法ニ於テハ債權者ノ留置權ハ對スル所ノ人ニ依テ之ヲ行フヲ得ルト得サルトノ區別ヲ爲セリ

物 權 編

第一 質權設定者ニ對シテハ質物ヲ留置スルコトヲ得

質權者ハ質物ヲ占有スヘキコトハ既ニ見タルカ如シ故ニ質權設定者カ自己ノ手ニ回收セント欲スルハ即チ質權ヲ消滅セシメント欲スルニ外ナラサルヲ以テ之ヲ爲スヲ得サルハ勿論競賣ニ附セント請求スルヲ得ス否ラサレハ設定者ノ所爲ニ依リ留置ノ便益ヲ失フニ至ルヘシ

斯ク設定者ニ向テ留置スルコトヲ得ルモノナレハ第三取得者ニ對シテモ留置スルコトヲ得ヘシ何トナレハ第三取得者ハ質權設定者ノ權利ヲ承繼スルモノニシテ留置權ニ服シタル物件ノ所有者ナリ設定者ヨリ優等ノ權利ヲ有スルヲ得ス然レモ法律ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得トアルヲ以テ設定者若クハ第三取得者カ債權ヲ辨濟シタルトキハ質權者ニ於テ之ヲ留置スルノ必要ナク質權ハ消滅スヘキヲ以テ留置スルコトヲ得サルヤ明カナリ而シテ本條ハ留置權ノコト、同時ニ留置權ノ不可分ノコトヲ顯ハシタルモノナレハ第三百四十六條ニ掲ケタル債權ノ内例ヘハ元本利息ヲ辨濟スルモ保存費用ノ辨濟スヘキモノアルニ之ヲ辨濟セサルトキハ質權債

權者ハ依然質物ヲ留置スルコトヲ得ルナリ
第二 質權者ニ對シ優先權ヲ有セサル他ノ債權者ニ對シテハ質物ヲ留置スルコトヲ得

普通債權者ハ勿論動産質ニ付テハ動産保存ノ先取特權者動産賣買ノ先取特權者ノ如キハ一般ニハ動産質權者ニ對シテ優先權ヲ有スルモノニアラス又不動産ニ付テハ不動産賣買ノ先取特權者ニシテ其登記カ質權登記ノ后ニ在ルモノハ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スルモノニ非ス是等ノ債權者ハ質權者ヨリ見ルトキハ普通債權者ト同一ナルヲ以テ縱令債務者ノ財産ヲ賣却シ各債權者ニ對スル債務ノ辨濟ヲ爲サンカ爲メ質物ヲ賣却セント要求スルモ質權者ハ質物ヲ留置シ以テ債權者ノ求メヲ拒絕スルコトヲ得ルモノナリ是レ質權ニ存スル強大ナル便益ナリ當時質物ノ價額カ好景氣ナラサルニ之ヲ賣却スルトキハ或ハ質權者ノ債權ヲ辨濟スルニ足ラサルヤモ計リ難シ故ニ他日ノ好機會ヲ俟テ賣却シ辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得
然レモ他ノ債權者ハ絶對ニ質物ヲ競賣ニ付スルコトヲ得サルニ非ス第三百四

物 權 編

物 權 編

十七條ニ債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得トアリ故ニ質權者ハ債權ノ辨濟ヲ受クレハ質物ヲ留置スルコトヲ得サルヤ明カナリ然ラハ他ノ債權者カ質物ヲ質權者ニ占有セシメナカラ之ヲ競賣ニ付シ競賣代價ヲ以テ辨濟ニ充テ而シテ物件ヲ引渡スコトヲ以テ其競賣ノ一條件ト爲シテ以テ賣却スルコトヲ得ヘシ然ルトキハ競落者ハ質權者ノ占有ノ儘之ヲ買受ケ其代價ヲ以テ質權者ニ辨濟ヲ爲シ物件ヲ取得スルコトヲ得ヘシ然レモ若シ其賣却代價カ辨濟スルニ不充分ナルトキハ質權者ハ質物ノ留置ヲ失フコトナカルヘシ斯ク競賣ノ條件ヲ付シテ質物ヲ競賣スルコトヲ得ルトスレハ債權者カ好機會ヲ俟テ賣却セントシムル望ハ達スルコトヲ得ス頗ル不利益ナル結果ヲ受クルモノ、如シ然レモ質權者ヲシテ好機會ヲ以テ質物ヲ賣却セシムルハ質權者ヲシテ或ハ其質物ノ價額ハ十分ナルニ賣却ノ時期不適當ニシテ辨濟ニ不十分ナルコトナカラシメンカ爲メナリ然ルニ今留置ヲ以テ競賣ノ一條件ト爲シ他ノ債權者ヨリ質物ヲ競賣ニ付スルトキハ第三百四十六條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルニアラサレハ留置ヲ止ムルコトナキヲ以テ留置ヲ止メルハ債權ノ辨濟ヲ

受ケタル場合ナリ故ニ質権者ニ於テ毫モ之カ爲メニ害ヲ受クルコトナシトス
第三 質権者ニ對シ優先權ヲ有スル債権者ニ對シテハ質物ヲ留置スルコトヲ得ス

物 權 編

質權設定ノ當時動産保存ノ先取特權者又ハ動産賣買ノ先取特權者アルコトヲ知リテ質物ト爲シタルトキノ其保存者又ハ賣主ハ動産質權者ニ對シテ優先權ヲ有シ又不動産保存ノ先取特權者不動産工事ノ先取特權者又ハ登記ノ日付ヲ先キニスル不動産賣買ノ先取特權者若クハ抵當權者ノ如キハ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スルモノナリ是等ノ優先權者カ質ト爲リタル物件ヲ賣却セントスルニ當テハ質權者ハ留置權ヲ以テ對抗スルヲ得ス蓋シ是等ノ債権者ハ既ニ質權者ヨリ上位ニ在ルモノナルニ若シ尙ホ留置權ヲ有スルトスレハ質權ノ力强大ニ失シ法律ハ質權者ノ保護ニ偏スルモノト云ハサルヲ得ステニ先取特權者ト相對スル場合ノ如キニ在テハ法律ヲ以テ與ヘタル特權カ契約ヨリ出テタル質權ノ爲メニ其行使ヲ拘束セラル、ニ至ルヘシ是レ權衡ヲ得サルノ甚キモノナルヲ以テ法律ハ是等ノ債権者ニ對シテハ優先權ナシトセリ

物 權 編

一般ノ留置權ハ法律ノ附與シタル物權ナルヲ以テ其力極メテ強大ニシテ何人ニ對シテモ其行使ヲ妨ケラル、コトナシ獨リ質權ノ一部タル留置權ニ付テハ上ニ見タル如ク自己ニ對スル優先權者ニ對抗スルコトヲ得ス是レ質權中ニ包含スル留置權カ効力ノ點ニ於テ一般ノ留置權ニ異ナル所以ナリ故ニ質權ニハ純然タル留置權アリト云フコトヲ得サルナリ
斯ク質權者ハ自己ニ對スル優先權者ニ對シテ留置ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ其優先權者カ賣却ヲ爲サント欲スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス然ルニ若シ質權者ニ付テハ未タ債權ノ辨濟期限到來セサル間ニ右ノ優先權ヲ有スル債権者カ質物ヲ以テ競賣ニ付シタルトキハ質權者ハヨシ賣却代價ニ殘餘アリテ自己ノ債權ヲ辨濟セシムルニ足ルモ直ニ之ヲ受領スルコトヲ得ス斯ク代金ハ受領スルコトヲ得ス又留置ヲ爲スコトヲ得サレハ殆ト質權ノ利益ハ皆無ニ歸スヘキモノ、如シ然レモ之カ爲メ質權者ヲシテ質權ノ效用ヲ失却セシムヘカラサルヲ以テ宜ク競賣ヲ爲シタル優先權者ノ義務トシテ賣却代金ノ一部ニシテ質權者ニ配當スヘキモノハ之ヲ質權者ノ爲メニ供托セシムヘシ舊法第九條ニ

ハ此場合ト雖モ尙ホ留置權ハ質ノ終了スヘキ期間ニ至ルマテ繼續スルモノトセリ然レモ一旦質權者カ優先權者ノ爲メニ競賣ニ付セラ、ニ至リタル上ハ留置權ハ繼續スヘキノ理ナシ故ニ新法ニ於テハ之ヲ採用セス競賣ニ依テ留置權ハ終了スルモノト爲シタリ

物 權 編

本條ノ規定ハ民事訴訟法第五百六十五條ト抵觸シタルノ嫌ナキ能ハス本條ニ依レハ差押ヲ受クヘキ物ノ上ニ付キ第三者ヨリ物上擔保ヲ主張シ差押ヲ妨クルコトヲ得サルモノトス質權者ハ即チ其所謂物上擔保ヲ有スルモノナリ然ラハ自己ニ對シ優先權ヲ有セサル債權者カ競賣ヲ爲サンカ爲メ差押ヲ爲スニ當リ留置權ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス然レモ先キニ見ル如ク競賣ノ一條件トシテ質物ヲ競賣ニ付スルコトヲ得ルヲ以テ留置權ヲ有スルモ差押ヲ爲スノ妨ケトナルモノニアラス又差押ヲ爲スニ留置權ヲ害スルコトナシ

第三百四十八條 質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲ササレハ生セサルヘキ不可抗力ニ因ル損失ニ付テ

モ亦其責ニ任ス七拾第百

物 權 編

本條ハ質權者ヲシテ其質物ヲ以テ轉質ト爲スコトヲ許シタルモノナリ轉質トハ質權者自ラカ他ニ對シテ債務ヲ負擔シ其擔保トシテ自ラ質物トシテ占有セラル物件ヲ以テ質ニ供スルノ謂ナリ凡ソ質權ハ物權ナリ物權ノ性質ハ一般ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ルモノナレハ今質權ナル物權ヲ有スル者其質物ヲ他ニ質ト爲スハ即チ其物權ヲ讓渡スモノニシテ物權ノ性質上當然ノ結果ナリトシテ之ヲ法律ニ掲ケタルモノナルカ將タ質權ノ如キ物權ハ債權ノ擔保ニシテ債權ヲ離レテ獨立スルコトヲ得ス常ニ債權ニ附從スルモノニシテ讓渡スコトヲ得サルモノナルヲ以テ法律ハ特ニ本條ヲ以テ轉質ト爲スコトヲ許シタルモノナルカ一説ニ曰ク本條ノ規定ヲ必要トスルハ第二百九十八條ノ規定アルカ爲メナリト第二百九十八條ハ留置權者ニ對シ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ヲ擔保ニ供スルコトヲ禁シタルノ法條ニシテ第三百五十條ヲ以テ之ヲ質權ニ準用スルモノトセリ然ラハ此論ノ趣旨ハ質權ハ物權ニシテ質取債權者ハ其權利ノ性質トシテ當然質物ヲ轉質ト爲スコトヲ得ルモノナルモ留置權ノ規定ヲ準用スヘキ規定アルカ爲メ轉質ヲ禁シタルモノト爲ルコトヲ避ケンカ爲メ特ニ本條ヲ

物 權 編

設ケタルモノナリト云フニ外ナラサルヘシ然レモ地上權永小作權ノ如キ物權ハ獨立シテ存在スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ當然讓渡スコトヲ得ルモ債權ト離レテ存在スルコトヲ得サル質權ニ至テハ之ト全ク一ナルヲ得ス若シ物權ノ性質トシテ讓渡スコトヲ得ルモノトセハ留置權ノ規定ヲ準用スルニ當テ留置物ヲ他ノ擔保ニ供スルコトヲ得サルノ規定ヲ準用セサルコトヲ示セハ以テ足レリ然ラハ本條ヲ設ケタルハ質權ハ元來讓渡スコトヲ得ヘキモノニアラサルヲ以テ特ニ轉質ヲ許シタルモノナリ質權者ハ質物ノ上ニ物權ヲ有シ且占有ヲ爲スト雖モ留置權者ト均シク其物ヲ使用スルコトヲ得ス此點ハ他ノ獨立シタル物權ト自ラ異ナル所ナリ永小作地上權ノ如キハ使用スルノ權能ヲ包含ス質權ニ至テハ否ラス其目的ハ一ニ債權ノ辨濟ヲ擔保スルニアリ只物件ヲ占有スルハ質權ノ成立ヲ公示シ又質權實行ヲ便ナラシメンカ爲メナリ故ニ其性質トシテ讓渡スコトヲ得ヘキモノニアラサレハ亦轉質ト爲スコトヲ得ヘカラスアルモノナリ然レモ法律ハ債權者及ヒ他ノ債權者ニ損害ヲ被ムラシムルコトナク質權者ヲシテ質權ノ範圍ヲ擴張スルコトヲ得ヘキ限リハ之ヲ擴張セント

物 權 編

欲シタリ故ニ質債權者ノ便利ヲ計リテ此轉質ヲ許シタルナリ
 留置權者ハ債權者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用若クハ質貸ヲ爲スコトヲ得ス
 第二百九條 此規定ハ質權ニモ亦之ヲ準用ス 第三百五十五條 擔保然ルニ今債權者ノ承諾ナクシテ之ヲ轉質ヲ爲スコトヲ許スハ其趣旨矛盾スルカ如シト雖モ轉質ニナスハ使用スルニ非ス又轉質ヲ許シタリトテ其轉質者ヲシテ質物ヲ使用セシムルコトヲ許スニアラス只之ヲ債務ノ擔保ト爲スニ過キサルナリ設定者ヨリ之ヲ見ルトキハ轉質權者ハ全ク質物ノ預リ人ニ外ナラスシテ其人ニ對シテ何等ノ義務ナク債務ヲ辨濟セハ以テ直ニ其物ヲ取戻スコトヲ得ヘク若シ損害アレハ第一質權者ニ向テ之ヲ求ムヘク要スルニ債務者ハ毫モ轉質權者ニ對シテ關係ナキモノタリ故ニ使用ヲ許サ、ルノ趣旨ト矛盾スルコトナカルヘシ
 轉質ヲ爲スニハ左ノ二個ノ條件ヲ要スルモノトス

第一 轉質ハ質權存續期間ニ限ルコト

質權ハ債權ノ從タルモノナルヲ以テ其債權ノ存在スル期間ニアラサレハ存續スルコトヲ得ス而シテ質權設定者ハ轉質權者ニ對シテ何等ノ干係ナキモ

ノナレハ之カ爲メニ毫モ拘束セラル、コトナケレハ自己ニ對スル債權消滅シ從テ質權消滅シタル后猶ホ轉質者ノ爲メニ質物トシテ物ヲ供シ置クノ義務ナシ

物 權

編

畢竟第一ノ質權者ハ自己ノ有スル債權ニ對スル質權ヲ債權者ニ讓リタルモノナレハ其第一質權ヨリ長キ期間ノ權利ヲ讓渡スコトヲ得ヘキモノニ非ス轉質權者モ亦第一質權者ノ權利ノ外多クノ權利ヲ讓受ケタルモノニアラサレハ第一質權ノ消滅ト共ニ轉質モ消滅スヘキモノナリ
 轉質ハ如斯性質ノモノナレハ其擔保ノ點ニ於テモ亦甚タ薄弱ナルヘシ第一ノ質權ヲ以テ擔保セル債權カ期限ニ至ラサル前轉質ヲ以テ擔保セル債權ノ期限到着スルモ轉質權者ハ其質物ヲ賣却シテ債權ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得ス又第一ノ債權ノ期限到着シタルトキハ轉質ノ擔保セル債權ノ期間ノ到着ニ拘ラス債務者ハ辨濟ヲ爲シ以テ質權ヲ消滅シ從テ轉質モ亦消滅スルニ至ルヘシ然ラハ如何ナル場合ニ於テ轉質ヲ實行シ其質物ヲ賣却シテ以テ質權者ノ債權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充當スル場合アルカ債務者ニ於テ第一質

物 權 續

權者ニ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テハ轉質權者ハ質物占有中收益ヲ爲シ又質物ヲ辨濟シタル債務者ノ請求アルマテ留置スルノ利益アルノミ債務者ヨリ質權ノ辨濟ヲ爲サス正當ノ理由アリテ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充テタルトキ第三百四十五條ノ如キハ其質物ハ第一質權者ノ所有ト爲ルヲ以テ轉質權者ハ其物件ヲ賣却シテ以テ自己ノ債權ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得ヘシ若シ第一債權者カ債權辨濟ノ爲メ質物ヲ賣却スルトキハ轉質權者ハ其質物ニ付キ原質權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシ第一質權者カ自己ノ債權者タル轉質權者ニ對シテ優先權ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘカラス若シ轉質權者ノ債權ノ期間カ第一質權者ノ質物ヲ賣却セントスル當時未タ到着セサルトキ之ヲ賣却セシムルトキハ其賣却ノ結果ニ因リ以後轉質ノ成立ナキニ至ルヲ以テ此場合ニ於テハ第三百四十七條ノ原則ニ因リ轉質權者モ亦質權者ナルヲ以テ其質物ヲ留置スルコトヲ得ヘシ而シテ第一質權者ハ轉質權者ニ對シテ優先權ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ此留置權ヲ以テ對抗スルコトヲ得ヘシ若シ他ニ優先權ヲ有スル者アリテ賣却ヲ求メタルトキハ轉質權者

ハ其賣却代價ニシテ自己ノ債權ニ充ツヘキ餘分ハ之ヲ供托セシムルコトヲ得

第二 質權者ハ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉質ト爲スコト

自己ノ責任ヲ以テ轉質ト爲ストハ質物ヲ轉質ト爲シタルニヨリ生スル所ノ損害ハ一切質權者ニ於テ其責ニ當ルノ謂ナリ蓋シ債務者ハ轉質ニ付テハ毫モ利益スル所ナク之ニ因テ利益スルモノハ質權者及ヒ轉質權者ノミナリ然ルニ轉質權者ハ原質權設定者ニ對シテハ毫モ關係ナキヲ以テ直接其責ニ任スヘキモノニアラス故ニ第一ノ質權者ニ於テ一切ノ責ニ當ラサル可カラス普通ノ場合ニ於テ不可抗力ニ依リ生シタル損失ニ付テハ何人ト雖モ其責ニ任スヘキモノニ非ス何トナレハ如斯場合ニ於テハ其物件カ所有者ノ手ニ在ルトキト雖モ其災害ヲ免ルコトヲ得サルモノナレハナリ然レモ轉質ノ場合ニ於テハ第一ノ質權者ハ不可抗力ニ因ル損失ニ付テモ亦其責ニ任スルモノトス斯ク轉質ニ付テ第一質權者ニ重大ノ責任ヲ負ハシムルハ轉質ノ性質ノ然ラシムルモノナリ上ニモ述ヘタル如ク質物ノ所有者即チ質權設定者ハ

物 權 編

轉質ニ付テ何等ノ利益ヲ得ルモノニ非ス轉質ヲ爲スハ一ニ質債權者ノ利益ノミニシテ而カモ其質權者ハ質物ヲ保存スルノ義務アルモノナリ然ルニ轉質トシテ他人ニ之ヲ交付スルニ至レハ其保存ハ或ハ不完全ノ點ナキヲ保セス其不完全ノ點ナキニ拘ラス自己ノ利益ノ爲メニ轉質ト爲スニ於テハ天災ヨリ生シタル損害ト雖モ尙ホ其責ニ任スヘキハ當然ナリ且夫レ此重劇ナル責任アルヲ以テ質權者ハ輕忽ニ質物ヲ轉質ト爲シ原設定者ニ損失ヲ被ムラシムルカ如キ弊害ヲ豫防スルコトヲ得ヘキナリ

然レモ其質物カ原質權者ノ手ニ在リトスルモ尙ホ天災ヲ免カレサル場合ニ於テモ質權者ニ損害ノ責アリトスルハ其責任ノ酷ニ過クルト云ハンヨリ寧ロ道理ニ反スルモノト云フヘシ故ニ法律ハ轉質ヲ爲サレハ生セサルヘキ不可抗力ニ因ル損失ニ付テノミ質權者ハ其責ニ任スヘキモノトセリ一般ニ爲サ、ル以前ニ在テ天災ニ因リ其質物滅失シタリトセンニ其天災ハ人カヲ以テ避クルコト得サルモノナルヲ以テ質權者ハ其責ニ任スルコトナシ然ラ

物 權 編

ハ設令轉質ト爲スモ其災害ハ原質權者ノ手ニ在ルモ受クヘキモノナル場合ニ於テハ災害ハ免ル、コト能ハサルヲ以テ轉質アリタリトテ原質權者カ其責ニ任スヘキノ謂ハレナシ例ヘハ原質權者ト轉質權者ト全町ニ住居シ質物カ轉質權者ノ家屋ニ存在スルトキ火災アリテ其全町燒失シ因テ質物モ亦燒失シタルトキハ兩者何レニ質物ヲ存在セシムルモ燒失ヲ免レサルヲ以テ原質權者ハ此不可抗力ニ因リテ生シタル損失ノ責ニ任スルコトナシ原質權者ハ甲町ニ住居シ轉質權者ハ乙町ニ住居シ偶々乙町火災ノ爲メニ燒失シ質物モ亦其災害ニ罹リタル場合ニ於テハ若シ其質物カ原質權者ノ手ニ在リタルナランニハ此災害ヲ免レタルヘシ然ルニ轉質ト爲シタルカ爲メニ災害ニ係リタルヲ以テ原質權者ハ其責ニ任シ質物ノ代價ヲ質權設定者ニ賠償セサル可カラス不可抗力ニ因レハ損失ハ豫メ期スヘキコトニ非ス前例ノ場合ニ於テ若シ火災カ原質權者ノ町ニ在リタランニハ質物ハ其災害ニ係リタルヘシ故ニ其天災ノ性質ニ因リテ責任ノ有無ヲ判斷スヘキモノニ非ス法律ハ轉質ヲ爲サレハ生セサル可キ不可抗力ニ因ル損失ト云ヘリ既ニ不可抗力ノ場合ナレハ何人ニ對シテ生スルヤ固ヨリ量リ知ルヘキニアラス故ニ其實際不可抗力ニ因レル損失ノ有無ニ因テ判斷スヘク原質權者ノ手ニ在リテ如斯不可抗力ノ場合ニ逢遇シタランニハ均シク損失アルヘカリシトテ其責任ヲ免ル、コトヲ得ス

物 權 編

此不可抗力ニ付テノ責任有無ノ區別ハ動産質及ヒ權利質ニ付テハ前ニ見ル如ク適用セラルヘキモ不動産質ニ至テハ殆ト其區別ヲ見ルコトナカルヘシ例ヘハ家屋ヲ質入ト爲シ質權者之ヲ轉質ト爲シタル場合ニ於テ其家屋ヲ占有セル轉質權者カ過失ニ因リテ之ヲ燒失セシメタルトキハ是レ不可抗力ニ出テタルニアラスシテ人爲ニ出テタルモノナレハ原質權者カ其責ニ任スヘキハ論ヲ俟タサルナリ假リニ風震延燒等ノ災害ヲ被ムリタリトセンニ決シテ原質權者カ占有スルト轉質權者カ占有スルトニ因テ差異アルモノニ非ス何レノ場合ニ於テモ到着スヘキ災害ナリ故ニ原質權者ハ其責ニ任スルコト勿ルヘシ要スルニ轉質アリタルカ爲メニ生シタル不可抗力ノ損失ト否ラサル場合ノ不可抗力ノ損失ヲ區別スルハ其質物カ輾轉シ得ヘキ場合ヲ想像シタ

物 權 編

○轉質ノ場合ニ於テハ其質物ハ原質權者ノ手ニ占有スルモノナルカ將タ轉質權者ノ手ニ占有スルモノナルカ法文ニ於テ之ヲ明記スルコトナシト雖モ質權ニ關スル一般ノ原則ニ依リ轉質權者ノ占有スルモノナルコト疑ヲ容レス何トナレハ轉質ト爲スモ亦一ノ質權ノ設定ナレハ第三百四十四條ニ從ヒ質物ヲ引渡スニ非サレハ轉質ノ効力ヲ生セサレハナリ然ラハ此場合ニ於テ原質權者ハ轉質ト爲スモ尙ホ其質物ヲ占有スルモノナルカ質物ヲ以テ轉質權者ノ手ニ渡ス以上ハ實際其質物ヲ掌握スルモノニアラサルコト勿論ナリ然レモ疑キニ見タル如ク質權者ハ他人ヲシテ質物ヲ占有セシムルコトヲ得サルニアラス其他人ヲシテ占有セシメタル場合ニ於テハ債權者ハ依然其質物ヲ占有スルモノナリ第三百四十五條ハ質權設定者ヲシテ質權者ニ代ハリテ質物ノ占有ヲ爲スコトヲ禁スルマテニシテ他人ヲシテ代ツテ占有セシムルコトヲ禁スルニ非ス然ラハ轉質權者ヲシテ占有セシムルモ其自己ノ占有者タルノ資格ヲ失フモノニアラス代人ヲシテ占有セシムルト全一ナリトス又動產質ニ付キ第三百三者ニ對スル公示ノ點ヨリ見ルモ轉質權者之ヲ占有スルヲ以テ第三者カ質入ノ擔保ナキ動產ナリト信スルノ恐レナカルヘシ況ンヤ不動産ノ如キハ登記ヲ以テ質權ヲ公示スルニ於テオヤ

物 權 編

不動産質ニ付テハ抵當ノ規定ヲ準用ス第三百七而シテ抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲スコトヲ得ルモノナリ第三百七其第二抵當ヲシテ有効ナラシムルニハ債權讓渡ノ規定ニ從ヒ債權者ニ之ヲ通知シ又ハ債權者之ヲ承諾スルニ非サレハ其債務者保證人抵當權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス此規定ハ不動産質ニモ之ヲ準用ス故ニ不動産質ニ付テ轉質ト爲スニハ抵當ニ於ケルカ如ク通知ヲ爲サ、レハ其効力ヲ生セサルモノナリ動產質及ヒ權利質ニ付テハ此規定ナシ蓋シ不動産質ニ付テハ抵當ニ於ケルト全一ニ其轉質アリタルコトヲ知ラシムルニアラサレハ債務者ハ原質權者ニ向テ辨濟其他ノ行爲ヲ爲ス可ヘキモ動產質權利質ニ付テハ債務者ノ保證人等ノ行フヘキ行爲ハ單純ニシテ辨濟ノ一事アルノミ而シテ其辨濟ヲ爲シタルトキハ質物ハ取戻スコトヲ得ヘク又質物ヲ取戻スニ非サレハ辨濟ヲ爲スコトナ

カルヘン故ニ轉質ヲ通知スル如キ鄭重ナル手續ヲ省略シタルモノナリ

第三百四十九條 質權設定者ハ設定行爲又ハ債務ノ辨濟期限前ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟

トシテ質物ノ所有權ヲ取得セシメ其他法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ約スルコトヲ得ス

物 權 編

本條ハ法律ニ定メタル方法ニヨラスシテ質權ヲ實行スルコトヲ禁シタルモノナリ而シテ其目的ハ專ラ流質ト稱スル契約ヲ禁スルニ在リ本條ハ民法修正案七百二十三條ノ内ニ於テ衆議院ニ於テ加ヘタル唯一ノ箇條ナリ該院カ如斯浩澁ナル法案ニ對シ間字句ノ修正ヲ加フルニ過キササルニ拘ラス添加シタルモノナレハ實際上ノ弊害ヲ豫防スルノ必要ヲ感シ此修正ヲ爲シタルモノナルヘシト雖モ起草員ノ如キハ之ニ對シ今日尙ホ此法條ノ採用スルニ足ラサル所以ヲ説キテ止マサルナリ余輩ハ其立法論ノ當否ヲ論究スルヲ要セス既ニ法律ノ正條ト爲リタル以上ハ本條ノ精神及ヒ適用ヲ論究スレハ以テ足レリトス然レトモ維新以來ノ法律ヲ見ルニ明治六年第十八號達第五條ニハ質入ノ結果相談ノ上其質入地所ヲ貸主ニ引渡スコトヲ認メ明治七年第七十六號布告ヲ以テ始メ

物 權 編

テ裁判上質物羅賣分配ノコトヲ載セ明治八年第四百四十八號第十二條ニモ其羅賣ノコトヲ記載シ爾後質物ハ公賣ニ附スルヲ以テ普通ノ手續ト爲スモ其質物ヲ以テ直ニ債權者ノ所有ト爲スコトヲ禁シタルノ法條ナシ舊法典第三百三十三條ニ至リ流質ヲ禁スルノ明文アリ衆議院ハ此舊法ノ正條ヲ維持シタルニ外ナラス而シテ其禁例ハ羅馬以來佛國ノ民法ニ傳ハリ而シテ舊法典ニ移リタルモノナリ世ノ進化スルニ從テ事物ニ變遷アリト雖モ弊害ハ古今一轍ニ存スルモノアリ若シ其弊害ノ今日ニ存スルアラハ假令舊時代ヨリ傳來スル法案モ之ヲ採リテ今日ニ存シ世ノ公安ヲ計ラサルヘカラス一概ニ古人ノ遵奉シタル規定ナリトテ之ヲ瞥視スヘキモノニ非サルナリ今日果シテ此規定ヲ設ケテ以テ弊害ヲ豫防スヘキ必要アリトセハ世ノ論者カ論スル如ク多少純然タル理論ニ適セサル所アルモ之ヲ存在セシメテ可ナリ

本條ハ法律ニ定メタル方法ニ因ラスシテ質物ヲ處分スルコトヲ禁シタルモノナルヲ以テ質物ヲ處分スル方法トハ如何ナルモノナルカヲ考究スルニ非サレハ質權者カ質物ニ因テ辨濟ヲ受クルニ付キ遵奉スヘキ法條ヲ知ルヲ得サルナ

物 權 編

リ故ニ先ツ質權者ハ質物ヲ實行スルニ付テハ如何ナル方法ニ依ルヘキモノナ
 ルカヲ見サルヘカラス
 質權ヲ實行スルニハ質物ヲ賣却シ其代價ニヨリテ辨濟ヲ受クルヲ以テ原則ト
 ス舊法^{第十一條}ハ動産質ノ付キタル債務カ滿期トナリタルトキ債務者履行ヲ爲
 サ、ルトキハ質權者又ハ其他ノ債權者ヨリ質物ノ競賣ヲ求ムルコトヲ得テ質
 權者ハ他ノ債權者ニ先チテ元利費用及ヒ保存費ノ辨償損害賠償ノ辨濟ヲ受ク
 ルモノト明記セリ新法ニ於テハ其之ヲ明記シタル條文ナシト雖モ第三百四十
 二條ニ掲ケタル質權ノ原則ト第三百六十三條第三百六十七條及ヒ流質ヲ禁シ
 タル第三百四十九條等ニ依リテ自カラ明白ナリ修正案ニ於テハ質物ヲ競賣ニ
 付セスシテ所謂流質ナルモノヲ許スノ趣旨ナルヲ以テ舊法ニ於ケル如ク競賣
 ニ付スルコトヲ明記スルコトヲ得サリシモノナランモ第三百四十九條ヲ加ヘ
 流質ヲ禁シ質物ノ實行ハ法律ニ規定シタル方法ニ依ルヘキモノト定メタル以
 上ハ舊法ニ於ケル如ク競賣ニ付スルノ明文ハ必要ナリトス唯第三百四十二條
 ノ原則ノミニテハ未タ質物ヲ公賣ニ付スルヲ以テ原則ナリト斷言スルコトヲ

物 權 編

得ス何トナレハ該條ハ擔保トシテ受取リタル物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自
 己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルノ權利アリト云フマテニシテ其質物ヲ以テ債權ニ充
 當シ義務ヲ免レシムルモ亦タ即チ債權ノ辨濟ヲ受クルモノナレハナリ然レモ
 第三百四十九條ニ於テ流質ヲ禁シ其他ノ法條ニ於テ特ニ質物ヲ以テ債權ニ充
 當スルコトヲ規定アルヨリシテ推論シ初テ質物ハ公賣ニ付スルコトヲ以テ原
 則トスルコトヲ知ルヲ得ヘキナリ
 質物ハ公賣ニ附スルヲ以テ原則トナスト雖モ動産質ニ付テハ質物ヲ公賣ニ附
 シテ其代價ヲ以テ辨濟ニ充ツルコトヲ得サル場合アリ此場合ニ限り質物ヲ以
 テ直ニ辨濟ニ充ツルコトヲ許セリ^{第三百五十四條}又權利質ニ付テハ質物タル債權ヲ
 直接ニ取立ツルコトヲ得又質物カ金錢以外ノモノナルトキハ質權者ハ辨濟ト
 シテ受ケタルモノ、上ニ質權ヲ有シ其他民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ因リ
 質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得^{第三百六十七條}
 以上ニ述ヘタル方法以外ニ質物ヲ處分スルコトハ第三百四十九條ノ禁スル所
 ナリ之ヲ要言スレハ質物ハ之ヲ公賣ニ附スルカ又ハ法律ニ定メタル方法ニ因

物 權 編

ルノ外處分スルコトヲ得サルモノトス然レモ民法以外ノ法律ヲ以テ許シタル方法アルトキハ之ニ因リテ以テ質權ヲ實行スルハ決シテ妨ケナキナリ斯ク法律ニ於テ質權實行方法ヲ制限シ當事者ノ行爲ニ放任セサルハ一ニ質權設定者ヲ保護スルノ意ニ出テタリ蓋シ質權ヲ設定スル者ニ在テハ常ニ金錢ノ必要ニ迫マラレ後日ノ不幸ヲ慮ハカルノ邊ナク債權者ノ望ム所ニ從テ契約ヲ爲スモノナレハ或ハ貪慾ナル債權者ノ爲メニ債權不相當ナル質物ヲ直ニ債權者ニ移付スルカ如キ情慾アルヲ以テ之ヲ防カンカ爲メ其處分方法ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ其方法ニ依ラスシテ債權者ヲシテ名ヲ質權ニ藉リテ利息制限法以外ノ利息ヲ利スルカ如キ弊ナカラシメンカ爲メナリ

第三百四十九條ハ法律ニ定メアル方法ニヨラスシテ質物ヲ處分セシムルノ私約ヲ禁スルヲ以テ本則トス而シテ其例トシテ左ノ禁令ヲ掲ケタリ

質物設定者ハ設定行爲又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質權ノ所有權ヲ取得セシムルコトヲ約スルコトヲ得ス拾百三條

質權契約ヲ爲スニ當リ若シ期限ニ至リ債務者ヨリ辨濟ヲ爲サハルトキハ其質物ヲ以テ直ニ質權者ノ所有ト爲スヘシト約スルカ如キハ即チ斯法ノ禁スル所

物 權 編

ナリ契約ハ自由ナルヲ以テ質權設定者ヲシテ充分ナル思慮ヲ費シ債權ト物件ノ價額トヲ比較シ而シテ此流質ヲ契約シタルモノトスレハ設定者ハ勿論他ノ債權者ニ對シテモ損失アルコトナシ何トナレハ其物件ヲ競賣ニ付シタリトテ債權額以外ノ代價ヲ得テ債務者若クハ他ノ債權者カ之ヲ利スルノ餘地ナケレハナリ然レモ法律ハ質權ヲ設定スルノ當時設定者ハ思慮ノ自由ヲ失スルモノ多シト推定セリ果シテ其推定當ヲ得タリトセハ百圓ノ債權ニ對シテ二百圓ノ物件ヲ質物ト爲シ直ニ其物ヲ債權者ニ移付シ若シ競賣ニ付シタランニハ百圓ハ債務者若クハ他ノ債權者ノ利スル所トナランニ此私約アリタル爲メ質權者ノミヲ利スルノ結果ヲ生スルニ至ルヲ以テ斯ク約束ノ自由ヲ制限シタルモノナリ

法律ヲ以テ質物處分ノ方法ヲ定ムルハ即チ債務者ノ爲メニ設ケタル一ノ擔保ナリ而シテ債務者ヲシテ其擔保ヲ拋棄スルコトヲ許サス然ラハ其擔保ノ拋棄ハ獨リ設定行爲ノ當時ニ在ルノミナラス債務ノ辨濟期マテハ私約ヲ以テ之ヲ

拋棄スルコトアルヘシ而シテ其結果ハ設定當時ニ於ケルト全一ナルヲ以テ法律ハ又之ヲ禁セサル可カラス故ニ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ辨濟トシテ質權者ニ質物ノ所有權ヲ取得セシムルノ私約ヲモ之ヲ禁シタリ

物 權 編

法律ハ質權設定行爲ヨリ辨濟期前マテニ契約ヲ以テ流質ヲ約スルコトヲ禁シタリ然ラハ辨濟期后ニ至レハ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ取得セシムルコトヲ約スルコトヲ得ルモノナリ設定行爲ノ當時ニ在テハ設定者ハ金錢ノ必要ニ迫マラレ心思ノ自由ヲ失フモノトシ尙ホ債權者ノ權力ニ制セラル、ノ恐受取リタル上ニテモ自由ヲ失フモノトシ尙ホ債權者ノ權力ニ制セラル、ノ恐レアリトシ流質ノ契約ヲ禁スルトセハ辨濟期后ト雖モ其弊害ヲ免レサルカ如シ然レモ既ニ辨濟期ニ到着シタル上ハ債務者ハ何レノ方法ニ因テモ辨濟ヲ爲サ、ル可カラサル位置ニ在リテ債權者ノ意思ニ從フコトナシ自ラ質權實行ノ方法ヲ取ラスシテ質物ヲ其儘ニ爲シ置カハ債權者ハ之ヲ賣却スルナラン其賣却ト所有權ヲ移付スルトノ利害ハ十分ニ判別スルコトヲ得ヘシ其判別ヲ爲スニ債權者ノ意思ヲ窺フノ要ナシ斯ク債權者ニ對スル關係カ其威力ヲ受ケ心思

物 權 編

ノ自由ヲ妨クルカ如キコトアラサルヲ以テ假令流質ノ契約ヲ爲スモ其自由ヲ失シタルニ出タルモノトノ推測ヲ生スルコトナシ故ニ辨濟期后ノ契約ヲ以テ約シタル流質ハ之ヲ禁セサルナリ
辨濟期后ニ契約ヲ以テ流質ヲ約シタルトキハ其契約ハ有效ナリトスル上ハ質權ノ實行ハ契約ニ基キ其質物ノ所有權ヲ質權者ニ移シ以テ之ヲ辨濟ニ充ツルコトヲ得ルモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ第三百四十九條ニ其他法律ニ定メタル方法ニ因ラスシテ質物ヲ處分スルコトヲ約スルコトヲ得スト掲ケタルモノニ抵觸スルモノ、如シ何トナレハ設定者ト質權者ノ契約ニ基キ質物ヲ以テ直ニ辨濟ニ充當シ其所有權ヲ質權者ニ取得セシムルカ如キ法律ノ定メタル方法チケレハナリ動産質ニ關シ第三百五十四條ノ規定アリト雖モ這ハ契約ニ從ヒ質物ヲ以テ直ニ辨濟ニ充ツル場合ニアラスシテ裁判所ノ關係ヲ以テ鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直ニ辨濟ニ充ツルモノナリ況ンヤ不動産質ニハ到底之ヲ適用スルヲ得ス然ラハ第三百四十九條ノ前段ハ例示ニアラスシテ特別ニ禁令ヲ掲ケタルモノト爲サンカ其行文上其他法律ニ定メタル方法云々

トアツテ例示ニアラストハ之ヲ解スルヲ得ス故ニ本條文ハ穩當ヲ失スルノ嫌ナキニアラス然レモ本條ノ例示ニ依テ辨濟期後ノ流質契約ハ有效ニシテ其契約ニ因テ質物ヲ處分スルコトヲ得ルモノナリト解釋セサルヲ得ス

物 權 編

舊法ニハ流質ヲ禁止シ其禁止ヲ犯ス爲メ債務者カ債權者ニ爲シタル買戻付ノ賣買其他ノ合意ハ之ヲ無効ト宣告スルコトヲ得ルモノトセリ第百三十三條例ヘハ動産質ヲ設定シ千圓ヲ借ルノ意思ナルモ其利息カ制限法ニ觸ル、ヲ以テ表面之ヲ千五百圓ニ賣渡シ其返濟期限ニ相當スル買戻期間ヲ定メ若シ滿期ニ至リ千圓ヲ返サ、ルトキハ所有權ハ表面買主ニシテ其實質權者ニ販スルコトヲ約スルコトアリ是等ノ行爲ハ質物ノ所有權ヲ直ニ質權者ニ取得セシムルコトヲ禁シタル法令ヲ巧ミニ犯スモノナリ

此契約ハ表面上第五百七十九條ニ依リ有效ナル買戻付アル賣買ナリ然レモ其契約ヲ爲スノ當時ハ明カニ流質ヲ契約スルト全一ニ表面賣主タル設定者ハ充分ナル自由ヲ有シタルモノニ非サルヲ以テ第三百四十九條ノ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ約スルヲ得ストノ規定ニ依リ無

物 權 編

效ナラシムヘシ該條ノ前段流質ヲ許シタル規定ハ契約ノ自由ヲ制限シタル特例ナルヲ以テ之ヲ擴張シテ明文以外ニ適用スルヲ得スト雖モ其后段ハ汎漠ニシテ凡テ質物ヲ法律ノ規定ニ依ラスシテ質權者ノ所有ト爲ス場合ニ適用スルコトヲ得ヘキナリ本例ノ場合ニ於テハ其名義ハ賣却物ニシテ質物ニアラスト雖モ當事者ノ意思タルヤ賣買ノ名ヲ以テ質權ノ設定ヲ隱蔽シタルモノナレハ表面ノ名稱ニ拘泥スルコトナク其行爲ノ實體ニ付テ制裁ヲ與フヘク此買戻付ノ賣買カ果シテ質權ノ假面ナリトノ證據アル以上ハ即チ法律ノ規定以外ノ方法ヲ以テ質物ヲ處分スルコトヲ約シタルモノニ外ナラサルヲ以テ之ヲ禁止セサル可カラス之ニ依テ見ルモ本條后段ノ趣旨ハ汎ク前段ハ其例ヲ掲ケタルモノト云ハサル可カラス

質權者ハ其質物ヲ以テ之ヲ第三者ニ賣却スルコトヲ許スモノナルカ質權者ヲシテ質物ヲ第三者ニ賣却シ其代價ニ付テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨ヲ契約スルコトヲ得ルトスルモ其賣買カ相當ノ代價ヲ得ルモノトスレハ此契約ヲシテ有效ナラシムルモ決シテ妨ケナキモノ、如シ然レモ是亦法律ニ定メタル方

物 權 編

法ニヨリテ質物ヲ處分スルモノニアラス法律ハ或ハ二三ノ場合ニ於テ特ニ明文テ以テ定メタルノ外凡テ質物ハ公賣ニ付スヘキモノトナセリ然ラハ本例ノ契約ハ法律ノ定メタル方法ニ依ラサルモノト云フ可キナリ然レモ此契約ハ債務ノ辨濟期后ニ取結ヒタルモノナルトキハ有效ナリト云ハサル可カラス何トナレハ債務辨濟后ニ流質ヲ約シ質物ヲ以テ直ニ質權者ノ所有ト爲ス者ニ於テスラ之ヲ有效ナリトセリ況ンヤ其質物ヲ合意上第三者ニ賣却スルニ於テハ常ニ相當代價ヲ得ルモノト推定セサル可カラス斯ク推定ヲ下ストキハ法律カ貪慾ナル債權者ノ爲メニ設定者カ思慮ノ自由ヲ失シタリト云フ點ニ於テ流質ニ於ケルヨリモ其弊害尠ナケレハナリ

第二百五十條 第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス

質權者其質物ヲ留置スルノ權アルコトハ余輩ノ既ニ見タル所ナリ故ニ本條ハ留置權ノ規定ヲ準用シ又質物ノ代表物ニ付テ尙ホ質權ノ效力ヲ有セシムルハ先取特權ニ於ケルト同一ナルヘキヲ以テ本條ハ先取特權ニ關スル或ル條項ヲ準用スルモノナリ

物 權 編

留置權ニ關スル法條ニシテ質權ニ適用スヘキモノハ左ノ如シ

第二百九十六條 舊法條 第三百五條 本條ハ留置權ノ不可分ナルコトヲ規定シタルモノナリ留置權ニシテ不可分ナル上ハ質權ニ可分ナルノ理由ナシ質權ヲ

以テ擔保シタル債權ノ一部ヲ辨濟シタリトテ質物ノ一部ヲ返還セシムルコトヲ得ルカ或ル場合ニ於テハ實際上返還スルコトヲ得ヘキ場合ナキニシモアラサルヘシト雖モ質物カ一個ノ物件ナルトキハ一部ノ辨濟アリシトテ質物ヲ返却スルコトヲ得サルヘシ尙ホ留置物ノ一部ヲ返却スルコトヲ得サルト全一ナリ故ニ債權全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ノ全部ニ付キ質權ヲ行フコトヲ得ヘキナリ

質物ノ一部カ天災若クハ其他ノ原因ニ因テ減少シタリトセンニ其減少ノ爲メニ質權ノ一部ヲ失フニアラス質權ハ其殘部ニ付テ存在シ債權ノ全部ハ其存在セル部分ヲ以テ擔保セラル、モノナリ

然レモ此不可分ハ法律カ當事者ノ意思ヲ推測シタルモノナリ若シ質物カ數個ノ物件ナル場合ニ於テハ債務ノ幾分ヲ辨濟シタルトキハ其質物ノ幾分ヲ

減少スルコトヲ得ヘシ故ニ性質上不可分ノモノニ非ス只當事者ノ意思ハ債權ノ一部分ヲ返却スレハ從テ質物ヲ減スルモノニ非スト爲シタリト推定セシモノナリ

然ルニ現實當事者ノ意思カ可分ナリトスルコトヲ表明シアルニ於テハ固ト契約ハ自由ナルヲ以テ立法者ノ推測ハ之ニ讓ラサルヘカラス故ニ明示ノ契約アルトキハ質權ハ可分ノモノナリトスヘキハ勿論ナリ

第二百九十七條 舊法第百八條第九十條第百十六條 本條第一項ハ留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收受シ其果實ニ付キ優先權ヲ有スルコトヲ定メタルモノナリ

質權ニ付テモ質物ヲ留置スルノ權アル以上ハ 第三百四十七條 留置權ニ於ケル如ク其質物ヨリ果實ヲ收受シ其果實ニ付テハ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ得セシメサル可カラス然レハ此點ニ於テ留置權者ト質權者トニ付テ差異アリ留置權者ニ在テハ何人ニ對シテモ果實ニ付キ優先權ヲ有スルト雖モ質權者ニ在

テハ留置權ハ自己ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルヲ得サルヲ以テ 第三百四十七條 其果實ニ付キ他ノ先取特權ニ因リ優先權ヲ有スル者ニ對シテ自ラ

物 權 編

優先權アリト主張スルコトヲ得ス但シ既ニ留置ノ間質權者カ收受シタル果實ニ付テハ他ノ優先權ヲ有スル債權者ノ爲メニ害セラル、コトナシ配當ノ當時質物ヨリ生シタル果實アツテ其果實ニ付テ辨濟ヲ受ケントスルニ當テハ自己ニ對シテ優先權ヲ有スル若ニ向テ優先權アリトスルコトヲ得サルナリ

本條第二項ハ留置權者ノ收受シタル果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スヘキモノトス質權ニ在テモ亦タ然リ固ト質權者カ質物ヲ占有スルハ債務者ヨリ辨濟ヲ爲サ、ルトキ其質物ヲ以テ辨濟ニ充當スル爲メナレハ債務ヲ辨濟スヘキ時期ニ到着シタルトキハ其質物ニ付キ利益ヲ得ルハ可ナリト雖モ未タ債務辨濟期ノ到着セサル間ニ在テ質物ヨリ生スル果實ヲ利得スルカ如キコトアルヘカラサルカ如シ然ルニ留置權ニ於ケル如ク其果實ヲ利得スルコトヲ得セシムルハ之ヲ以テ債權ノ元利ニ當テルモノトスルヲ以テナリ若シ然ラストセンカ果實ヲ收受セシムルハ不當ニ利得セシムルモノト云ハサル可カラス此果實ヲ以テ債權ニ充當ス

ルノ方法ハ法定ノ利息ヲ生スル場合ニ於テハ難事ナシト雖モ天然ノ果實ヲ生スル場合ニ於テハ其算定ハ頗ル煩雜ナル可シ何トナレハ先ツ其天然ノ果實ヲ評價スルニ非サレハ其利息ニ充當シ尙ホ餘剩アリタルヤ否ヤヲ知ルコトヲ得サレハナリ

物 權 編

不動産質ニ付テハ第二百九十七條ノ第一項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ルノミナラス第三百五十六條ニ於テモ質物タル不動産ニ付キ收益スルコトヲ許シタリ又其收益シタル果實ニ付テ優先權アルコトモ全一ナリトス然ラハ第二百九十七條第一項ヲ準用スルハ重複スルモノ、如シト雖モ決シテ然ラス若シ第二百九十七條ノ留置權ノ規定ヲ準用スルニ止ムルトキハ第三百四十七條ニ從ヒ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得サルヘシ然ルニ不動産質ニ付テハ其質權ノ性質トシテ優先權ヲ有シ留置權ノ性質トシテ之ヲ有スルニ非ス故ニ自己ニ對シ優先權アル債權者ニ向テモ其收益權ヲ以テ對抗スルコトヲ得ヘキナリ

然レモ第二百九十七條第二項ノ留置權ノ規定ハ之ヲ不動産質ニ適用スルコトヲ得サルモノトス第三百五十七條ニ於テ不動産質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス蓋シ其利息ハ當然不動産ノ收益ト相殺シタルモノト見做セハナリ然ラハ留置權ニ於ケルカ如ク先ツ果實ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルカ如キ計算ヲ爲スコトヲ許サ、ルナリ

物 權 編

第二百九十八條舊法第三百六十條 本條第一項ハ留置權者ニ對シ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スルノ義務ヲ負擔セシメタルモノナリ留置權者ハ債務ノ辨濟ヲ受ケタルトキハ其留置物件ヲ債務者ニ返還スヘキハ當然ノ義務ナリ然ラハ留置物ニ付キ確定物ニ對スル債務者タリ故ニ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ之ヲ保存スルノ責アルハ當然ナリ若シ其保存ノ義務ヲ完全ニ爲サ、ルトキハ留置權者ハ其賠償ノ責ニ當ラサル可カラス全一ノ理由ニ因リ質權者モ亦債務辨濟ノ上ハ其質物ヲ返還スヘキ確定物ノ債務者ナリ故ニ等シク善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ質物ヲ占有スルノ責アリトス

本條第二項ハ留置權者ニ禁スルニ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用又ハ

物 權 編

賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ禁シタルモノナリ債權者カ留置權ヲ有スルハ其留置物ヲ以テ債權ノ擔保ト爲スニ外ナラス又債務者カ物件ヲ以テ質入ト爲スモ債務ヲ辨濟スルコトアラサル場合ニ其物件ノ果實若クハ價額ヲ以テ債務ニ充當セントスルモノナルニ外ナラス決シテ質物ヲ以テ質權者ノ使用ニ供シタルモノニ非ス然ルニ質權者カ質物ヲ占有スルノ結果之ヲ自ラ使用シ又ハ之ヲ賃貸スルニ至テハ必スヤ破壞毀損ノ危險ヲ免レスヨシヤ之カ爲メニ質物減盡スルニ至ラサルモ多少其價額ノ減少ヲ見ルニ至ルヘシ然ルキハ債務者ハ之カ爲メ意外ノ損失ヲ蒙ルコトナキヲ保シ難シ故ニ法律ハ質物ノ使用又ハ賃貸ヲ禁シタリ然レモ絕對ニ之ヲ禁スルニアラス若シ設定者ニ於テ自ラ使用若クハ賃貸ヲ許諾シタルトキハ即チ自己ニ不利益ナルコトヲ豫知シナカラ隨意ニ之ヲ許シタルモノナルヲ以テ法律ハ其自由ナル意思ヲ尊敬シ許諾アルニモ拘ハラス尙ホ之ヲ禁止スルカ如キコトヲ爲サ、ルナリ

留置權者ニ付テハ其留置物ヲ以テ擔保ニ供スルコトヲ禁スルト雖モ質權者

物 權 編

ニ付テハ第三百四十八條ニ於テ見タル如ク自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ轉賣ト爲スコトヲ得故ニ此留置權ニ關スル規定ハ之ヲ質權ニ適用スルコトヲ得ス此二者ノ間一ハ擔保ニ供スルコトヲ得一ハ之ヲ許サ、ル所以ハ質權ハ契約ニ基因スルモノナルヲ以テ多少ノ期間アルモノナリ故ニ之ヲ轉賣ト爲スモ其效用ヲ見ルコトアルヘシト雖モ留置權ニ在テハ其物ニ關シテ債權ヲ生シ辨濟ヲ受クルマテ其物ヲ留置スルモノニシテ今之ヲ留置シ即時債務者ハ辨濟ヲ爲スヤモ知ル可ラス又速カニ辨濟セシムルヲ以テ留置權ノ目的ナリトス故ニ之ヲ他ニ擔保ト爲スカ如キコトアルヲ得ヘカラサルナリ

本條第二項但書ハ留置物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スコトハ債務者ノ承諾ヲ要セサルモノトス質物ニ付テモ亦然リ一般ニハ債務者ノ許諾ナクシテ使用スルヲ許サスト雖モ物件ノ往質ニ因テ其保存ノ爲メ之ヲ占有スル質權者若クハ其代理人ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ必要ナリトスルコトアリ例ヘハ乘馬獵犬ノ如シ時々之ヲ使用スルニ非ラサレハ却テ其保存ヲ全フスルコト能ハス此ノ如キ質物ニ付テハ使用ヲ禁スルノ限リニ在ス

物 權 編

債權者カ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠リ保存ニ必要ナル場合ニ非スシテ債務者ノ承諾ナク質物ヲ使用シタルトキハ如何ナル制裁アルカ第二百九十八條第三項ハ留置權者ニ於テ是等ノ非行アルトキハ債務者ハ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス質權ニ付テモ亦然リ質權者此法律ノ規定ニ背反シテ注意ヲ怠リ又ハ使用若クハ質貸ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ以テ質權ヲ取消スコトヲ得ルトハ爲サスト雖モ其質權ノ消滅ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトス蓋シ是等規定ニ違背スルコトアルモ或ハ債務者ニ不利益ヲ與フルニ至ラサル場合アリ而シテ其不利益ヲ來スト否トハ一ニ事實裁判所ノ判定ニ任シ法律ハ一概ニ違反アレハ必ス不利益アリトハ爲サス場合ニ依リ設定者ニ損害ナシト認定シタルトキハ質權ノ消滅ヲ言渡サ、ルコトヲ得セシムルモノナリ而シテ若シ損害アルトキハ質權ノ言渡ヲ爲スノミナラス質權者ニ對シテ賠償ヲ言渡スコトアルヘシ

不動産質ニ付テハ第二百八十九條ノ規定ヲ全然準用スルコトヲ得サルモノアリ其第一項ノ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲ス責任ノ如キハ之ヲ適用スルコトヲ得ルモ使用收益ニ至テハ第三百五十六條ヲ以テ當然不動産質ノ本然トシテ之ヲ許スモノナレハ敢テ設定者ノ承諾ヲ要スルモノニ非ルナリ

物 權 編

第二百九十九條舊法第三百九十九條 本條第一項ハ留置權者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出シタルキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルヲ得ルモノトス第九百九十六條 質權ニ付テモ亦質權者カ質物ヲ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ占有スルカ爲メ必要費ヲ支出シタルキハ其物件ヲシテ存在セシメ相當ノ價額ヲ維持シタルハ一ニ此保存ニ在テ債務者カ債務ヲ辨濟シ質物ノ返還ヲ受クルニモセヨ又之ヲ賣却シテ以テ債權ノ辨濟ニ充ツルニモセヨ何レニテモ利益ヲ得ルモノナレハ其費用ハ質權設定者ヨリ之ヲ其保存行爲ヲ爲シタル質權者ニ償還セサル可カラス而シテ質權者カ其償還ヲ得ルノ債權ハ尙ホ其保存ナル質物ノ上ニ質權ヲ以テ擔保セラル、トハ第三百四十六條ニ於テ見タル所ナリ 本條第二項ハ留置權者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出シタルトキハ其價額ノ增加カ現存スル場合ニ限り所有者ノ撰擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得ルモノトス第九百九十六條 有益費ニ付テハ保存費ニ於ケルカ

物 權 編

如ク此費用ノアリタル爲メ物件ヲ維持シタルト云フニアラスシテ此費用アリタルカ爲メ物件ニ改良アリト云フニ過キス故ニ此費用ノ支出アリトテ必スシモ其物件所有者カ利益ヲ得ルモノニ非ス依テ其費用ノ償還ヲ受クルハ有益費ノ爲メ物件ノ價額カ増加シ其價額カ現存スル場合ニ限ルモノトス留置權ニ付テハ此ノ如ク質權ニ付テモ亦同一ナリ質權者其質物ニ改良ヲ加フル爲メ費用ヲ支出シタルコトアルモ若シ質物ハ其改良ノ爲メ價額ヲ増加スルコトナク依然トシテ原時ノ價額ヨリ騰ラサル場合ニ於テハ設定者カ辨濟ノ後質物ヲ取戻シタルトキモ亦其質物ヲ以テ辨濟ニ充テルトキモ一モ利益スル所ナシ故ニ其費用ヲ償還スルノ責ヲ負擔スルコトナシトス

質權者カ質物ニ付キ有益費ヲ出シ増價カ現存スル場合ニ於テ設定者ヨリ質權者ニ償還スヘキモノハ其有益費トシテ支出シタル金額ナルカ將タ現ニ物件ノ上ニ存スル價額ナルカ第二百九十九條第二項ハ其費シタル金額及ヒ増價額ノ内所有者ノ選擇ニ從ヒ之ヲ留置權ニ償還セシムルコトヲ得ルモノトス然ラハ質權役定者ハ質權者カ支出シタル有益費ト物件ニ存スル増價額ト

物 權 編

何レニテモ己レノ選擇ニ依テ質權者ニ償還スレハ以テ足レリトス有益費ヲ支出スルモ増價額ナキトキハ設定者カ利益スル所ナキヲ以テ質權者ニ償還スルニ及サルモノトスルハ設定者ニ於テ毫モ利益スル所ナケレハナリ然ラハ増價額アリタル場合ト雖モ設定者ヲシテ自己ノ利益スル所ヨリ以上ノモノヲ償還シ以テ不利益ヲ受クルコトアラシム可カラス然ルニ有益費ト増價額トハ決シテ全一ナルモノニアラスシテ設定者ニ於テ其何レヲ償還スルヲ以テ利益ナリト豫定スルコトヲ得ス例ヘハ質權者ニ於テ千圓ノ有益費ヲ出シテ改良ヲ爲シ而シテ五百圓ノ増價額ヲ生シタルトキハ設定者ノ利益スルモノハ五百圓ナルヲ以テ千圓ノ支出費用ヲ辨償スルノ理ナキハ勿論ナリ之ニ反シテ五百圓ノ費用ヲ出シ千圓ノ増價額アリタルトキハ設定者ハ千圓ノ利益ヲ得ルモノナルヲ以テ千圓ヲ償還セシムルモ尙ホ可ナリ然レモ此千圓ヲ償還セシムルノ必要ヲ見ス何トナレハ質權者ハ五百圓ノミヲ支出シタルモノナレハ其支出額ノ償還ヲ受クレハ以テ己レニ損スル所ナケレハナリ斯ク有益費ト増價額ノ間ニ差異アリテ設定者ノ利害ノ干係大ナルヲ以テ此二者

物 權 編

ノ内何レヲ償還ス可シト定メスシテ設定者ノ遷擇ニ任シタリ故ニ設定者ハ
 増價額ト有益費トヲ比較シ増價額カ費用ヨリ大ナルトキハ費用ヲ償還シ増
 價額カ小ナルトキハ其増額ヲ償還スルコトヲ得ルモノトセリ
 質權者カ有益費ヲ出シタルニ因リ其費シタル金額若クハ増價額ヲ償還セシ
 ムル債權ハ必要費ヲ償還セシムルノ債權トハ其擔保ノ點ニ於テ全一ナラス
 必要費ノ償還ニ付テハ前ニ述ヘタル如ク第三百四十六條ニ其質物ノ上ニ質
 權ヲ以テ擔保セラレト雖モ有益費ヲ出シタル場合ニ於ケル債權ニ付テハ
 同條ニ質權ハ質物保存ノ費用ヲ擔保スルトアルノミナルヲ以テ質權ノ擔保
 ヲ受クルモノニアラス蓋シ必要費ハ質物ノ存在ニ起因シ質物ノ占有ト相離
 ル可カラサルモノナレハ其償還ヲ受クル權利ハ質權ヲ以テ擔保シタル債權
 ト同一體ノ權利ナリト雖モ改良ノ如キ行爲ニ至テハ質權者タル者ノ必シモ
 爲スヘキ行爲ニ非スシテ此行爲ノ有益ハ質物ノ存否ニ關係ナク全ク質ト權
 ハ特別ノ行爲ナルヲ以テ之ニ付テ債權ヲ有スルモ別段ノ契約ヲ以テ質權中
 ニ包含セシムルハ格別其別段ノ契約ナキトキハ質權ヲ以テ擔保スヘキモノ

ニ非サルナリ

物 權 編

本條第二項但書ハ留置權者カ有益費ヲ出シタルトキ其費シタル金額又ハ増
 價額ヲ償還セシムル場合ニ於テハ裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ
 期限ヲ許與スルコトヲ得ルモノトス第九百六十九條故ニ質權者ヨリ設定者ニ向テ有
 益費ノ償還ヲ請求スルキハ設定者ハ裁判所ニ對シ相當ノ期間ヲ請求シ裁判
 所ハ其判定ニ依テ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得ルモノナリ是レ設定者ノ
 利益ヲ慮ハカリタルモノナリ質權ヲ實行シ其質物ヲ賣却スル場合ニ於テハ
 増價額タケノ代價ヲ得ルヲ以テ之カ償還ヲ爲スモ設定者ニ於テ甚シキ困難
 ナカルヘキモ若シ債務ヲ辨濟シ質物ヲ引取ル場合ニ於テ質權者カ巨大ノ費
 用ヲ費シ從テ少カラサル増價額ヲ生シ直ニ之ヲ償還スヘキモノトスルニ於
 テハ設定者ハ之カ爲メ自己ノ意思ヨリ出テサル事柄ヨリシテ大ナル負擔ヲ
 増加シ不幸ナル位地ニ陷ルコトアル可シ故ニ事情ニ依リ相當ノ期間ヲ許與
 シ以テ設定者ノ利益ヲ保護シタルモノナリ此相當期間ノ許與ハ有益費ノ場
 合ト必要費ノ場合ト同一ナラス蓋シ前ニ述タヘルカ如ク必要費ニ付テハ主

編 權 物

タル債權ト同一ニシテ債務者ハ質權ヲ實行シ若クハ債務ヲ辨濟スルトキ固ヨリ濟償ス可キモノナレハ殊ニ設定者ノ利益ヲ計リテ債權者ヲシテ償還ヲ得ルノ期ヲ遅延セシムルカ如キハ設定者ヲ保護スルノ程度ヲ超過スルモノナリ之ニ反シテ有益費ニ付テハ出スニ及ハサルモノヲ質權者ニ於テ支出シタルニ因リ意外ニ負擔ヲ重クシタルモノナルヲ以テ質權者ノ償還ヲ受クル權利ノ實行ニ多少ノ遅延アルモ決シテ設定者ニ偏スルノ嫌ナシ

不動産質ニ付テハ使用收益ヲ爲シ且ツ管理ノ費用其他不動産上ノ負擔スルモノハ質權者ナリトス第三百五十六條然レモ必要費若クハ有益費ヲ支出シタル場合ニ於テハ占有者及ヒ留置權者カ是等ノ費用ヲ支出シタルト全一ニ其償還ヲ求ムルノ權アルヘシ故ニ本條ノ留置ニ關スル規定ハ亦之ヲ質權中ノ不動産質ニ準用スルコトヲ得ヘキナリ斯ク質權ノ總則中ニ在ル規定ニシテ不動産質ニ準用ス可カラサルモノト否ラサルモノトアルハ固ト留置權ノ規定ヲ準用スルモノナルヲ以テ或ルモノニ付テ適用スルコトヲ得サルモノヲ生スルコトハ止ムヲ得サル結果ナリトス

編 權 物

第三百條舊法第三百十條本條ハ留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時効ノ進行ヲ妨ケサルモノトス此規定ハ之ヲ債權ヲ準用スルヲ以テ質權ノ行使ハ債權ノ消滅時効ノ進行ヲ妨ケサルモノナリ質權ノ行使ハ之ヲ質權ノ實行ト混同スルコト勿カルヘシ質物ヲ以テ公賣ニ附シ又ハ之ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルカ如キ行爲ハ即チ實行ニシテ是等ノ行爲アリタルトキハ時効ヲ中斷シ時効ノ進行ヲ妨止スルコトハ第四百四十七條ニ依リテモ明白ナリ質權ノ行使トハ質權ノ存在シ質權者ニ於テ質物ヲ占有シアルトキヲ謂フモノナリ何トナレハ其質物ヲ占有シアルトキハ質物ハ擔保ニ供セラレ質權者ハ果實ヲ收取スル等ノ行爲ヲナシ質權其物ハ利用セラレツ、アルヲ以テ即チ行使中ナリトス斯ク質物カ質權者ノ手ニ存スルト雖モ其質物ヲ以テ擔保スル債權ニシテ時効ニ要スル條件ヲ具備スルニ於テハ消滅スルニ妨ケナシトス蓋シ債權ノ行使ト質權ノ行使ト相離レテ行ハレルコトヲ得ルモノナレハナリ若シ此者相離ルヘカラス然ルニ債務者已ニ債務ヲ辨濟シタルモ質物ヲ債權者ノ手ニ存シ置

キ其儘死亡シタルニ因リ相續人ハ質權者ノ手ニ質物ノ存スルコトヲ知ラザルカ如キコトアルヘシ此場合ニ於テモ質物カ存在スルヲ以テ質權ハ尙ホ行使セラレ債權ハ幾年ヲ經過スルモ時効ニ罹ラストハ爲スコトヲ得ヘカラス其質物カ存在ト債權ノ不行使ハ全ク別物ニシテ必スシモ相伴フニアラス故ニ質權行使ハ債權消滅ノ時効ヲ妨ケス債務已ニ辨濟セラレ質物尙ホ質權者ノ手ニ存スルトキハ既ニ質權ナキヲ以テ質權ノ行使ニアラス依テ債權消滅ノ時効ノ進行ハ本條ヲ俟タスシテ妨ケナシト云フコトヲ得ルトスルモ債權ニ付キ未タ辨濟ナキトキ雖モ法ノ定メタル期間ヲ經過シタルトキハ消滅時効ヲ生セサルヘカラス凡ソ時効ノ進行ヲ妨クルモノハ債權ノ行使ナリ然ルニ質物ヲ所持スルヲ以テ之ヲ債權ノ行使トハ云フコトヲ得ス故ニ時効ヲ生スヘキ時期ニ達シタルトキハ質物ノ債權者ノ手ニ存在スルヲ以テ時効ハ未タ成就スト云フヲ得ス舊法擔第四百十四條ニ於テハ質物カ質權者ノ手ニアル間ハ時効ヲ停止スルモノト爲セリ債權消滅時効ハ單ニ債權者カ其權利ヲ債務者ノ爲メニ拋棄シタルト推測スルモノトセハ其權利ヲ拋棄シタル者カ尙擔保タ

ル質物ヲ其手ニ現有スル理ナケレハ此推測ヲ生スルコトヲ得サルヘシト雖モ時効ハ推測ニ基クモノトスルモ獨リ債權者カ權利ヲ拋棄シタルトスルノミニアラスシテ已ニ正當ナル辨濟ヲ受ケタルモノナリトノ推測ニ基因スルモノナリ然ラハ正當ニ辨濟ヲ爲シタル後債務者過テ質物ヲ取戻スコトヲナス遷延シテ今日ニ至リタルヤモ知ルヘカラス然ラハ法定ノ期間ヲ經過シタル時期ニ達シタルトキハ時効ヲ生スルモノト爲サ、ルヲ得サルナリ舊法ノ草案ニ於テハ此ノ論理ニ基キ時効ノ進行ヲ妨ケサルモノトナシ新法ノ規定ト全一ナリキ

舊法擔第一百五條ニハ質物ノ占有ハ何レノ場合ニ於テモ質權者ノ爲メニ取得時効ヲ生スルモノニ非ストセリ本法ニ於テハ其明文ナシ蓋シ第九十二條第六十三條等ニ因リテ其時効ヲ生セサルコト勿論ナルヲ以テナリ取得時効ヲ生スルハ其物件ヲ自己ノ所有ナリトノ意思ヲ以テ之ヲ占有スルモノニ限ルモノナリ然ルニ債權ハ既ニ消滅シ質物ノミ質權者ノ手ニ存在スル場合ト雖モ質權者ハ質物トシテ占有スルマテニシテ決シテ所有スルノ意思ヲ

以テ占有スルモノニアラス故ニ取得時効ヲ生スルノ原因トハ爲ルコトヲ得
ヘカラサルナリ而シテ初メ質物トシテ占有ヲ有スル後他ノ原因ニ依テ所有
ト爲スノ意思ヲ生シ占有ヲナシ其意思ノ變更アリシ時ヨリ法定ノ期間ヲ經
過シタルトキ取得時効ニヨリ其所有權ヲ取得スルコトハ勿論ナリ

第三百四條 本條ハ先取特權ノ目的物カ賣却又ハ質貸セラレ若クハ滅失又ハ
毀損シ債務者之カ爲メ受クヘキ金錢其他ノ物アルトキハ之ニ對シテ先取特
權ヲ行フコトヲ得又其目的物ノ上ニ設定シタル物件ノ對價ニ付テハ特權ヲ
行フコトヲ得ルモノトセリ此規定ハ之ヲ質權ニ準用スルコトヲ得ヘシ然レ
モ質權ト先取特權トハ其趣ヲ異ニスルヲ以テ全然之ヲ適用スルコトヲ得ル
モノニアラス其中必ス通用スルルコトヲ得サルモノアルヘキナリ
質權設定者質物ヲ他ニ賣却シタルトセンニ此場合ニ於テ設定者受取ルヘキ
代價ノ上ニ質權ヲ及ボスコトヲ得ヘキカ質權者カ其質物ヲ占有スル場合ニ
於テ設定者ハ其賣却アリトテ質物ノ上ニ有スル權利ヲ滅殺セラルモノニ非
スシテ留置權ヲ有シ其質物ニ因テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘケレハ第三章ヨ

リ設定者ニ拂フヘキ金錢其他ノ物ニ對シテ質權ヲ行フノ場合ナカルヘシ然
ラハ質權設定者カ質物ヲ賣却シ質權者カ其賣却ヲ承諾シ其質物ヲ買主タル
第三者ニ渡シタル場合ニ於テ設定者カ受取ルヘキ代價ノ上ニ質權ヲ行フコ
トヲ得ルモノトスヘキカ動産質ニ付テハ此ノ場合ヲ生スルコトナシ何トナ
レハ後ニ見ル如ク動産質ニ付テハ繼續シテ物件ヲ占有スルニアラサレハ其
質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルナリ然ラハ質權者カ質物ヲ以テ
買主タル第三者ニ渡シタルトキハ質物ノ占有ヲ失フタルモノナルヲ以テ質
權ハ他ノ債權者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス既ニ質權ヲ行フコトヲ得サル
モノトセハ設定者カ第三者ヨリ受取リタル代價ハ他ノ債權者ト共全分配ス
ヘキ財産ナルヲ以テ質權アリトシテ優先權ヲ行フコトヲ得サルナリ動産ニ
關スル先取特權ハ其特權者ノ占有ヲ要セサルヲ以テ目的物ノ變更アリトス
ルモ尙ホ之ニ及ボスコトヲ得ヘシト雖モ債權ニ付テハ質權者カ質物ヲ占有
スルコトヲ要スルト同一ノ斷定ヲ下スヲ得ス
然レモ不動産質ニ至テハ必スシモ繼續占有ヲ要セス故ニ設定者カ其質物タ

ル不動産ヲ他ニ賣却シ質權者之ニ承諾ヲ爲シ其不動産ヲ買主タル第三者ニ渡スト雖モ尙ホ第三者ニ對シテ質權ヲ行使スルノ權利ヲ失ハス故ニ其代價ニ付テ質權ヲ行ヒ他ノ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキナリ權利質モ亦其繼續占有ヲ要セス故ニ設定者カ其權利ヲ以テ他ニ賣却シ目的物ノ占有ヲ質權者ノ手ヨリ分離スルモ尙ホ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ルヲ以テ代表物タル代價ノ上ニ質權ヲ行フコトヲ得ヘキナリ

先取特權ノ目的物ハ其債務者之ヲ質貸スルコトヲ得ヘシ故ニ其質貸ニヨリテ債權者ノ受クヘキ金錢其他ノ物アルモノハ之ニ對シテ特權ヲ行フコトヲ得ヘシト雖モ質物ニ付テハ質權設定者カ一方ニ質物ト爲シ他ノ一方ニ質貸ト爲スカ如キハ到底爲シ得ヘキコトニ非サルヲ以テ此規定ヲ質權ニ準用スルコトヲ得サルヤ勿論ナリ質權者ハ設定者ノ承諾ヲ得テ質貸ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ此場合ハ質權者ニ於テ質貸スルモノニシテ第三百四條ノ先取特權ノ規定ヲ準用スヘキモノニアラス

滅失又ハ毀損ニヨリテ設定者カ第三者ヨリ金錢其他ノ物ヲ受クヘキ場合アルカ質物ハ一般ノ原則ニヨリ設定者之ヲ占有スルコトヲ得ス故ニ設定者カ占有シアル内第三者ノ行爲ニヨリテ滅失又ハ毀損ヲ受ケ賠償金ヲ受クルカ如キ場合ナシト雖モ質權者若クハ其代理人ニ於テ占有シタルトキ他人其物件ヲ滅失又ハ毀損セシメタルトキハ設定者ハ所有者ナルヲ以テ其資格ニヨリ加害者ニ向テ賠償ヲ求ムルノ權アルヘシ加害者ヨリ辨濟スヘキ金額ハ即チ質物ノ代表物ナルヲ以テ質權者ハ其金額ノ上ニ優先權ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキナリ

質權者ハ其質物ノ上ニ物權ヲ設定スルコトヲ得ヘシ然レモ其場合ハ甚々僅少ナリ不動産質ニ附テハ使用收益ハ質權者ニアリ故ニ質權者以外ノ人ニ向テ地上權又ハ永小作權ヲ設定スルカ如キコト勿カルヘシ然レモ對絶ニ是等ノコトナシトスルヲ得ス設定者ト第三者トノ間ニ於テ質物ノ上ニ物權ヲ設定シ其物權ノ代價ヲ以テ質權者ニ辨濟ヲ爲シ而シテ物權ヲ得タル第三者ニ物ヲ渡スノ條件ヲ以テ設定ヲ契約スルコトアラン此場合ニ於テハ其第三者ヨリ設定者ニ渡スヘキ金錢ハ即チ質物ノ上ニ役定シタル物權ノ對價ナルヲ

以テ質權者ハ之ニ對シテ質權ヲ行使スルコトヲ得ヘキナリ
以上質權者カ先取特權ト同一ニ設定者ノ受クヘキ金錢其他ノ物ニ質權ヲ行
フヘキ場合ニ於テハ先取特權ニ於ケル如ク裁判上ノ手續キヲ爲スヲ要ス即
チ第三者カ未タ金錢ヲ設定者ニ支拂ハサル前其第三者ニ對シテ拂渡ノ差押
ヲ爲スコトニ必要ナリトス若シ之ヲ爲サ、ルトキハ其金錢其他ノモノハ債
權者ノ財産中ニ在テ債權者ノ共同擔保ト爲リ債權者獨リ之ヲ專ラニスルコ
トヲ得サルナリ

物 權 編

第三百五十一條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質

權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ

對シテ求償權ヲ有ス

本條ハ債務者ノ爲メニ第三者質權ヲ設定シ其結果第三者ニ於テ出捐ヲ爲シ債

務者カ爲メニ義務ヲ免レタル場合ニ於テ其第三者ノ權利ヲ規定セリ舊法擔保第

百二十七條質權ハ必スシモ債務者本人ヨリ之ヲ設定スルニ限ラス債務者以外ノ
人ヨリ質物ヲ供シ以テ質權ヲ設定スルコトアルモノナルコトハ第三百四十二

物 權 編

條ニ於テ之ヲ述ヘタリ已ニ其質權カ設定セラレタル上ハ質物カ債務者ノ所有
ナルト第三者ノ所有ナルトヲ問ハス其質權ノ效力ニ至テハ毫モ異ナルコトナ
シ故ニ質物ヲ供シタル第三者ハ債務者カ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ代テ辨濟ヲ爲
シテ以テ物件ヲシテ質權ノ負擔ヲ免レシムルカ又ハ質權者ノ爲スニ任セ其物
件ヲ賣却シ若クハ辨濟ニ充テル等結局質權ノ實行ニヨリ質物ノ所有權ヲ失フ
ニ至ルカ此ニ途ニ出ツルノ外ナキナリ斯ク辨濟ヲ爲シ又所有權ヲ失フタルト
キハ債務者ハ之カ爲メニ義務ヲ免ル、ヲ以テ第三者ニ對シテ償還スルノ義務
アリ故ニ第三者ハ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス而シテ其第三者ハ其身ニ義務
ヲ負フモノニ非スト雖モ他人ノ債務ノ爲メニ出捐ヲ爲シタルノ點ニ付テハ恰
モ保證人カ主タル債務者ニ代リテ辨濟ヲ爲シタルト同一ナリ故ニ債務者ニ對
シテ求償權ヲ行フニハ保證債務ニ干スル規定ニ從ハシム
今茲ニ保證債務ノ規定ニシテ質物ヲ供シタル第三者ニ準用スヘキモノ、二三
ヲ舉示セントス

凡ソ質物又ハ抵當物ヲ供シタル第三者ハ之ヲ供物保證人ト稱シ質權又ハ抵當

ヲ設定スルニ付キ債權者ト契約スルモノニハ相違ナキモ其契約ヲ爲シタリトテ身ニ義務ヲ負擔スルモノニ非ス設定ノ後テ質權若クハ抵當ノ目的物カ滅失シタリトセンニ債權者ハ設定者ニ對シテ何等ノ訴權ナシ是レ設定者タル第三者ハ質權又ハ抵當ヲ以テ擔保シタリシ債務ノ辨濟ニ付キ義務ヲ負ハサルノ證ナリ設定者ハ動産若クハ不動産ノ上ニ一個ノ物權ヲ設定シタルマテナリ故ニ義務ヲ負擔スルモノハ乃チ其物件ナリ之ニ反シ保證人ハ其身ニ債務辨濟ノ義務ヲ負擔スルヲ以テ或ハ義務ノ目的体様ニ付キ主タル債務ヨリ重キコトアリ第四百四十七條ト雖モ供物保證ニ付テ是等ノ場合アルコトナシ無能力ニヨリテ取消スコトヲ得ヘキ債務ノ爲メニ質物ヲ供シタル第三者ハ其無能力ナルコトヲ知ラスシテ質物ヲ供シタル場合ハ之ヲ原因ト爲シテ質ノ無効ヲ請求スルコトヲ得ヘシ蓋シ第三者ハ身ニ債務ヲ負擔スルモノニアラスシテ負擔ハ一ニ其物ニ在リト雖モ負擔スヘカラサル負擔カ自己ノ所有物ノ上ニ在ルヲ以テ所有者トシテ之ヲ排除スルノ權アルコト勿論ナレハ自カラ起テ質權ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ設定ノ當時其取消ノ原因ヲ知リタルトキ

物 權 編

モ保證人ノ如ク獨立シテ債務ヲ負擔スルモノニアラス第四百四十八條 固ヨリ第三者ハ債務ヲ負擔スルモノニ非サルヲ以テ實際其取消ノ原因ヲ知リタルトキト雖モ之ヲ以テ自カラ債務者ニ代リ債務ヲ負擔スルノ意思アリトハ推定スルヲ得ス

物 權 編

保證人ニ付テハ債權者ヨリ債務ノ履行ノ請求ヲ受ケタルトキハ債權者ニ向テ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得又債權者ヲシテ先ツ主タル債務者ノ財産ニ付テ執行ヲ爲サシムルノ規定アリ第四百五十二條 質物ヲ供シタル第三者ハ保證人ニ類似スルト雖モ此點ニ於テ保證人ト同一ノ權利ヲ有スルモノニ非ス債權者カ質物ヲ處分セントスルニ當リ先ツ債務者ニ催告ヲ爲シ且ツ債務者ノ財産ニ付キ先ツ執行スヘシト請求スルカ如キハ質權ノ性質ニ悖ルモノナリ質權ハ直チニ其質物ニ依テ辨濟ヲ受クルコトヲ目的トスルモノナリ然ルニ供物者ヲシテ保證人ト同一ノ權利ヲ有セシムルモノトスレハ是レ物權ト人權トヲ混同スルモノニシテ質權ハ其質物ノ上ニ有スル物權ナルヲ以テ直チニ之ヲ行コトヲ得サルヘカラサルナリ

物 權 編

數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ保證ヲ約シタルトキト雖モ第四百二十七條ノ規定ニ從ヒ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔ス故ニ三百圓ノ債務ニ付キ三人ノ保證人アリタルトキハ各保證人ハ壹百圓宛ヲ負擔スルモノトス但シ別段ノ意思表示アルトキハ此限リニ在ス供物保證人ナル第三者ニ付テハ同一ナル論定ヲ下スコトヲ得ルカ例ヘハ甲者ハ乙者ヨリ三百圓ヲ借り丙者丁者戊者ノ三名ハ各自ノ所有タル各二百圓ノ價額アル物件一個ツ、ヲ甲者ノ爲メニ質物ト爲シタリトセンニ甲者債務ヲ辨濟セサルニ因リ乙者ナル質權者カ其質物ニヨリテ辨濟ヲ受ケントスルキハ其質物タル三個ノ物件ノ内自己ノ撰擇ヲ以テ何レノ物件ヲ以テ辨濟ヲ受クルモ差支ナキモノナルカ將タ丙丁戊ノ三者ハ質權者ニ對シテ各自ヨリ供シタル各質物ニ付キ百圓宛ノ辨濟ヲ爲スヘシト請求センコトヲ得ルモノナルカ抑モ質權ハ不可分ノモノナリ

第二百九十六條ニ物上擔保ニ干スル不可分ノ原則ヲ掲ケ物上擔保權ヲ有スル者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ其擔保物ノ全部ニ付キ權利ヲ行フコトヲ得ルモノトセリ今三名ノ第三者各自ノ供シタル各質物ニ付キ百圓宛ノ辨濟

物 權 編

ヲ爲サシムルトスルモ質權者ニ對スル擔保ノ點ニ於テ損害ナキカ如シト雖モ若シ其内ノ一物件カ天災ニ因リテ滅失シタリトセンカ平等分別ヲ許セハ不可分ノ原則ニ背キ質權者ノ殘ル所ノ二個ノ物件ニ付キ權利ノ全部ヲ行フコトヲ得サルニ至ラン左スレハ三名ノ第三者カ分擔ヲ求ムルハ即チ質權ヲ分タントスルモノナリ普通保證人ハ平等ニ債務ヲ負擔スルヲ以テ原則ト爲スカ故ニ其内一人カ無資力トナリタリトテ之カ爲メ他ノ一人ハ義務ヲ負擔スルニ非ス然レモ質物ニ付テハ此不可分ノ原則ヨリシテ保證人ト全一ナリト云フヲ得ス故ニ債權者ハ其質物タル三個ノ内一若クハ二ヲ以テ全部ノ辨濟ニ充テルヲ得ルモノト云ハサル可カラス

前例ニ於テ丙丁戊者ノ内債權者ハ丙丁ヨリ供シタル二個ノ質物ヲ賣却シ四百圓ヲ得テ其内ヨリ三百圓ノ辨濟ヲ受ケタリトセンカ戊者ノ供シタル質物ハ之カ爲メ負擔ヲ免レ歸スル所丙丁ノ損失ヲ以テ戊者之ヲ利スルニ至リタリ然レモ此場合ニ於テ丙丁二者ハ債務者ニ向テ償還ヲ要求シ以テ自己ノ損失ヲ償フコトヲ得ヘケレハ戊者ニ向テ償還ヲ要求スルコトナシ然レモ若シ債務者無資力

ナルトキハ丙丁カ損失ニ付成者ニ對シテ償還ヲ要求スルヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テハ不可分ノ爲メニ妨ケラル、コトナシ而シテ此ノ償還要求ヲ爲スニ付キ代位ノトハ後ニ之ヲ見ントス

主タル債務者ニ對シテ時効ノ中斷アリタルトキハ保證人ニ對シテモ亦時効ノ中斷アルモノトス第四百五十七條 質物ヲ供シタル第三者ニ對シテハ時効中斷ノコトハ之ヲ云々スルヲ要セス若シ保證人ハ身ニ人權ヲ負擔スルヲ以テ保證人ニ對シテ特別ニ債權消滅スルヲ以テ此規定ヲ要スルト雖モ供物保證人ニ付テハ債務ニ對スル時効ノ外ニ別ニ時効アルコトナシ又其質物ニ付キ債權者カ取得時効ヲ得ル場合ナケレハ中斷ノコトヲ云々スルコトヲ要セサルナリ

保證人ハ主タル債務者ノ債權ニ因リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス第四百五十七條 供物保證人ニ付テモ亦全一ノ斷定ヲ下スコトヲ得ルカ例ヘハ三百圓ノ債務ノ爲メニ質物ヲ供シタル者其債權者ニ對シテ己レモ亦三百圓ノ債權ヲ有スルモノトセンニ此場合ニ於テ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得ルカ相殺ハ第五百五條ノ原則ニ因リ二人相互ニ同種ノ義務ヲ負擔スル場合ニ行ハ

物 權 編

物 權 編

ルモノナリ然ルニ供物保證人ハ債務ヲ負フモノニアラサルヲ以テ相殺ヲ主張スルコトヲ得ス又債務者カ債權者ニ對シ債權ヲ有スル場合ト雖モ保證人ノ如ク相殺ヲ以テ對抗スルヲ得ス何トナレハ身自カラ債務ヲ負擔スルモノニ非ラサルヲ以テ相殺ヲ爲サント欲スルモ能ハサレハナリ
以上ニ述ヘタル如ク保證人ノ求償權ニ干スル以外ノ規定ハ之ヲ供物保證人ニ準用スルコトヲ得ス即チ第三百五十一條ニ云ヘル如ク求償權ニ干シテノミ保證人ノ規定ニ從フモノトス今此求償權ヲ見ルニハ保證人ニ於ケルカ如ク債務者ノ委托ヲ受ケタル場合ト委托ヲ受ケスシテ質物ヲ供シタル場合トヲ區別シテ之ヲ講究スルヲ便ナリトス

第一 債務者ノ委托ヲ受ケ第三者ヨリ質物ヲ供シタル場合
主タル債務者ノ委托ヲ受ケ保證ヲ爲シタル者債權者ニ辨濟ヲ爲スヘキ裁判言渡ヲ受ケ又ハ主タル債務者ニ代リテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシメタルトキハ其保證人ハ主タル債務者ニ對シ求償權ヲ有ス第四百五十九條 此點ニ於テハ質物ヲ供シタル第三者モ保證人ト同一ノ求償權ヲ有ス

物 權 編

故ニ第三者カ供シタル質物ニ因テ債務ヲ辨濟シ若クハ其他ノ行爲ヲ以テ義務ヲ消滅セシメ而シテ之カ爲メ第三者ハ出捐ヲ爲シタルトキハ債務者ハ第三者ノ損失ニ依リテ己レヲ利益シタルモノナリ故ニ第三者ノ損失ト爲ルヘキ部分ハ債務者ヨリ之ヲ償ハサル可ラス依テ第三者ハ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス而シテ此求償權ハ委任ニ基クモノナルヲ以テ第三者ノ出捐ニヨリ債務者カ利益シタル程度如何ハ之ヲ問フヲ要セス凡テ第三者カ損失ト爲ルヘキモノハ債務者ヲシテ償ハシムルコトヲ得ヘシ

債務者ノ委託ヲ受ケ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ債務カ辨濟期ニ在ルトキ又債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且其最長期ヲモ知ルコト能ハサル場合ニ於テ十年ヲ經過シタルトキハ主タル債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ有スルモノトス第四百六十四條質物ヲ供シタル第三者ハ此規定ニ從テ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得ルモノナルカ佛國ノ判決例ニ於テハ供物保證人ニ此求償權アリト爲セリ學者之ヲ非難シテ特例ヲ法律ノ明文外ニ適用シタルモノナリト云フ蓋シ彼ノ法典ニ在リテハ此求償權ハ保證人ニ付テノ

物 權 編

ミ規定シタルモノナルヲ以テ解釋上之ヲ擴張シテ他ニ及ホスコトヲ得スト云フニ在リ然レモ我法典第三百五十一條ニ於テハ質物ヲ供シタル第三者ハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ストアリテ保證人ニ付テ定メタル求償ノ規則ハ悉ク之ヲ準用スルモノト解スルコトヲ得ヘキヲ以テ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得ヘキモノト云ハサルヲ得サルナリ然レモ保證人ニ於ケルト少シク異ナル場合ナキニ非ス保證人ニ在テハ其主タル債權額及ヒ之ニ附屬セル所ノ利息ヲ賠償セシムルヲ以テ賠償額ニ於テ別ニ難事ナシト雖モ質物ハ債權ノ額ヨリ其價額大ナルヲ以テ常トスルモ又之ニ反シテ債權ノ額ヨリ少額ナル質物ヲ以テ擔保セル場合ナキニシモアラス若シ第三者カ債權額ヨリ少額ナル質物ヲ供シタル場合ニ於テ后日其質權ノ實行ニヨリ質物ノ所有權ヲ失フニ至ルモ其損失額ハ債權額ト均シカラス故ニ豫メ求償ヲ爲ス場合ニ於テハ債務ノ全部ニ對スル金額ヲ償還セシムルコトヲ得サル可シ依テ其質物相當ノ價額ヲ請求スルニ止マラサルヲ得サルナリ而シテ其價額如何ヲ見ルニハ質物ノ價額ヲ評價シテ以テ之ヲ定ムルノ外ナキ

ナリ

前述ノ如ク債務者カ供物保證人ニ對シ賠償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ未タ全部ノ辨濟ヲ受ケサルコトアリ又毫モ辨濟ヲ受ケサルコトアリ然ルニ債務者ヨリ保證人ニ向テ賠償ヲ爲シ其物件カ天災等ニヨリテ消滅シタルトキハ債務者ハ何等ノ利益ヲ受ケスシテ却テ供物保證人ニ利益ヲ爲シタルモノト云フヘシ何トナレハ債權者ハ其質物ノ消滅セルニ拘ハラズ債務者ニ向テ全部ノ請求ヲ爲スモノナレハナリ此ノ損失ヲ豫防スル爲メ普通保證人ニ付キ定メタル第四百六十一條ハ總テ之ヲ準用スルコトヲ得ヘシ

第二 債務者ノ委託ヲ受ケスシテ質物ヲ供シタル場合

委託ヲ受ケスシテ保證ヲ爲シタル者辨濟ヲ爲シ其他ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ責ヲ免ラシメタルキハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス債務者ノ意ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ現ニ利益ヲ受クヘキ限度ニ於テ求償權ヲ有ス第四百六十二條此普通保證人ニ干スル規定ハ之ヲ供物保證人ニ準用スルコトヲ得ヘシ第三百カ債務者ノ委託ヲ受クル

編 權 物

ニアラス又債務者ノ意ニ反シテ質物ヲ供シタルトキハ即チ事務管理ヲ爲シタルモノナリ故ニ其質物ヲ供シタルノ結果質物ノ所有權ヲ失フニ至リタルトキハ事務管理ノ原則ニ依リ其管理アリタルカ爲メ受ケタル利益丈ケ債務者ヨリ第三者ニ償還スヘシ法律ハ保證人ニ付テ債務者ノ知ラサルニ爲シタル場合ト意ニ反シテ爲シタル場合トニ依リ賠償額ヲ區別セリ其區別ハ供物第三百ニ付テモ亦全一ナラザルヘカラス故ニ此二個ノ場合ニ於テ第三者ノ有スル求償權ハ其範圍ヲ異ニス

保證人カ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルマテ主タル債務者ニ通知セスシテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ免責ヲ得タル場合ニ於テ主タル債務者カ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有セントキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得第四百六十三條此規定ハ之ヲ質物ヲ供シタル第三者ニ準用スルコトヲ得ルカ此規定モ亦第三者カ債務者ニ對シテ有スル求償權ノ範圍ヲ定ムルモノナルヲ以テ之ヲ準用スルコトヲ得ヘシ若シ質權ヲ實行スル爲メ債權者ヨリ供物保證人ニ向テ其實行ヲ爲スコトヲ通知シタルトキ之ヲ債務者

編 權 物